十七、地權平均の具體的說明

—民國元年六月九日議員及新聞記者に對する演說—

現今民國は建設に力を注ぎつつあるが、其中最も重要なのは財政であり、財政收入の中最も重要なのは稅收である。世界の學者は單稅法を發明した。此の稅法は元、採用して可なるものであるが、只事改革に關する以上、當に大多數輿論の贊同を得て、始めて着手し得るのである。國家の稅には種々あり、收稅機關の數も頗る多く且つ繁雜であつて、厘金關局等に要する費用も尠からざるものであり、之による流弊も種々發生して居る。故に此際寧ろ土地徵稅法を實施する方が比較的簡單である。此の方法が余の所謂地權平均の方法なのである。稅法が繁雜であることは民の怨みを招き易い、滿情の入關當時、彼等は地丁錢粮(地租、人頭稅、租稅)の徵收を決定した。其法たるや簡單なものであつたが、民は皆之を畏れた。然るに其の末年に至つては更に愈々繁雜なものとなつて了つた。

我國の習慣によれば單稅法を喜び、只だ上中下の三等に分ち、稅率を確定してゐない爲に、頗る不公平なものとなつてゐる。廣東省の土地に就いて言ふならば、長堤は一畝の地價が數萬元であ

り、鄉村に於ける上地一畝の地價は數百元であるが、此等が同じく上稅を納むるのであるから、頗る不公平な譯である。だから寧ろ土地に關しては從價徵稅法を實施する方が上策である。現今世界に於ても此の方法を採用してゐる國が多い。英國の如きも先年此の案を提案して議會を通過した。只徵收額の多少は各國により同一でない。或ものは二百四十分の一を徵收し、又或ものは百分の一を徵收してゐる。然し徵收額の多少に係はらず、從價徵稅法によることが最も公平であり得るのである。革命は多數人の幸福の爲に爲されるものである。夫れが若し此點に於て不公平であつたならば、多數人の幸福を招來する目的は到達し得ない譯である。我が民國は地廣く人も亦多いから、今に於て能く治理するならば絕大なる希望を抱き得る。然るに若し之が根本的解決を爲さなかつたならば、到底目的の彼岸には到り得ないであらう。余は曾つて地權の平均を以て往昔に於ける井田の法なりと爲す者の有ることを述べたが、此說を爲す者は地質に高低があり、面積のみによる均分が、決して公平とはならないものであることを知らないのである。昨日工務司の余に語つた所によれば、電車の敷設計畫を發表すると、其地方の地價は非常に騰貴するそうである。之を以て見ても地價は社會の進步に伴つて高騰するものであることが知られる。而も其の高騰による利益は少數人のみが享受するのである。倫敦紐育等の地價は其の發展以前に比すれ

ば、五六萬倍に騰貴した。今一人の中國人が百畝の土地を有し、其の地價は僅に一萬元であるとして、之が頓に五六百萬元に騰貴すれば、其の所有者は忽ち大資本家になり、更に此の資本を聚めて高價な地を壟斷すれば、竟には社會の死命をも制し得るに至るであらう。

又將來は資本家と勞働者との、二つの異つた階級が出來るであらうから、今にして之を防がなければ必ず弊害を釀成するであらう。更に一般財政難をも公債を募集することに依つて救濟しなければならない。借款の法は一時の辨法として結構なものであるから、速に此の方法による救濟策を講ずる必要がある。昨日都督から省議會に土地買賣讓渡に伴ふ登記稅徵收法を交付したが、惟ふに地稅の確定、從價徵稅等のことは單稅法を行ふことなのである。土地は自然物であつて人爲的なものでは無いから、之に課稅するのは至當であり、又之によれば他の一切の稅から免れ得るのである。次に稅金は土地の原價に對して課すのであつて、其の上に築造せられた建築等の人爲物の價格に對しては課稅しないのである。であるから此間に得られる利益は一、土地の荒廢を免れ二、人工の進步を奬勵し三、資本家の土地壟斷の弊をも免れ得る。

次に徵稅額は百分の一とし、地價の決定に當つては國家は其の決定された價格によつて、隨時其の土地を買收し得るてふ一つの條件を附して、報告價格を低廉ならしめない樣にするのである。

斯樣にすれば國家は必ず將來種々なる場合、例へば地方の發達を計り、又は省城を擴張して種々なる建設を爲さんとする如き場合にも、其の土地の買收に當つて、買取り價格決定の煩雜さから免れ得るであらう。世界の學者は多くは土地の國有を主張する。其理たるや誠に正大であつて、採つて以て實行するも可なりであるが、强ち盡くの土地を國有とする必要は無いのであつて、公用に供する必要ある土地のみを國有とすれば足りるのである。之に對し、國家が其土地を買收せんとする場合、地主は損害を受くることになるから、反對するであらうと言ふ者が有るが、余はそうは思はない。公平な地價を決定して置きさへすれば、地主としては損失を蒙らないばかりか、却つて利益を得るのである。前述の通り工務司が電車用地と指定すれば其の地價は十倍に高騰するとのことであるが、此種の價格は虛實であるから、此の虛價に依つて實利を獲れば、之に越したことはないではないか。又國家とても之を公有として置いて、其地が將來幾百千倍に高騰すれば巨額の利益を得る譯である。

以上述べた所は民生主義社會主義の特色の一端であるが、今にして實施しなければ後來如何とも爲し難きに至るであらう。地稅の徵收に至つては國家が一大業主となるものであつて、人民の爲に國家が巨富を所有し、以て國利民福を圖るものである。英米先進國の如き立憲政治國に於て

すら、富人のみ政治の惠澤に與り、貧民は關與し得ないのであるが、此法を行へば貧富共に幸福を享受せざる者無きに至るのである。今日政體改革の時に當つて、能く絶大なる建設を爲し得れば、先づ之を廣東に於て爲すべきであつて、建設の成功は政體の改革に比して更に遠大なる事業である。代議士諸君の切實なる討論と、記者諸士の熱心なる鼓吹とにより、若し能く之が實現を見得たならば只單に廣東のみの幸福ではないであらう。

十八、民生主義に四大綱あり

—民國元年十二月十八日杭州國民公所特別歡迎大會にて—

余は偶々武林に到り、六橋三竺に遊んで、玆に諸君に見ゆることを得たのは、欣幸に耐へない。蓋し今日の日有るを得る所以は、中華民國の成立によるものである。指を屈すれば清帝退位以來已に一周年、我四億の同胞は漸く雲霧を排して青天を見ることを得たが、今後の事を思へば實に程遠しの感無きを得ない。破壞は容易であるが建設は煩雜且つ困難である。去歲滿清政府を覆滅したのは、一軒の腐朽せる家屋を撤壞したと同樣である。除舊更新の事は皆人民各自の力に待たなければならない。然るに已に一年を經過せる今日、未だに新屋の落成を見ないのは、何故であ

るか。之れ人民が共和の原理を知らないことに因るのである。即ち識者は固循靜觀し、愚者は徒に隨波逐流するに過ぎない。國家は爾今民の所有たることを諸君は、知らなければならない。そして人皆が其の義務を盡して同心協力したならば、將來必ずや總ての人々が幸福を享くるに至るであらう。然らずして今の時に於て國基を鞏固ならしむべく努力しなかつたならば、將來の幸福は決して望み得ないのである。然るに農人野老は大義に通曉せず、彼等の間には革命後に於ては直ちに自由となり、納稅の必要もなくなるであらうと言ふ樣な考へを持つてゐる者さへあるが、夫れでは中央の財政は其の財源を失ふではないか。故に此點については各地方々々に於て夫々指導啓發する必要があるのである。

次に民生主義に就て述ぶれば、之には四つの大綱がある。即ち資本に就いて述ぶれば、已に國內は安定したが、貧窮なることに於て何等以前と變りはない。只幸なることに我國には未だ數億の巨財を有する樣な特別な資本家は存在してゐない。現在では政府人民共に貧窮であつて、資本家による不平等の弊害はない。歐米には已に此種弊害が存在してゐる。我國に於ては國民は富豪の壓制を受くる樣なことはないから、各自が自己夫々の生活を謀つて行けばよい譯である。

次に土地に就て述ぶれば、土地は人の生存に最重要なものであつて、飛鳥魚族で無い限り、土

地が無ければ生存することは出來ない。往時の英國に於ては百餘年の間、人民は土地による苦しみを受けた。夫れは富める者が廣大な土地を私有し、貧者の使用を制限したからであつた。余は昨年南京の臨時政府が成立するや、先づ土地問題を解決せんと謀つた。國家の徴稅の如きも地積に比例して徴收するのは不可である。上海に於ける英國租界の表通りの如きは、每畝の地價四五十萬元であるが、地方に於ては每畝五元から十元內外であつて、其間相去ること雲壤の差があるのである。故に地價を標準として徴收するのが最も公平である。此事のみでも實行し得れば、民間に於て受くる利益は尠からざるものがあるだらう。

次は鐵道問題である。現今我國の鐵道は次第に敷設されつつあるが、元、此のことは大事業であるから、余は鐵道の國有を主張する。知らない者は營利會社に經營せしむべきであると考へてゐるが、斯くては其權利を國家に於て操り得ない嫌ひがある。且つ國が民のものとなつた今日に於ては、國有卽民有となるのである。之に反し國有とせずして、譬へば其の省の大資本家が該省の鐵道を買收したとすれば、其の資本家は此の大なる利權を獨裁し、商業を壟斷するに至るであらうし、之が爲に國民の受くる影響は非常なものであらう。更に教育問題の如きも、我國は自ら文物の國と稱してゐるが、教育を受けた男子は十分の六、女子に至つて十分の三に過ぎない有樣

であり、其間には志有るも資力の無い者が頗る多いのである。之は何故であるかと言ふに、國家教育が普及してゐないからである。

以上種々なる缺點も、根本は國體の全からざるによるのであつて、從前に於ては其の責任は君主にあつたが、現在では其の責は人民に在るのである。我同胞は此間に在つて須く三思熟考し、是とする所に向つて大いに努力しなければならない。

十九、建設は學問を以て

—民國元年嶺南大學の歡迎會にて—

今日貴校の諸君が余の爲に歡迎會を開催されたことは欣謝に耐へない。

多數の諸君が本校に在つて勉學の道に精進されつつあるのを見て、余は頓に余の少年時代のことを思出した。余は幼年の頃村塾に於て業を學び僅に智識を得たに過ぎなかつたが、其後數年ならずして布哇に渡り、同地の西洋人の學校に入學し、其の教授方法の善良なること遙に余の故鄕のものに勝つてゐることを知つた。故に余は課業の餘暇常に同國の各同窓學生等と胸中を談じ、斯くて余の祖國を改良し、同胞を救はんとする希願は自然余の腦裏に萌芽するに至つたのであ

る。即ち當時余は我が國人をして皆其の苦難より免れしめ、幸福なる生活を享受せしめんとしたのであるが、其後數年を經て歸國し、廣東の博濟醫學校に入學し、貴校の廖德山等と共に學び、僅に一年にして又轉じて香港の雅利士醫學校(「ホンコン・メディカル・スクール」)に入り、斯くて五年、醫を以て救人の術となしたのであるが、其後醫術を以て救ひ得る者は或る限定されたる範圍のみであることを思ひ、其他の慈善事業も同樣なるを以て、最大なる權力を有する政治によつて救人のことを企圖するに至つた。而して政治の勢力を以てすれば大善を爲し得ると同樣、大惡を爲すことも可能であつて、我が國民が當時艱苦を嘗めつつあつた原因は、皆不良なる政治の爲なりしに想到し、此の惡劣なる政府を鋤去して救國救人の實績を收めんとし、遂に余の心中に革命思想が高潮するに至つた。惜い哉、當時は附和する者が少く、前後數年を通じて同心協力し得た者は十人に過ぎなかつた。而も此の十人を得て日々籌畫し、日々進行して怠らず、甲午日清の役後、政學各界の人士が憤悲するや、余等は此の潮流に乘じて遂に廣州に擧兵した。次で其の失敗後、外國に在つて畫策し、屢々蹶起したが、昨年八月武漢に事を起すや、半載ならずして大成功を告ぐるに至つた。之れ固より天の中國を絶つを欲せざるによるものである。然し之を以て余の從前の希願の全部を達し得たものなりやと言ふに、斷じて然らずである。千分の一をも未だ達

し得ないのである。今日の成功は余等の障礙物たる一つの劣惡なる政府を打倒し得たに過ぎない。然らば今後の建設萬端の事は何人に待つて處理さるべきであるか。此事を爲す者こそ、諸君等學生でなければならない。凡そ國家の强弱は其國の學生の程度を以て知り得るものである。余は從前革命に力を致し、讀書向學の暇無く、每日一二時間を醫術に費し、革命に從事した時間は日々實に七八時間の多きに達した爲に、學業は遂に荒び、今となつては徒に春秋に乏しきを憾むのみである。今學生諸君を見て羨望の念に耐へず、益々學問に非ざれば以て建設すべき無きを思ふこと切なるものがある。之を道路の開鑿に譬ふれば余は荊を披き棘を斬る者で、諸君等は橋梁を架し石をたたむ者であるから、諸君の責任の重きこと、遙に余に過ぐるものがあるのである。而して肩責の道は他無し、勉めて學問を求め、道德を琢磨し、以て人羣を啓發し愚者を明に、弱者を强く、苦しむ者は之をして樂しましむれば足りるのである。生存競爭の義は既に舊說となり、今や人類の進化は相互扶助によるべきであり、然らざれば自存を圖り難い狀態である。若し諸君にして力行の志が有れば、余の初志は諸君によつて達せられ、共和の新國も亦諸君によつて存するであらう。之余が厚く諸君に望む所である。

二十、建設の二大要務

—民國元年十一月五日安慶に於て—

現在中華民國が成立し、我が四億の同胞は世界革命の潮流に應じて同心協力し、數千年來の專制政體を數ケ月ならずして傾覆し、共和政體に改造することを得た。卽ち武漢の擧兵より今日に至る迄、僅に一年に過ぎないが、中華民國は儼然として完全に成立するに至つたのである。之れは世界革命史上未曾有の事であり、中華民國革命史の一大特色とす可きものである。然し破壞の事は終つたが、建設は漸く其緒に就かんとしつつあるに過ぎないから、此際同胞各位の同心協力して善處されんことを熱望する次第である。惟ふに建設の事は次の二大事項に分ち得るものである。卽ち一つは興利、二は除害である。除くべき弊害は甚多いが、最も緊急なものは禁烟である。

現在最眞摯に禁烟に努めつつあるのは貴省であらう。貴省の都督は先般阿片を燒燬したが、其の處置たるや眞に當を得たものであつた。之に對し英國領事は奸商の使嗾を受け、軍艦二艘を貴省に派遣して理由無き干涉をなしたが、貴省都督の外交手段により無事解決することを得た。之れは政體の改革により、人民の國家觀念が熾烈となつた結果であつて、淸朝時代と異り、上下の

隔てが無いから初めて此の良結果を收め得たのである。余の此言を信じない者は淸朝時代のことを回憶するがよい。外交は一として失敗しなかつたものは無いではないか。貴省の都督が初め阿片を燒いた時、人は皆貴省の爲に之を憂へた。淸の道光年間、林則徐が烟土を燒却したため、大禍を釀起した事に想到したからである。然し之れは中華民國官吏と淸朝官吏との差異を知らないものである。淸朝官吏の烟土燒却は、條約に根據せず、公理を知らない野蠻な行動であつて、當時は人心離散し、政府は官吏を顧みず、官吏は人民を顧みず、人民も亦國家の何物たるかを知らない樣な狀態であつた。此の故に外交も失敗したのであるが、現在中華民國に在つては、人民官吏政府共に皆其の痛癢を感ずる點に於て相關干係を有し、且つ貴省都督の阿片燒燬も條約に根據を有するものであつた爲に、其の外交は失敗するに至らなかつたのである。實に貴省の禁烟方法は各省の模範とするに足るものである。

利を興す可き事も亦頗る多いが、最も重要なものを擧ぐれば、鐵道の敷設、礦物の採掘、農業の振興、工藝の改良等の數項である。更に實業を發達せしめんとせば、門戸開放主義を採擇すべきである。何を以て門戸開放主義と呼ぶか。之れは外國人が我が中國に來つて商工等の各業に從事することを許可することである。余が斯く論ずれば知らない者は必ず疑惑を感じ、我が中國の

土地に何故に外國人の自由進出を許可するのかと疑ふであらう。此等の主張は名付けて閉關主義と呼ぶものであつて、清朝の利用したものである。滿洲政府の專制治下に於ては、其の政府は人民が國家思想を有するに至ることを最も怕れ、滿廷永遠の存立を確保せんが爲に、閉關主義を採用して外人の入國を許可せず、人民に一國卽天下なる思想を抱有せしめて、自然國家觀念の發生を防ぎ、皇帝の地位に對して何人も干涉せさらしめんとした。其後外人は中國に來つて通商し、商埠を闢き、租界を劃定するに至つたが、此等は決して清政府が歡迎したからではなく、外國人が强迫した結果である。然るに現在中華民國の國民は皆國家思想を有し、同心協力して領土の保全と主權の擁護とに當りつつあるから、外人の入國は何等の支障を來さないのである。況んや開放主義は中國の古代に於て既に實行されたものであつて、唐の最盛時代、各外國は數萬の留學生を中國に派遣して求學せしめ、伊太利、土耳其、波斯、日本等は皆此の類であつた。其の當時、外國人で中國に來る者に對して、中國人は決して反對しなかつた。卽ち文明の最高潮に在つた當時の中國は、上下皆開放主義の有利無弊なることを知つてゐたのである。現在中華民國は清朝を覆して改めて共和政體となつた。そして共和政體は地球上に於ける第一最良の政體と言ふべきものであるから、我々は實に幸福であると言はなければならない。只諸君は革命事業が未だ完成され

てゐないことを知らなければならない。現在已に全國民が幸福を享受し得てゐるであらうか。眼を海內に致せば、働くに職無く、飢寒交々迫る如き同胞が到る處に滿ちてゐるではないか。吾人は彼等を顧みずして只自己の幸福のみを冀ふに忍びない。彼等を放置して自己の幸福をのみ圖るが如き事は到底長く續き得ないことであつて、永く文明の利澤を享けんとせば、必ず先づ全國の總ての同胞に恆業を與へ、飢寒に號泣する者を救助しなければならない。而して此の目的を達せんとせば鐵道の敷設、礦山の採掘、農林商工の振興等の各大事業を實施しなければならない。そして此等の大事業を爲さんとせば、必ず先づ偉大なる度量を以て、意見なる二字を抹殺銷滅せしめなければならない。

諸君試に看よ。日本は其の國土は我が中國の二省の大さに過ぎず、人口も我が中國の二省と大差なく、四十年以前迄は只一個の最小、最窮、最弱なる國家に過ぎなかつた。然るに明治維新後、四十年間にして、儼然列强と稱せらるるに至つた。全世界に能く列强と稱せらるるものは六七ケ國に過ぎない。而も日本が此等六七ケ國中の一國となり得たのである。彼等は果して如何なる方法を用ひて此の結果を收め得たかと言ふに、之れ他無し、門戶開放主義を採用したのである。我が中華民國の國土は日本に二十倍し、人口も亦其の二十倍に達してゐる。今若し日本の方法に倣

ひ、開放主義を採用したならば、數年ならずして我國は日本に十倍する富强を致し得るであらう。又我が中國は古く四千餘年の文明を有し、人民も四千餘年來の道德と教育とを受けてゐる。卽ち固有の道德と文明とを以てすれば、我が國人は外國人に比して、一日の長ありと言ひ得るのであるが、物質文明に至つては惜い哉、外國人に及ばない點が多々あるのである。農工等の各實業皆然りであつて、兵器の如きも、我國に於て從來使用し來つた弓箭刀槍等は皆現代の戰爭には用ひ得ないもののみである。試に問ふ。現時の戰に外國の銃器大砲等を使用せずして勝利を望み得るや否や。吾人は旣に西法を採用した以上、外國人の才を借用せざる能はざるものである。若し他國の人才を借用しないとすれば、我が中國は先づ十萬の留學生を各國に派遣する必要がある。而して彼等は少くとも十箇年間留學するを要し、然る後初めて歸國後各種の建設事業に當り得るであらう。然らば現在我國が此の十萬人の留學に用ゆる經費を支出し得るや否や、十ヶ年後始めて之を開始して不可無きや否や。旣に經費を支出し得ず、十ヶ年間待ち得ざるものなれば、吾人は開放主義の採用を以て、至上の方法なりとせざるを得ないではないか。

吾人が中國に於て事業を興さうと思へば資本が無ければ外資を借り、人才が無ければ外國の人才を用ひ、我國の方法にして不可なれば、外國の方法を用ひなければならない。物質文明に關す

る限り、外國は二三百年の工夫を積んで漸く今日の結果を得たものであつて、吾人が彼等の文明を採用した結果の便不便は各人周知の事である。斯樣にすれば我國の物質文明も、數年を出でずして外國と竝駕齊驅し得るに至るであらう。そして我國の精神文明は遙に外國人に優其てゐるのであるから、結果として東西各國に比して其の數倍の文明を有するに至ることは不可能では無いのである。そして其時こそ我が中國が列强の一たり得るのみならず、其等列强の上に駕し得る時であり、又我が中華民國の國民が永遠に眞正の自由と文明との福祉を享受し得る時なのである。此の大事業たるや、決して少數人の責任では無い。我が四億の同胞が同心協力して負擔することによつて、始めて圓滿に之が目的を達し得るのである。

二十一、洪門會の歷史

—中國同志競業社の歡迎會にて—

洪門會を設けた原因は國の仇を復するに在つた。今より二百年前に設立されたものであつて、之が實に革命の導線となつたのである。然し現在漢族は旣に其の政權を回復したのであるから、今や其の會の方針を改め、韃虜の政府を仇敵視する心を遷し、化して我が民國政府を助くるの力と

なすべきである。我れ既に國を愛すれば國亦必ず我を愛するに至るであらう。斯て上下一心、永く幸福を享け得るに至れば、之こそ自立の眞諦である。

洪門會は曾て韃虜の監視下に置かれてあつた爲に、其の命令、聯絡等は皆祕密に附せられてゐたが、今や既に大同の治遍き共和の國となつたから、必しも祕密を守るを要しない。故に寧ろ從前の規約を公布して局外者の猜忌を去る方が上策である。

人は自重を貴ぶものである。そして國に法が無ければ立ち行き難いことを知らなければならない。故に法を犯す者があれば、政府は當然法を以て之を懲罰すべきである。但し法の許す範圍內に於ては、自ら此の禍から免れ得るであらう。之れ相安の理である。

人は取捨撰擇の法を知らなければならない。譬へば岸を離れた船が彼岸に達した際は、急いで岸に登り、自己の行くべき道を明かにすべきであつて、依然船中に留ることは、水難による危險を冒すことである。故に今日の大衆は、當に憂國の國民たらんことに勉むべきである。

二十二、女子教育の重要性

—民國元年廣東女子師範第二校に於て—

今日廣東女子師範第二校が、會を開いて余の來校を歡迎されたことは余の感謝する所である。

余は本校の教育に對しては衷心贊意を表する者である。只一言茲に諸君に告げ度いことがある。現在中華民國が成立し、萬般の事業は始めて其緒に就き、國民は均しく自由平等の權利を有し、人皆正大なる希望を抱いてゐるのであるが、此の時に當つて國民に最も重要なものは人格であると言ふことを、諸君は强記して置かねばならない。我が中國の人民は數千年の間專制政治の下に置かれ、殊に此の二百六十餘年間は異族の統治下に置かれてゐた爲に、其の人格を喪失すること既に久しきに亙つてゐたのである。今日其の喪はれた人格を回復せんとせば、第一條件として先づ教育より初むる必要がある。卽ち中國四億の同胞が皆教育を受けなければならないのである。そして此の事を實現せんとせば、必ず師範教育を重んじなければならない。之れ師範學校を至急開設する必要の存する所以であるが、就中女子師範は殊に重要である。今諸君が此の學校を發起された事は誠に時宜に適したことと言はなければならない。中國には二億の女子があるが、從來女子教育には多く注意を拂はなかつた爲に、學問ある者は至つて少數である。此點よりするも余は女子教育の重要なることを主張する者であるが、諸君は既に此の女子師範第二校を開設され、現在生徒數百七〇名に達してゐるのである。將來此の百數十名が各々教育の事を擔任するに

於ては、希望甚大なりと言ひ得るであらう。只學識有りて初めて教育を擔當し得るものであつて、學生は常に教師の進退を見て之に私淑するものであるから、教師の責任たるや頗る大である。余が今日諸君に望む所は謹愼小心以て模範國民の養成に當られんことである。斯くすれば教育の振興も期して待ち得べく、教育が興れば男女平等なる權利をも望み得るであらう。男女平等なるを得て後、始めて眞の共和民國の成長をも望み得るのである。只現在猶軍政時代にあるから、宜しく上下一心、政府を助けて教育の基礎を鞏固ならしめねばならない。余は諸君が之が爲に大いに努力されんことを深く望むものである。

二十三、地價徵稅問題

—廣州の行政員に對する講演—

本日諸君の來集を願つたのは地價徵稅問題を研究せんが爲である。今や我が中華民國が成立したが、其の建設の初めに當り、財政の整理は最も急を要するものの一つである。外國には一種の單稅法があるが、之は我國に於て採用するに最も適したものである。即ち地價の高低に據つて徵稅額の多少を決定するのであつて、方法が至つて簡單であり、嘗て一度試行した時の成績に徵し

ても、頗る便利なものである。然し此の方法によるにしても、只上中下の三則に分つのみでは公平を期し得ない。城鎭と村落との納稅額の差は左程大きくないが、地價には數倍の相違が有るからである。此點若し地價徵稅法を實施すれば、其の不公平を除き得るであらう。英國所屬の某領では、既に此の方法を實行して實績を擧げつつある。此の徵稅方法は地價の百分の二、又は百分の一を徵收するものであつて、他日省會の議決を經た後、實施しようと言ふのである。そして地價の高低は、地主をして各自其の多寡を報告せしむるのであつて、若し彼が高價な地價を低廉なものとして報告した場合は、豫め省會に於て一定の條件を定めて置き、國家が鐵道を敷設し、道路を開鑿し又は大工場を建設する樣な場合、隨時其の土地を買收して國有と爲し得るものとして置けば、斯の如き弊害は免れ得るであらう。更に又此等の地稅を徵收すれば、雜稅を徵收する必要が無くなるのである。即ち自然物たる土地に對する稅金をのみ徵收し、人爲物たる建築物等に對する稅金は、一切免除する旨を聲明するのであつて、之れ實に地權平均の一方法なのである。今に及んで之を圖らなければ、他日物質文明が進むに伴れて、富める者は愈々富み、貧しき者は愈々貧しくなり、其の害は止る所を知らず、外國に見る如く、土地の所有權は全く少數大資本家の操る所となつて、勢必ず資本專制を現前し、其害は君主專制よりも遙かに甚しいものとなるで

あらう。

聞く所に據れば、都督は舊地券取り換への議案を省會に交付して、其の議決を經たとの事であるが、余は深く此點諸君に感服する者であつて、諸君等の此の行爲は國利民福に關係すること絶大であり、之を破壞の功に較べて更に大且つ偉なるものである。斯の如くんば財政問題も必ずや解決し得るに至るであらう。

此の地稅問題は、國利民福に關係すること尠からざるものであり、省會が能く此の問題を解決し得れば、其の功績は不朽のものと言ひ得るであらう。之に對し政府に些少の意見があつても、夫れは何等意に介するに足らない。立法の權限は誰が之を與へたのであるか。公理に從つて求め得たものではないか。革命黨の權利は誰が之を與へたのであるか。少數人が其の生命を犧牲にして、公理に準じて求め得たものではないか。曾て省會が約法の宣布を申請したに對し、中央政府に約法取消の議があつた爲に、遂に宣布するに到らず、省會は中央に電請し、更に代表を派遣し入京せしめて之を爭つた由であるが、現在中央政府は各省約法取消のことを決定し、既に之が明文となつてゐるから、政府の此の擧は可なるが如くであるが、必ずしも然らざるものであつて、斯る場合は寧ろ規定によらずして、公理に從つて解決すべきである。

本省の各代議士が果して能く毅然として此の地稅問題の解決に旺進し、輿論の攻擊を顧みずして其の目的を達し得たならば、我が廣東省が一つの模範省となるのは勿論のこと、我が省三千萬の同胞は諸君等省代議士を崇拜し、我國四億の同胞も亦必ず諸君を崇拜し、稱して英雄聖人となすであらう。諸君は須く輿論の可否に拘泥せず、公理に從つて旺進しなければならない。諸君等各代議士の奮鬪を望む。

二十四、地方自治と責任觀念

—潮州の歡迎會にて—

當地が本日歡迎會を開き、余の爲に余と潮州の父老兄弟と一室に聚り、共に現在世界の各般の情況を談ずる機會を與へられたことは、余の欣幸とする所である。

我が中華民國は久しく專制の橫暴に苦しみ、異族の統治下に呻吟してゐたのであるが、今日民國の成立を見るに至つたことは、眞に吾人の大幸とすべきことである。只革命の進行中に於ける社會秩序の紊亂と、經戰地方に於ける破壞とは不可避の事であり、如何ともなし難いことであるが、之を歷朝のそれに比較すれば、頗る僅少な犧牲であつて、殊に廣東の光復に當つて蒙つた禍

害は最少のものであつた。

加ふるに過去の都督、現在の都督共に治を圖るの心あり、隨つて風平かに浪靜かなる狀態である。只各州縣に至つては今猶安靜でないものが多く、殊に潮州の擾亂は頗る甚しいものであるが、之亦革命所經の一過程であつて、怪しむに足りないものである。

只余が今日潮州の父老兄弟に希望することは、依賴心を起さず、能く責任觀念を抱持されんことである。卽ち各人皆國家と社會とが自己と他己との共同組織に成るものなることを意識し、國家社會の事は各自自己の分內の事なるを知り、時としては國家社會を裨益せんがために、自己一身の利益を犧牲にしても惜まない覺悟がなければならない。斯てこそ國家社會は始めて能く日進月步することを得るであらう。一國の治は地方の治を以て其の根底とするものである。此の故に諸君は地方の自治組織に對して、勉めて之を贊助し之を提唱し、以て地方自治の發達を圖り、惹いては一省政治の進步を期すべきである。更に之を推して國家に及ぼせば、中國は日に强盛に赴き、地球上に於て能く列强と竝駕し得るに至るであらう。願くば我が父老昆弟之を勉めよ。

二十五、實業の振興と鐵道計畫

—民立報の記者に—

我國の近時の現象に對して、世人は皆暗に人才の缺乏と協力一致の不可能とに起因するものであると爲してゐるが、余をして言はしむれば決して左樣なことではない。現在政府、議會及各地の政界、軍界は共に人才に乏しくなく、我が民國を安泰ならしむるべく充分の人才が有るのであるが、其の間相互の意見が紛岐し、何等實績を擧げ得ない所以は、經濟問題が其の根底に橫はつて居る爲であつて、之が直接間接に種々の困難なる事態を發生せしむるのである。卽ち此種困難に因つて不一致を來し、不一致の結果は互に惡罵を交すこととなり、之が局外に迄波及して全局面の恐怖を釀成し、遂には最近の如き不穩なる現象に迄進展するのである。而も此等は其の實誤解に端を發するものが多い。故に經濟問題を解決しなければ我國に於ける協力一致の實は擧げ得ないであらう。而して經濟問題が急迫せる場合は、應々にして本を捨てて末を圖るの弊に陷るものである。之れ根本的對策を講ぜんとすれば、容易に眼前の效果を擧げ得ないに引換へ、問題の末葉たる彌縫策を講ずれば急場に應じ得るが爲であつて、如何とも爲し難い現象であるが、事實は本

末共にするに非ざれば、到底永く手足寛閒の日を持ち得ないものであつて、單なる彌縫策は必ず次第に窮地に陷るものである。現在の我が政府の地位は日夜逼迫し、僅に末法を用ひて急に應じてゐる、實に憫むべき狀態である。從つて吾人が悠然と民間に處して是非の論を爲すが如きは、譬へ之を言ふて理を成すも、全く隔靴搔痒の感あるを免れ得ないものである。

我國の輿論としては、刻下の急を救ふ根本的にして且つ唯一なる方策は、實業による外ないとなしてゐるが、彼等の此說たるや、恰も馬に乘つて馬を探す如きものであつて、何等自らが實業に對して十分なる注意を拂ふこと無く、一意如何とも爲し得ざる政府に依賴せんとするが如き彼等の態度は、自己の地位と使命とを沒却するものである。所謂實業振興の主旨は、暗に我が政府を援助して窮境を脫せしめ、他面國民の實業の發展を助長し、斯くて本末竝び擧り、相互相救ひ、所謂官民協力の實を擧げんとするものであり、先づ必然の順序として民生に重心を置き、之より漸次進行實施せんとするものである。實業の範圍は甚廣く、農工商鑛共に振興せざる可らざるものであつて、何れかの一方に偏することは不可である。而して之が爲の第一條件として必要なものは資本であり、其の進行を助くる上に於て不可缺なものは、究局に於て交通でなければならない。資本の籌畫には、銀行財團等にて之に當らんとする者無きにしもあらずだが、交通を談じ交

通を論ずる者に至つては、餘り多くなく、殊に交通事業中最も重要なものが鐵道であることを、熱心に主張する者は極めて少數である。曾つての鐵道事業界に於ける擾亂の後を受け、此種事業に對して倦厭たるものがあるのは、蓋し理の當然であらう。

然るに鐵道問題を冷淡視し、之を實業部門中區々たる一少部分を占むるものなりとするのは妥當でない。鐵道が無ければ運輸の方法が無く、立ろに實業は衰微し其の振興を圖らんとしても、如何とも爲し得ないであらう。故に交通は實業の母であり、鐵道は交通の母であつて、國家の貧富は鐵道の多少を以て之を定め得るものであり、地方の苦樂は鐵道の遠近を以て計り得るものである。余不敏にして見識亦淺薄であるが、二十年來各地に至る毎に、直に其の地の地圖を購入するを常とした。之には種々な目的と用意があつたのであるが、殊に此等の地圖を通じて世界各國の鐵道を比較することに留意し、又斯くすることに興味を感じた。戊戌政變以前、國內で鐵道の利を知る者は多かつたが、率先して國內重要幹線の敷設を謀る者は少なかつたので、余は先づ學生用の中國地圖を繪き、之に國內の幹線を記入した。之が幸ひ時人の耳目を變改するに小效を奏し、爾來世人は京漢、津浦、粵漢、川漢等の幹線問題を重要視するに至つた。

只だ前記の如き狹隘なる計畫は、愚弱なる前淸政府の下に於ては聊か以て自ら慰むるに足るも

のであるが、現今に於ては、更に全局に亙る大幹線を籌畫してこそ、始めて完全强固にして而も捷速なる斯業の振興を望み得るのである。余をして之を策せしむれば、全國の眞の幹線として敷設すべきものは次の三路である。

(一) 南　路

南海に起り廣東より廣西、貴州を經、雲南、四川の間を走り、通じて西藏に入り、繞つて天山の南に至るもの。

(二) 中　路

揚子江口に起り、江蘇より安徽、河南、陝西、甘肅を經て、超えて新疆の伊犂に至るもの。

(三) 北　路

秦皇島に起り、遼東を繞つて折れて蒙古に入り、外蒙を貫通して烏梁海に達するもの。

論者は必ず北路に對して最も難色があるであらう。卽ち張家口より庫倫に達せしむるを至當となすであらうが、北路は急を要するものであつて、邊圍を鞏固ならしむる要道であり、荒地を開き拓殖移民して利源を開發する重要任務を有するものであつて、張庫間の聯絡線路も當然之と同時に敷設さる可きものではあるが、之は結局露國に連絡する線路であり、他人の籬下に依る線路

に過ぎない。ところで前記三線の着手順序は、夫々緩急を斟酌して決定すべきものであるが、之は今此の場に於ては論じ得ないから、此種比較の論は暫く擱いて問はないことにする。只余は此種政策は決して困難ではないと信ずるものである。此の計畫に付いては余は既に詳細に三思熟考したが、今其の悉くを語る暇を持たない。以上簡單に述べた爲に誤解された點もあるであらうが、後日暇を得たならば之について更に詳言するであらう。

只余が一般國民の注意を喚起したいことは、實業を振興せんとせば先づ交通を重要視すべきであり、交通計畫を樹立せんとせば先づ鐵道を重要視すべきであり、鐵道の敷設には幹線の敷設を第一とし、且つ交通の硬塞を打開するに足る幹線の敷設を最重要となすものであると言ふことである。蓋し僻遠なる地方の幹線敷設工事が興るに於ては、交通の便を尙ぶ內部各地の幹線は、企業としても危險率が少い爲、必ず投資して之が敷設に當らうとする者が多數輩出するであらう。故に吾人は眼孔を大にし、進んで寧ろ困難なる方面に全力を注がんとするものである。

之れは啻に四面包圍の計畫であるのみでなく、全國民を促して內部線の敷設計畫をも實現せしむるものであり、難よりして易に至るものである。

更に又投資は寧ろ荒僻の地にした場合の方が、より多くの效果を擧げ得るものであり、荒僻の

地は又以て移民をもなし得るものであつて、之は世界公認の理である。我國の樣に人口の多い國はないのであるが、此の人口を單に本部にのみ收容するに於ては、譬へ交通が便利となつても、恐らく衣食の問題は依然困難なるを免れ得ないであらう。現今世界の各國が皇々然として日夜思籌を運ぐらし、全國の財力を傾けて軍備の擴張をなしつつある所以は、皆植民地の開闢が其の一原因をなしてゐるのである。然るに我國が植民に適する地を有し乍ら、擱いて經營することを知らないのは、貧患の國を以てして自ら求めて其の困窮の度を重ぬるものであつて、實に大愚不靈と言ふべきである。

二十六、本黨の同志は應に建設に努力すべし

—民國二年一月上海國民黨交通部懇親會にて—

本日我黨の諸君と共に懇親大會を開催し得たことは、余の欣幸とする所である。

今や民國成立第二年を迎へ、國基初めて定まり、各般の政務亦着々其緒に就きつつある折柄、今後の興衰强弱の責は繫つて國民の代表たる政黨の上に在るのである。即ち各政黨は一般の優秀なる人物を集めて組織し、一定の政見を持して國內に於て活動するものであるから、其の國家の

政治に及す影響は至遠且つ至大である。只政黨が其の尊嚴なる地位を保持し、利國福民の目的を達せんとするならば、其の政綱が當に時勢の要求に應じ世界の公理に合するものなることを要するは勿論であるが、政黨自身の道德は更に最も重要であり、之有つて初めて社會の信用を持續し得るのである。此點各文明國の政黨の歷史に徵するも皆然りである。

我が國民黨は革命の志士に始まり、之が各政團と合體して組織されたものであり、昔は一種の祕密團體であつて、一言一行皆理由の充足せるものであり乍ら、專制政府の忌緯にふれて、公然之を宣布することは不可能であつた。只吾黨の揭ぐる民族民權民生の三大主義が、適々世界の大勢に合し、國民の心理に合した爲、一呼承應、遂に革命の目的を達し、昨年民國の成立を見るに至り、我黨は今や正々堂々と國內大會を開き、民國建設に關する諸問題の研究に當りつつある。而も一言一行均しく重大意義を有するものであり、諸先烈の熱血を以て購ひ得た結果であるから、吾人は悉く之を重要視しなければならない。そして我等は着實に進行して地下の先烈の靈を慰むべきである。

惟ふに我黨は漸く專制政府を破壞し得て、建設の緒に就いたのであるが、未だ完全に革命に成功し、之が爲の責任を全く盡し得たと謂ふことは出來ない。蓋し破壞は一時的作用であるが、建

設は永久的事業なるが故である。例へば米佛の共和革命の如きも、今日既に完成されてゐるが、之が爲の建設に至つては、未だ完全なる域には達してゐないのであつて、米佛の政黨は今猶夫々自國の建設に力を盡し、從つて其の進歩は已む時無き狀態である。我國は數千年來專制政治の惡弊に染り、之が改革に着手するも、千端萬緒、容易に整理し難い狀態である。而して今後に於ける立國の大計としては、先づ專制時代の遺物たる種々なる惡習を排除し、能く文明國家の新精神を發揮することを以て第一の要務となすべきである。之れ亦國民の注意せざる可らざることである。

我が國民黨が、現在國內に於て能く優勝の地位を占めつつある理由は、固より群策と群力とに恃つものであるが、政黨の發展は勢力の强弱にのみ在るものではない。卽ち黨人の知能道德の高下は究局の勝敗を決するものであつて、政黨の勢力が强大であつても、黨員の知能道德の程度が低級であり、其の內容が腐敗して居れば斷じて永く榮え得るものではない。之に反し若し政黨として當然有すべき知能と道德とを涵養するに於ては、譬へ現在の勢力は薄弱であつても、必ず發達の一日を有し得るであらう。前淸時代に於ける我黨の如きは、其の勢力は甚微弱であつて、淸政府に味方する者が大多數だつたのであるが、而も我が同志諸公は黨の主旨を堅持し死すとも變らざることを誓つた。遇々我黨の主張する理論が社會の需要に應じ、之が爲に十年を出ずして前

淸の雷霆萬鈞の壓力を一掃し去ることが出來たのである。之によつて觀ても、黨勢の大小は必ずしも問ふを要せざるものであつて、黨の主張と其の日頃の行動とが公理に合し、時勢に相應じ、其の抱懷する政策が正大明確であつて一般國民の贊同を得るに足るものであれば、千難百折するも必ず最後の勝利を獲得し得るものである。又他の政黨に對しては政見を商議する外は、特別の場合を除き、之と爭ふて政黨の榮譽を損ふ必要は存しない。現在正式國會と正式政府の成立の期も遠からざるを以て、殊に細心なる研究をなし、一つの最良なる憲法を制定し、以て立國の根本となすことを期すべきである。我が國民黨の黨員が各人果して能く往年の革命精神に基き、而も溫和穩健なる手段を以て、共に民國建設の事業に從事し得るならば、黨の發展と國事の進歩とは必ず昔日に千百倍するものがあるであらう。余は現在我が黨員諸君に對して竊に無窮の希望を寄するものである。

二十七、宗教と政治

—民國三年佛蘭西教會の歡迎會にて—

本日貴教會主及各教士學生の各位と相見ることを得たことは、余の深く感謝する所である。

吾人が萬難を排し萬死を冒して革命を敢行し、今日幸に祖國を光復することを得たのは、其の遠因を究明すれば、皆外國の感化に由るものである。即ち漸次歐米の文明に染まり、世界の新理を輸入し、之が結果として民風日に開け、民智亦日に闢け、斯くて遂に惡劣なる民族の政府を倒すに至つたのである。而して此の感化は外人宣教師の力に俟つ所頗多大であつて、此點余一人のみならず、我が中國四億の民衆の均しく感謝する所である。

民國成立して政綱を宣布し、現在信仰は自由となつたから、清朝時代に於ける如き、民衆と教會との衝突の原因は消除された譯である。だから今後は政治の及ばざる所は宗教を以て補ひ、以て民德の向上を圖らなければならない。

世上宗教と呼ばるるものは甚多く、此中には野蠻なる宗教があり、文明なる宗教がある。我國の如きに於ても偶像は地に偏く、異端者の說が猶盛んであつて、一律に一尊を崇奉するには至つてゐない。只現今西方の教士各位が先覺となつて、我國人の開導に當られつつあることは誠に結構なことである。願くば將來全國が皆至尊全能の宗教を欽崇するに至り、之を以て民國政令の及ばざるを補ひ、國政を改良し、宗教を改良し、勉めて政治宗教の相互提携と、中外人親睦の實とを擧げたいものである。

本日諸士と會し得た機會に、改めて諸士が吾人と同樣中國を愛し、民國の爲めに夫々其の責任を盡されんことを、厚くお願ひする次第である。

二十八、言論の一致

—粵報の記者に對して—

諸君、今回中國が清朝を傾覆し得たのは、軍人の力によること勿論であるが、人心の一致と、之が誘因たる諸新聞の鼓吹の功による所も亦大であつて、各新聞が能く其の效果を收め得た所以は、實に言論の一致によつたものである。

今日既に共和の世となつたが、未だ完全に安定するに至らない。完全なる安定を欲すれば、必ず先づ統一を完成すべきである。而して統一の方法たるや、人心に恃つに非らざれば、武力に恃つものである。然し武力に恃つて統一を完成せんとすれば、其の流弊は必ず專制を誘致し、人心の統一を欠いで、必ず禍亂を生ずるであらう。曾て外人は余を目して共和の使徒に非ずして亂賊なりとし、起つて頻りに干涉したものである。若し言ふが如くんば、此の大亂の道は何が爲に專制を目的としなかつたか。其後袁君が總統に就任するに至つたが、彼とて元、民國に大功を建てん

と欲した者であり、輿論に服從するに吝かならず、自私自利の心無き者であるが、禍亂の機運既に動き、武力を用ひて統一する外、如何とも爲し得なかつたのである。卽ち北方の軍隊は袁君に服してゐたが、人民は共和の何ものたるかを知らず、其上、宗社黨の煽動と策動とがあつた爲、前日の亂の如きに於ても、已むを得ず第三鎭の兵を動かし、其の結果、亂を免れ得ざるに至つたのである。現在の我國に果して帝制をしき、外人の干涉を免れ得る者ありやと言ふに、眼を擧げて見れば、一人も其人無きを知るであらう。之に企畫する者が有つても、彼等は只藉つて以て、掠奪をなすに過ぎないのである。斯の如き狀態を以てしては、到低瓜分共管の慘禍を免れ得ないであらう。彼の人心不統一の弊も亦實に之に起因するのである。

近時上海の各新聞を見るに、言論の一致を缺き、又今回廣東省各新聞の言論も、公理に準ぜずして紊亂甚しく、政府を攻擊し、一般人民が新聞紙を重要視し、其の記事を悉く信用するものなることを知らず、之が爲に人心惶々として歸一し難きを致しつつある。廣東都督陳炯明は、元々得難き人物であるが、近時其の自由を怨むは可なりとしても、猜疑嫌惡するに至つては難ぜざるを得ない。卽ち彼が未だ去らざる以前、屢々汪精衞に電して其の廣東回歸を促し、汪が新聞紙の攻擊を恐れて就任を肯ぜざりし場合も、陳は猶去らず、今回余と胡漢民が廣東に歸るや、其の責任

を回避せんとし、潛行運動をなして胡君を復任せしめた。然るに胡は攻擊と其の地位の不安とを懼れ、他方王和順、楊萬夫、關仁甫等は外部に在つて策動攪亂した爲に、竟に人心の動搖を見るに至つた。陳は之を以て乘ずべき好機至れりとなし、亂を企つる者四方に起るや、此間に策動して我が廣東人民の生命と財產とを糜爛せしめた。之全く彼陳炯明の罪科である。

專制時代に於ける新聞紙は、政府が人民の政府に非ざる以上、攻擊に利用するも不可ないが、共和政府は人民の政府である以上、新聞紙を政府攻擊の具に利用することは不可である。何となれば政府の官吏は人民の公僕だからである。例へば一つの會社を設け、人を擧げて社務を掌理せしむる場合　株主が日每に掌理人を惡罵攻擊したのでは、決して營業成績を擧げ得ないと同樣である。若し政府が惡事を爲した場合は、人民が一致して之を除くべく努力すべきであつて、我が三千萬人が一致して斯る官吏を除かんことを請ふた場合　誰が敢て之を留め得るであらうか。然るに我が國の新聞記者達は、政府攻擊の惡習に染ること甚しく、依然として改むることを知らない。動物學者の言によれば、一種の蟹があるが、其の蟹は草の有る場所に穴を掘り、而も必ず穴の外部の草を除去するとのことである。之は此蟹の遺傳性によるものであるが、彼等は一種の鳥が專ら其の無草の場所を目標にし、啄を下して自分達を食ふことに考へ至らないのである。其後

更に一種の蟹を生じたが、彼等は方針を改めて、穴の有る場所は必ず草を以て護ることにした爲に、能く其種を保全し得たとのことである。同樣の理由から、今日の新聞紙も其の方針を改むる必要がある。彼等が其の方針を改れば、從つて人心も能く一致するに至るであらう。方今人民の中には共和は專制に如かずとの言をなす者があるが、彼等は共和の效果が十年を經て初めて擧るものなることを知らないのである。例へば如何に立派な子供でも哺育二十年の後にこそ、恩を報じ得るが、生後數ヶ月の乳兒に、報恩を求むることは不可能であるのと同樣である。

惟ふに汪精衞が廣東に還ることは頗る有益である。蓋し彼は北方の情勢を知悉し、北方人の信服する所であるから、南北の意見が合はない樣な場合は、彼ならば能く之を調停し得るからである。

余は廣東に回歸したについては、次の二事を爲す考へである。

其の一は練兵で、廣東省の軍隊は今度も戰功があり、南京宿州の役にも戰勝の功があつたものであるから、之を基本として更に十萬の兵を編制して訓練したならば、必ず能く國民の後楯となし得るであらう。其の二は實業を振興し、廣東人の生計の困難を救ふことである。共に諸君の贊同を得、言論一致、以て人心の歸一を圖らんことを望む次第である。

二十九、廣東は全國の肢體である

—廣東省議會に於て—

今回鄉里に歸り、各位の熱心なる歡迎を受けたことは感謝に堪へない。余は本日廣東の最緊要にして、最急迫せる事情に付いて諸君に語らんとするものである。余が香港に來りたる際、或種の人々が第二次革命を敢行して廣東政府を傾覆せんとし、其の印章、旗幟等の準備も既に完了してゐたとのことを聞いたが、貴會の諸君は此事を聞かれたかどうか。此等の擧動は獨り廣東の安危に關するのみでなく、中華民國の全局にも關するものである。廣東は全國の岐路であるから、此地に一度禍亂が起れば全國に波及するのである。卽ち若輩一度難を發すれば、北京政府は大局を保全せんが爲に、勢必ず兵を調して南下し、各省亦必ず相互救援し、之が爲に玉石共に焚くの禍を免れ得ないであらう。之れ實に寒心に耐へないことであつて、斯る場合廣東が一兵をも用ひずして革命の目的を達し得る事は到底望み得ないことである。軍政府成立後、日尙淺き時に當つて、一般貪慾鄙俗の徒が名を第二次革命に藉り、廣東の大局破壞を謀らんとしつつあるに對し、吾人は急に起つて局面の維持に當り、以て眼前の急迫せる事件に對する對策を講ずべきである。

然らざれば禍は頃刻にして發し、事後補救を圖つても、既に及ばないであらう。

陳都督が今回廣東省を去つたについては、彼は兼ねてより此の考へを抱いてゐたのであつて、彼は極めて才能を有する男であるが、世評に氣兼ねして從前屢々辭職せんとしたのに對し、余は屢々書翰と電文とを以て之を慰留し、爲に隱忍して今日に至つたものである。來省當時も余は彼と時局を談じたが、當時の彼は頻りに省の治安を念願し、毫も辭任の意思あることを洩さなかつた。今日其の職を去つた原因は、世人が彼の意の在る所を諒解せず、多く言葉を揑造して彼を誣ふる所があつたからである。即ち今回汪精衞氏が廣東に回歸しなかつたことに付いても、陳都督が自己の地位を鞏固ならしめんとして、之を拒んだが爲であるとの言をなした者も有る位で、此種の妄詞は陳都督の到底甘受し得ないものであつた。故に一度胡漢民氏が來廣するや決然として去つたのであつて、之れ全く已むを得ないものである。更に汪氏が廣東に來らなかつたのは、他意無かつたのであつて、汪は平常只義務を擔當せんことを欲して、毫も權勢を求めない者である。故に今回の事も彼の此の性質に因るもので、陳都督とは何等關係がなかつたのである。

本日は、都督選擧問題を論議せんとしてゐるのであるが、先き頃余が來會せる際、議長の余に語つた所によれば、今日既に胡漢民氏を暫時都督に就任せしむる旨を議決し、他日更に正式選擧

をなすとのことであつて、之は勿論正當且つ最も普通な方法であるが、現下の時勢は既に斯の如く急迫してゐる關係上、寧ろ即日胡氏の正式都督就任を議決して、大局を安んずべきである樣に思はれる。然らざれば直に紛擾を釀す惧れが有るからである。

胡漢民氏の人と爲りは、余の最深く知る所で、曾て共に革命事業に從事すること七八年に亙り、其の學問道德は均しく余の深く信ずる所であつて、廣東に其の人を得難きのみでなく、他省にも亦罕れに見る所である。先に革命軍蹶起の際、余は彼と共に江南に到つて臨時政府を組織したが、之には彼の力が與つて效果があつたのである。次で又余が參議院に擧げられて臨時總督となつた際も、一切の處置に彼の臂助を受けたこと頗多大であつた。其の平生の大力量と大才幹よりすれば、只に都督の任に耐へ得るのみならず、總統の位に卽くとも尙綽々たる餘裕を持ち得るであらう。故に余は敢て貴會に推薦し、速かに此の問題を解決して遲延せざらんことを勸むるものである。然らざれば權利爭奪の勢を釀成し、機に乘じて意を逞しうし、廣東の前途は寒心に耐へないであらう。廣東の軍界は陳都督に組織されて以來著しく成績を擧げつつある。惟ふに廣東の軍事は陳都督を以て最適任者となすのであるが、彼は謙讓の心を抱き、他一都督を擧ぐることを主張し、自己の重任を肯ぜず、汪精衞の意中も彼と同じく、余が曾て電報を以て其の歸廣を促

したに對し、胡漢民氏を都督に選定すれば一週以内に廣東に歸るも、然らざれば香港に歸るも廣東には來らざる旨の返信があつた。故に胡を選任することは陳汪二人をも活用し得る結果となるのである。今日の廣東に此の三人を除いて都督の任に耐え得る者が果して他に有るか。蓋し今日廣東都督を選任するには學德兼備の者にして初めて其の任に耐へ得るのである。若し不適任者を用ふるに於ては、一般不逞の徒は必ず機に乘じて事を發し、萬一廣東が彼等の根據となれば、長驅して長江より黄河に進出し、其の大局に及ぼす結果は設想に堪えないものがあるのである。彼等若輩の意中を窺ふに共和を破壞して又しても專制を行はんとするに過ぎない。現在共和政府を建設したが、未だ完成するに至らず、從つて一切の疾苦を盡く除き得るに至らない。然し之は當然の事であつて、大改革をなさんとするには、多くの心血を灑ぎ、多くの時日を費さなければ、決して其の目的を達し得るものではない。

之を要するに眼前最急を要する問題は、胡漢民氏を正式總統に就任せしむる一事である。胡氏が曾て都督在任の際、外部の者は或は不滿な點があつたかも知れないが、之は怪しむに足らないことであつて、孔子を蘇らして今日の時勢に處せしめたとしても、必ず之を非とする者があるであらう。只一疾は以て大德を掩ふことは出來ないのである。貴會は人民の代表であり、此の事は

全廣東の安危に係る問題である以上、諸士の責任は重且つ大である。遲疑することなく、今日直に之が解決を圖られんことを厚く希望する次第である。

三十、民生主義提唱の眞義

—上海南京路同盟會本部にて—

同盟會成立以來既に十餘年を經過した。以前我々同志は海外に於てのみ開會し討論し得たのであつたが、今や內地に之が爲の機關を設け、且つ自由に言論することさへ出來る樣になつた。全く盛んなりと言はなければならない。

今日革命は成功し、共和も已に成立したが、之れは我々の目的の一部を達したに過ぎないのであつて、目的の全部を達成し得たのではない。切に諸君に望むらくは、滿洲政府を打倒したと同じ精神を以て、今後の進步を計り、吾人の主張たる三民主義を完全に實行することに努めて頂きたい。斯くてこそ始めて吾人の目的を達し、政綱によつて負ふ所の義務を盡して憾みなきを得るのである。

三民主義卽ち民族民權民生の三主義は、同盟會唯一の政綱である。今滿洲政府は已に去つて共

和政體と成り、民族民權の二大政綱の目的は已に達し得たから、今後吾人の進行を急ぐべき問題は民生主義である。

民族民權の二主義には稍々心ある者は悉く贊成したし、偶々君主政體を堅持せんとする說を爲す者があつても、其の理由の薄弱なことから、少しく辯ずれば直に自說を放擲するのが常であつたが、近時吾人の提唱する民生主義に對しては、居然起つて反對する者がある有樣である。彼等の說によれば「社會主義は事實に於て歐米の各文明國でも未だ實行不可能である。況んや我國に於てをやである。且つ外國の資本家は今日其の金錢の力を以て我國の財政を壟斷して居る。此時に當つて、若し極力資本家による實業の發展を提唱し、資本の勢力を以て外人を抵制しなかつたならば、今日の如き激甚なる經濟競爭場裡に於ては、到底國家の存在を確保し得ないであらう」と言ふのである。其の說く所を聽けば理有るが如くであるが、彼等が此說を爲す所以は未だ民生主義の何たるかを知らないから、漠然と反對を唱ふるのである。吾人の主張する民生主義は資本に反對するものではなくて、資本家に反對するに過ぎないのであり、少數人の經濟勢力占有による、社會富源の壟斷に反對するのである。試に鐵道の例を擧げて之を論ずれば、全國の鐵道が若し一二の資本家に所有さるる樣なことになれば、彼等の力は交通を壟斷し得ることとなり、又旅客、

貨物所有主、鐵道勞働者等の死命をも制することとなるであらう。之と同時に若し土地が少數の富者の所有に歸すれば、其の所有權と地價とを以て公共の建設を妨害し、一般人民は永久に存在の根柢を脅さるるに至るであらう。之に反し土地と大事業とが皆國有に歸すれば、之により所得は人民の全有とすることが出來るであらう。蓋し國家の施設は其の利の及ぶ所、國民の福利に存し、少數人の壟斷が徒に私腹を肥し、貧民の苦しみを日に日に深くするのとは大いに異つてゐるからである。國有の策は清朝の此の政策であつて、吾人が清朝の政策に反對したのに、今鐵道國有に反對しないのは、我々の政綱に牴觸しはせぬか。否、決してそんな事は無い。滿清政府は君主專制政府で、國民の公意によつて出來た政府では無かつた。故に清朝の所謂國有なるものは其の害遙かに資本家より激しいものであつた。故に本黨の政綱にも必ず先づ民權主義を實施して、然る後民生主義を實施すべき旨を述べてあるのである。論者は又言ふ「凡そ事には必ず階梯がある。此の階梯を經ずして、民生主義を云爲しても、現在民智、社會組織共に其の程度に進んでゐないではないか」と。果して此說の如くならば、共和政體の前には必ず君主立憲政體の一階梯が來なければならない。然らば今日此の階梯を經ずして、共和政體が成立したのは、如何なる理由によるものであるか。之れに依つても說明を待たずして自ら明かとなるであらう。

要するに本會の提唱する民族主義は、外人に對して我國民の獨立を維持するものであり、民權主義は少數人の政治壟斷の弊を除去するものであつて、民生主義は少數資本家を排斥し、一般人民をして共に生產の自由を享有せしめんとするものである。故に民生主義は又國家社會主義とも言ひ得る。而して前二者に關する限り諸君の熱血に依つて已に今日の成功を贏ち得てゐる。故に今後は更に宜しく其の心思を極め、能力を盡し、以て最後の目的たる民生主義を達成しなければならない。之れ余の深く同志諸君に望む所である。

三十一、權利なる二字の正當なる解釋

—民國五年七月十五日駐滬議員の茶話會に於て—

權利なる觀念は人類の均しく具有するものであり、余も亦人類以外の何ものでもあり得ない以上、獨り權利を忘却すると言ふが如きことは不可能である。故に余に權利を犧牲にすべしと說くよりも、寧ろ權利なる思想は最も大切なものであると說く方が、より多く余を信ぜしめ得るであらう。卽ち余は權利なる二字が至公至大なものであることを知る者であつて、大事の爲に小事を棄てて公事の爲に私事を沒却することは有り得るも、自已の權利を犧牲にすることは、餘として

は未だ爲し得ない事である。只今主席議員の讚辭を戴いたに付て、敢て當らざる者なることを一言申述べて置く。

我が廣東は各地に先んじて通商貿易を始め、數十年以前、歐洲の船舶が東航し來り、地方特產が海外に輸出されるや、此等は總て一度廣州に集り、其の結果數年ならずして巨富を致す者さへあるに至つた。又南洋、「アメリカ」大陸等に在住する華僑で、米國の鐵道事業に投資する者も多數に上り、彼等は萬里の波濤を超えて致富の道を求め、以て自ら慰めとしたのであるが、一旦世を去るや、其の子孫は財多き爲に淫逸に耽り、遊惰を事とし、それが爲に盡く其の業を喪ひ、眼前の肥馬輕裘は皆夢と化し、遂に路傍に食を乞ふに至つた樣な者も、屢々見聞する所である。凡そ利を求めて利を獲た者も、曾て二代にして失敗せざる例がなく、之を求めて得ざる者に至つては最多く、猪子（南洋移住の契約勞働者）は每年四十萬人も輸出されるが、生還する者は一人も無い有樣である。余は此の二つの事實を觀て感ずる所があり、隨つて一個の主張を有するに至つた。卽ち惡劣なる政治を除かなければ、國民は權利を享有し得ず、幸にして身に此等の權利を享有し得ても、其の餘德を子孫に貽すことは出來ないものであることを知るに至つた。そして之が爲に蹶然起つて改革し、我が全國同胞の奕世不失の大權利を持續せしめんと決意するに至つた。

二十年前、余は此種思想の一部を余の知己に語つたが、彼等は慨然として余の意見に贊同した。只改革が一事業であると同様、改革後の政體建設も一事業である、然るに同志は單に政治の改革すべきを知つて、其の改革の根本の大計を知らない者が多い。所謂改革は易代の常軌である。余は曾て海外に在りし際、言語文字は異るが其の事々物々を熟察し、靈感を働かせた結果、飜然悟る所があつた。次で其の歴史を讀み各學者の著書を讀んで、余の平常の主張が、頗る西洋の治國安民の大經に合するものなることを知つた。仍て歸國後同志と籌つて改革の方針を決定したのである。

余は曾て田舍の學生として四書五經を暗唱した事があつたが、數年ならずして其の大半を忘れて了つた。只政治の改革を欲すれば必ず先づ歴史を知るを要し、歴史に明かならんとすれば、必ず文字に通ずるを要する。而して西譯せる歴史、四書、五經を讀むも亦其の意を通じ得るものである。余は歴史に徴し、中國は地理的に中土に位する關係上、國際的戰爭は比較的少く、國内の戰亂は全く個人間の地位爭奪に起因するものであることを知つた。故に同志と謀り、武力を改革の手段として、國民の權利を爭はんと決意した。然るに余の爭ふ權利が至公至大なる點に於て、未曾有のものであつた爲に、余を狂人なりとして譏る者さへ有つた。次で南京政府が成立するに

至り余は國民の期待に反する結果となつた。即ち余自身破壞は決死的覺悟を以てせねば不可なるを謂ひ、死を決して大難に處せんとし、同志と共に其の局に當つて來たのである。ところで建設は緻密なる計畫と用意とを必要とし、易きに似て其實困難なものである。然るに改革の目的を達し余が初期總統に就任するや、知らざる者は余を以て尊きことを皇帝の如きものであるとなした。仍て意を決して位を袁世凱に讓り、天下をして總統の本質を知らしめて、民國の大本を樹立し、又公僕の爭ふ可からず、爭ふを要せざるものなることを知らしめんとした。然るに世の君子は、余を以て職を忘る者なりと譏つた。然し余は之を聞いて喜び、人々が總統を爭はず、相互に之を讓ることを願ひ、籌安會も斷然、人々が總統の職を爭つて、其の結果帝制を唱ふるに至らんことを恨れた。彼等も亦余の同志であつたのである。次で章太炎君が帝制論の文巨懲の魁罰電に、余の署名を求め來つたに對し、余は余も懲罰さるべき一部の罪を負ふ者なりとして、辭して署名しなかつた。諸君は余の此の言葉が意味深重なることを知らなければならない。先きに餘は建設の事に就いて述べたが、國家は營利會社の如きものであつて、株主が利を獲ようとする場合、社員が自己一身の利益をのみ謀れば、株主は必ず其等社員の職を免ずるであらう。故に國家の爲に謀る者は、英米獨佛に論無く、必ず國民の爲に其の生活の根本たる衣食住と、國家經濟及

び社會經濟に多大の影響を有する道路政策とに力を致すものである。國家の生產力は野外運務の如きものであつて、或る一つの條件が備はれば、諸事皆時と共に進むものである。我國四億の民衆の中、一日でも道路と關係を有しない者があり得るか、吾人が日日見受くる車太の如きは、百斤内外の物品を載せ、上海市中を往來することのみによつて一、日一元を得ることが出來るが、田舍に於ては道路が悪い爲に、二百斤からの物を擔ぎ、數十里の道を行つて、一日僅に數百錢を得るに過ぎない。更に衣食住の資料の如きも、運賃によつて其の價格の一部が左右され變動するものである。斯樣に運賃の高低は道路の善悪に影響され、道路が悪ければ運送費は自然鉅額となるものである。故に道路政策を樹立すれば、之れによつて蒙る全國の利益は、年々計るべからざるものがあるであらう。

三十二、自治制度は建設の礎石である

—民國五年七月十八日上海張園安塏邸政見發表演說會にて—

本日兩院の諸君及各界有志諸君の惠臨を蒙つたことは光榮の至りである。

余は三年間亡命し、國人と相見ることが出來なかつたのであるが、帝制發生による祖國の淪亡

を見るに忍びずして遠路歸國し、國人を助けて奮鬪したが、今幸に元兇は既に死し、國法は恢復され、武力は終りを告ぐるに至つた。次で始るものは建設であつて、兩院議員は久しからずして北京に赴いて開會し、共に建設の事を審議せんとしてゐるのである。只建設の責は國民總ての負ふべきものであることを知らなければならない。二三日前も尙賢堂に於て兩院の議員諸君と此の事を研究したが、短時間であつた爲に一々詳論し得なかつた。故に本日は特に諸君と會談し、續いて余の所懷を述べんとするのである。

現今我が國人は競ふて建設を云々しつつあるが、今のところ何等一定した方針が無いから、先づ此の方針を定むることが必要である。余は革命に奔走すること二十年に及び、其の間破壞に從事しながらも常に建設のことを研究するのを怠らなかつた。今後も余は國人と共に建設を謀らんとする者であるが、其の方法は如何にすべきであらうか。世人は多く全心を政府に注ぎつつある。之れは當然の事であつて、數千年來、政府は時に興り時に仆れたが、易姓革命のある毎に、必ず政府を造ることを其の第一階梯とした。之れ實に人民の建設に對する經驗であるが、此等は只相因り相傳へて舊き傳統をなしてゐたに過ぎない。然るに民國に至つて初めて一新紀元を開いたのである。即ち今回の建設は從前と異るものであつて、昔陳平は肉を屠ることを以て天下を治

むるに喩へたが、方今では家屋を建つることを以て國を建つることに喩ふべきであると思ふ。

歐米人と中國人の家屋の建築には大なる相異點がある。建築に先きだつて擧行する典禮に於ても、中國人は先づ樑を上げ、歐米人は先づ礎石を置くのが例である。而して樑を上げる者は最高處に注目し、礎石を置く者は最低地に注目する。隨つて兩者の注目の箇所が異ると同樣に、其の效用も自ら異るのである。吾人は事を爲すに當つては最高處に向つて志を立つると共に、最低處に於て基礎を堅むることを忘つてはならない。

最低處とは換言すれば根本の意である。然らば國本は奈邊に在るか、古語に曰く「民は邦の本たり」と。故に建設は必ず人民より始むべきである。近時五年來建國の事は附託其の人を得ず、爲に民國の根本は殆ど覆されんとするに至つた。今幸に夫、中國を佑け、我が同胞に再び建設を圖るの機會を與へた。卽ち國民は高低、自ら擇び得るのであつて、此時に當つて誤を再びせざる覺悟がなければならない。我が國人が家屋を建つるに當つて先づ樑を上ぐるのは、上古有巢氏が其の家屋を樹巔に築いたことに因るものであつて、只管風雨を凌がんとして鞏固さを求むる遑が無かつたのである。建國も亦然りである。從來の建國は朝廷を先にして百官を後にし、人民の如きは何等念頭に置かなかつたが、現在の國家は大に之れと異る所がある。之れ昔は陋屋であつた

ものが、他は高樓大厦となつたと同樣である。現在歐米の高屋には五十數層に達するものさへある。關係上、先づ樑を上げんとしても其の方法が無い。故に地面から築き上げて行く外に方法が無いのであつて、更に深く地下に其の基礎を築かなければ必ず倒壞するのである。

今中華民國を建つるに際して、從來と異り立國後永く覆滅せしめざらんとすれば、必ず其の地盤を人民各個の身上に築くべきであつて、建設の第一歩を政府よりせずして人民よりすべきである。現今世人は競ふて、黎の後を繼いで副總統となる者と、正式國務總理となる者と、各都督省長となる者とは、何人なるかを研究しつつあるが、之れ先づ樑を上げんことを謀るものであつて、樑にして苟も其の材を失すれば、棟は折れて衆は皆壓死するに至るであらうから此の方法は危險を伴ふものである。故に余は前日も述べた如く、地方自治を以て建國の基礎となすものである。只其の際は言ふて盡さざる所があつたから、本日續いて之を論ぜんとするのである。

惟ふに地方自治は國の礎石であつて、若し此の礎石が鞏固でなければ、國家も自然薄弱となるのである。近時五年來の現象を觀ても其の然る所以を知り得るであらう。故に今後は當に地方自治に全力を注ぐべきである。請ふ諸君此の圖を見られよ、圖は民國二年（一九一三年）に初めて實施された最新なる米國の自治機關を表すものであつて、僅に三年前のものである。世界に於け

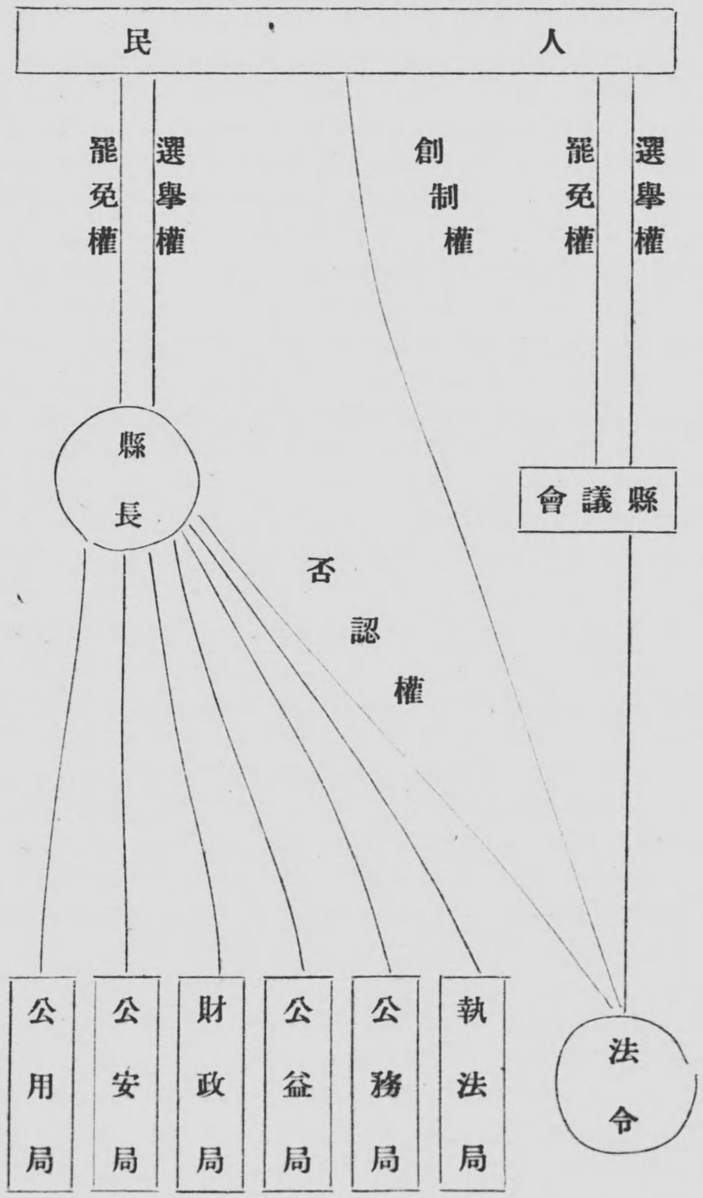
る共和國は二種に分つことが出來る。一つは自然の進化により、他は人力によつて構成されたものである。瑞西は山國であり交通不便であつて、歐洲人は視て山地と爲してゐるが、其の民俗は强悍で頗る自治の能力に富んでゐる爲、夙に民權制を有してゐるが、之は自然的進化によつたものである。之に反し人爲的建設は從來多くの危險を伴ふものであつて、極めて困難なものである。佛蘭西が共和制に改革されたのは、全く學者の理想と人民の血戰とにより、八十餘年を經て始めて完成されたのである。只現代は民權機關が著しく發達してゐる爲、其の方法にして當を得れば建設は至つて容易である。之れ所謂「後來上居」の理によるのであつて、我國の爲に大幸と言はなければならない。更に米國も血戰七年にして共和政體を建設し得たので、其の立國は人爲的のものであるが、國民の自治性は全く自然の進化によるものである。蓋し元と渡來した者は、皆歐洲に於て志を得なかつた淸教徒であつた。各種の艱難に處し、自治の能力に富み、爲に其の民權の基礎は甚鞏固であつた。從つて立國後は絕對に內爭が無く、南北戰爭の如きは黑人の爲に行はれたものであつて、彼等同種間の問題によるものではなかつた。只米國一流の人物は多く實業に身を投じ、政界に入るを屑しとせざる傾向がある爲に、中央政府には尙優秀なる分子があるが、地方政府は人才に缺乏すること甚しく、之が爲に自治制度は日に腐敗し、米人間にも君主立

憲制度を主張する者さへあるに至つた。諸君は袁世凱の顧問古德諾(グットノー)が、專制を主張したことを頗る奇異に感じたであらう。彼は地方自治の研究者であるが、米國地方自治の腐敗を見て、專制を可なりと安信するに至つたのである。數年前米國の某都市が海嘯の爲に破壞せられた際、人民の意思を無視して其の重建を數人の主事に委託し、其の成績が佳かつた爲に、遂に之に委任制度なる名を冠し、現在既に百十餘の都市が之に倣ふに至つた。之れ共和から專制に復したものであつて、地方自治の專制化と言ふべきものである。自治制度の運用を委任することは、才略有る者なら之を希望するから、人は多く此事を善なりと信ずるに至るのである。余が今回歸國の途次同船した米國歸りの學生も、此の制度の信者であつた。惟ふに彼等は自治制度が世界最上の道理なることを知らないのである。卽ち此の制度を運用する者の善不善は、全く制度の善不善とは別個のものであつて、怪も讀書人が官界に入つて貪穢な官吏となつたとしても、孔子が斯くあるべしと人に敎へたとは言ひ得ないと同樣である。米國人の多くは深く民權を信じ、其の學理たるや撲滅又は打破し得ないものである。故に三年前初めて最新の地方自治制度を實施して以來、現在既に顯著なる實績を擧げつつある。余は今此の新制度を國人に紹介せんとするのである。

圖中最高なるは人民であつて、人民が主權を行使する主體なることを語るものである。其の下

に縣議會があり、人民は二十六人の議員を選擧して、其の立法權を行使し、當該行政區域内の人民は共に之を守るのである。更に縣長一名を置き、之亦議會所定の法令に據つて人民が選擧し、選擧されたる縣長が六局を支配し、執法局は法に依つて人を捕へ、又は訴訟を起したる場合等の如き事件を管掌し、公務局は庶務を總理し、公益局は地方公益のこと、例へば道路、教育、扶養、醫院等に關する事を掌り、財政局は一切の收支を掌り、公安局は警察衞生等のことを掌り、公用局は電車、電燈、瓦斯、水道等地方公營事業の收入を管理するのである。而して民權の特徴とする所は、從前人民は僅に選擧權を有してゐたに過ぎなかつたが、現今は罷免權をも有することとなり、以前に於ては議會の協贊を經たる立法は、人民の意志に反するも、之を取消す權利は人民に無く、或は資本家より賄賂を得た爲、公衆に有益な事も擱いて議せないと言ふが如き種々なる危險が有つたのである。然るに現在では米國七十萬民衆中、苟も七萬人の贊成署名があれば、國民大會を開き得ることとなり、又三十五萬人以上の贊成が有れば其の事項を法律となすことが出來、更に又人民の意思に反する法律は同樣の方法によつて取消し得ることとなつた。次に議會所定の法律に疑問があれば矢張上述の方法によつて改めて議決することが出來、縣長は立法に對して僅に否認權があるに過ぎず、而も其の否認たるや議會に交付し、再度議決して初めて效力を生

米國最新の地方自治制度



ずるものであつて、元々過半數の贊成を得て議決したものを、改めて三分の二或は四分の三を得て議決せんとするのであるから、其の事の困難は推して知るべきである。我國の約法規定によれば、統治權は全體に屬するものであるから、之が實施に當つては上述の方法を採用してこそ、始めて主權は人民に在りと言ひ得る譯である。

現今の留學生の多くは米國の委任制度或は請負制度（一人で自治を總括する制度）なるものは知つてゐるが、此の新制度に至つては間々知らない者がある樣である。此の制度は三年前甫めて實施されたもので、學校に於ても未だ研究の及ばざるものである。而も其の實績は頗る大なるものがあり、歐米に於ても瑞西以外は皆此の制度を採用實施してゐる有樣である。瑞西の各山邑は既は直接民權制を採用すること六十年に及んでゐるが、中央都市は一八九一年から實施したに過ぎない。我國は舊來自治の基礎を有してゐるから、之を各人の民權を尊重する心理と合せしめ、其の上に此の制度を實施したならば、之れを行ふこと十年にして、目的を達することは決して困難ではないであらう。故に今余は此の最良の民權制度を國民に紹介せんとするのである。

或は謂ふ、中國人民の程度は此の制度を行ひ得る迄に至つてゐないから、恐らくは混亂狀態を惹起するであらうと。然し乍ら此の論をなす者は共和制度が、混亂狀態を呈するに適しないもの

であることを知らないのである。卽ち此の制度に於ては創制權の如きも、最少限度全體人民の十分の一の發起と、過半數の贊成とを得る必要があり、無理に騷擾しても、斷じて目的を達し得ないのである。之に反し若しそれが眞正の民意である場合、之れを抑壓すれば、其等の民意は潛伏して現れないが、次第に極端に走り遂に反動としての爆發を見るに至るであらう。袁世凱の如きも若し穩健なる專制政治をしたならば、必ずや擧國一致の反對を見るには至らなかつたであらう。然るに袁は愚であつた。苟も容易に民意を發見しやうとすれば、善良なる機關がなければ不可である。而して此の最新なる自治制こそ其の機關である。昔の自治機關を輿とすれば、現今の自治機關は自動車の如きものであつて、能く自ら動き自ら發達し得るものである。故に吾人は此の自動的民權機關を採用しなければならない。

實行を圖らんとせば先知先覺たる人々が卒先して其の責に任ずべきである。此等の人々が能く職責を盡せば、國人は必ず悟るに至るであらう。由來我が國人は先知先覺者には服從する性質に富んでゐる。一村中二三の學究が幾許かの書を讀んで居れば、擧村樂んで其の言を聞くが如きは、實に我國人の美點である。三十年前民族革命を提唱した際、學者は視て以て叛逆となしたに引換へ、鄕人は容易に其の主旨を理解した。更に一例を擧ぐれば、以前制錢で果物を買ふ場合、咸豐、

同治の銘ある制錢は受取らずして、康熙、乾隆のものは受取つた。彼等は康乾等の字は知つてゐるが、其の反面の清洲文字で書かれた二字は其の字義を識らなかつた。故に彼等に夫れが清洲文で書かれた康熙、乾隆の意であることを告げ、清洲旗は元と我國の山河を奪つて皇帝となつたものであつて、現今の皇帝は我が國人に非ざる旨を告ぐれば、彼等は勃然として怒り、瞬刻にして民族革命の理に贊成するのが常であつた。我が國人の特性が能く善美なる言葉を受入れるものなることは、此の一事を以ても知り得るであらう。今日此の座に在る諸君が夫々鄉里に歸り、民權の理を以て其の鄉人を導いたならば、容易に普及するに至るであらう。余は年少時、好奇心から、鄉里に於て數ヶ月を費して地球の圓いことを教へ、五六萬の村人達に其の理を知らしめたことがあつた。民權を講ずるのも亦然りであつて、人智は盡く同樣である。天が我々に與ふるに良知を以てしてゐる以上、學問には深淺があつたにしても、是非の心は人皆が有してゐるものである。袁世凱が數年來種々なる方法で人を欺かんとしたが、信ずる者は極めて少く、又彼は曾て多くの小冊子（孫文小史の如きもの）を著したが、未だ嘗て效果を收め得なかつた。余は或鄉人が「孫文が國賊ならば、袁も亦國賊ではないか」と言ふのを聞いたことがある。惟ふに民は欺き易からず、而も知り易いものである。先知先覺としての責任ある者は、大いに勉むべきである。

我國に舊來地方自治の制度が存在してゐたことは、先日黃克强先生が詳言された通りである。故に此の舊礎石の上に新法を加ふるに於ては、自ら能く數千年來の美點を發揮し得るであらう。余は先般、吾人は人民の爲に叔孫通となつて、民權の貴ぶべき所以を知らしめねばならないと述べたが、今又改めて諸君に伊尹、周公となつて人民を輔導し、以て民權を確立されんことを冀ふものである。

今縣を以て民權の單位とするものと假定すれば、現在我國の縣は二千縣を超えてゐるが、更に蒙古西藏等にも漸次此の制度が擴張された場合は、少くとも三千縣には達するであらう。而して此の三千縣の民權は怪も三千塊の礎石の如きものであつて、礎石が堅固であれば五十階の高樓も建立し難くないであらう。只家屋の建築が急に成らないと同樣、建國も容易ならざる難事であつて、堅毅なる精神と、大なる忍耐力とを以て五十年間努力したならば、民國の爲に此の三千の礎石を築くことも必ず成就して、特殊の能力を發揮し得るに至るであらう。

斯の如くして三千の縣より各々一代表を選擧し、此等の代表は完全なる國民代表とし、之を以て國民大會を開いて大總統を選擧することとする。更に中央の立法に對しても修正權を行使し得ることとし、全國民の直接民權制とし、國民教育の發達と相俟つて、各縣に國民軍を置き、斯て

國本を立て國防を固うし、以て民權制度の確立を圖るのである。

此の制度を實施するには先づ計畫を定め、第一に地方自治學校を設立し、各縣に於て人選して入學せしめ、卒業後は地方に歸つて其の事に當らしむることにする。次で又自治制度を定め、人口調査、土地整理、道路開鑿、學校教育、其他諸般の政務の振興等を期すべきである。更に自治の實績を擧げ得るに至れば、直接民權の制を實施するのである。而して今日に在つては先づ先知先覺たる人が啓蒙の責を負ひ、此の新法を基礎として人民を指導し、良知を內省することを忘れなかつたならば、必ずや謬り無きを得るであらう。卽ち稍々峻嚴なる手段を用ひても、伊尹の太甲を廢したと同樣の效果を擧げ得るに至るであらう。

我が國人の習性として、規則を定むることを以て、問題の處理そのものと考へ、規則定まれば萬事畢れりとなすが爲に、多くの場合實績を擧げ得ない嫌ひがあるが、他日憲法制定の曉に於ては、斷じて此の轍を踏まないだけの覺悟が必要である。英國の如きは成文憲法は無いが、而も實行精神は存在する。吾人が若しも實行し得ない場合は、憲法も單なる一片の廢紙に過ぎないものとなるであらう。而して若し實行を欲するならば、必ず先づ自治制度を實施する必要がある。自治は共和の礎であつて、此の礎が堅ければ國は鞏固となり、國が鞏固となれば子々孫々皆其の福

利を享くるに至るのである。國が無ければ一身も一家も無い。故に今日の會の如きも要言すれば、我々一身一家の爲の幸福を謀るものに過ぎないのである。

我國の商人は政治に意を用ふること少く、孜々として業を營み只管利殖の事に專念し、國政は彼等の營利と無關係なりと考へてゐる。然るに國政の良否曲直は彼等の營利と極めて大なる關係を有するものであつて、國が治らなければ大なる金儲け、長期に亙る金儲けは不可能である。一例を擧ぐれば、余が以前香港から新嘉坡に赴むく際に同船した二人があつたが、其の一人は南洋の巨商であつて、千萬元の蓄財を有し、他の一人は商店の管理人であつた。長途の無聊を共に實業を談じて過したが、彼等の內の一人は常に樂觀的であり、他の一人は常に悲觀的であつた。悲觀的なのは巨商の方であつて、管理人の方が樂觀的であつた。余は其の巨商が鉅萬の資材を擁し乍ら嗟嘆するのを見て、竊に守錢奴と譏つてゐた。次で彼に其の原因を尋ねたが、其の且つ答へ且つ歎じての言葉によれば彼には十三人の子供が有るが、其の中の數人は甚不肖で、不良の徒に誘はれ、財產分配後の所得百萬元に對し、既に其れ以上の借財を有する爲、他日必ず窮地に陷るであらうし、末の子供達は教育も出來ないことになるであらう。而も大きい方の子供達は益々不良となり、墮落しつつある。一念此の事に及べば轉々戚々たるものがある云々とのことであつた。

余は斯くの如き事實も皆國政の不良なるによるものであると思ふ。國家が若し其の人民に善良なる教育をなし、他方善良なる法律があつて裁制を加へたならば、游蕩の民も敢て他人を惡に誘ふ如きことが無く、從て彼の富豪の如きも、斯樣に悲慘な立場には至らなくて濟むであらう。かかる意味に於て商人が政治に注意しないことは、實に大なる誤謬である。國が治らねば、苛捐と重稅とを課せらるることによつて、利殖は困難となり、一度儲けた資財も永く保存し得ないであらう。大學に曰く、生財に大道有り、能く國家を治安の域に置くと。卽ち吾人は生財の大道であり、兩院議員は我々の爲に生財の道を謀る者である。此の點單に議員のみならず、商人及四億の同胞を均しく其の責を負ふものである。而して建設の成功は、人皆が千萬の家財を得たと同樣であつて、子孫萬代の幸福を保證し得るに足るものである。故に建設の希望を有することは、利殖の希望を有すると同樣である。余は我が國民が、斯る意味の蓄財に盡力されんことか冀ふものである。

三十三、道路は建設の第一歩である

—民國五年八月九日浙江督軍署歡迎會席上にて—

今回杭州に來つて諸君と握手することが出來たのは、余の深く欣幸とする所である。

民國成立以來忽ち五年の歲月が流れたが、當時計畫された建設に關する種々なる問題は、依然實現さるるに至らない。其の原因を探究するに、多數人民の知識が發達せず、之が爲に容易に野心家に利用され、其の結果屢々變亂を發生するが爲である。只方今動搖しつつある時局の中に在つて、浙江は他省に較べ、將來に對する最も多くの希望を有し、從つて其の責任も亦頗る重大である。獨立の各省中雲南、貴州、廣西の各省は皆邊境に在り、元々貧瘠な地方である。廣東省は元來富庶なりと稱せられてゐるが、今回の糜爛を經て、其の回復は杳として期す可からざるものとなつた。此の時に當つて浙江省のみは完全なる秩序を維持し、元氣亦未だ損せず、從つて建設も左程困難ではない。

建設には千端萬緒、種々なる方面があつて、如何なる方面から說き起すべきかに迷ふが、何れにしても徒に机上の空論をなして、理想を弄ぶとも何等效果は無いであらう。而して實地に建設の效を擧げんとすれば、必ず先づ之れが基礎的條件として文明の發達を必要とするものであり、地方文明の發達は、道路の發達と否とに最もよく左右さるるものである。然るに現今浙江の道路は已に改良され、數年前に比して遙かに進步したものとなつてゐる。此一事を以てしても建設の基礎が既に定り、此の省が充分建設の能力を有してゐることを知ることが出來る。

地方を富强の域に進めようと思へば、先づ以て道路交通を重要視しなければならない。歐洲の近時二十年來の進歩は駭く可きものがあるが、今回の大戰に於ても彼等は最もよく道路交通を利用してゐる。其の交通の進歩について一言すれば、從前は鐵道敷設に反對した者も有つたが、現在既に斯樣な事は無く、人皆汽車に乘ることを茶飯事の如く心得てゐる。更に近來は自動車の發達が著しく、歐米に於ては遠距離の往來は鐵道によるが、近距離は多く自動車を利用する狀態である。人の往來は近距離の方が多數であるから、今假りに杭州から上海迄、鐵道の外に自動車を通ぜしめたならば、其の裨益する所は必ずや甚大であらう。交通が發達すれば工藝も仍て以て振興し得るものである。

世人は常に之が爲に要する基本金の籌備困難を云々し、其の結果遂に消極主義に甘んじてゐるのであるが、之れは國家の富力が決して通貨の多寡によるものではないことを知らない爲であつて、金銀の額は必しも多額でなくとも、其の運用宜しきを得れば、一萬にてよく十萬の用をなし得るものである。余は先年露蒙に關する問題を論議した際、五年以内に五百萬人を練兵して初めて戰ひを云々し得るものであつて、之れが爲には紙幣を增發する必要があると說いた。此說を聽いて世人は多く、單なる理想でしかあり得ないとなしたのであるが、今回の歐洲大戰は余の說の

可能なことを立證してくれた。卽ち英國は四千萬の人口を以て二ヶ年以内に四百萬を練兵したのである。況んや我國の戶口は英國に十倍するに於ては、五ヶ年間に五百萬人を練兵するに何の困難があらうか。紙幣の發行に至つては、之れに伴ふ弊害の有無は、流通方法の當を得たると否とによるものである。歐戰中露獨が悉く紙幣を用ひたことよりするも、決して理想の空論に非ざることを知り得るであらう。

財政の困窮は其の方法の妥當ならざるに因るものであつて、硬貨の少いことに因るものではないのである。地方の生產力が既に熾んなるに於ては、何等致富の難きを患ふる必要はない。浙江の生絲の產出の如きは、全世界に著名なものであつて、若し此の生產力を利用し、生絲を輸出せずして織つて絹布として賣れば、富力の增大は實に計る可らざるものがあり、多數の職工をも雇用し得るに至るであらう。而して生產物の流通には道路交通の便利なことを必要とするものであるが、浙江は既に道路發達の基礎を有してゐるから、機會を見て諸君が同心協力、更に一層道路のことに力を致したならば、工藝も隨つて發達し、惹いては一般の文明も他省の模範となり、全國も仰いで之に賴るに至るであらう。凡そ事業の成功の程度は、地位の大小とは無關係なものである。民國成立の初め、余等は力を竭して袁氏を援助し、其の成功を願つたのであるが、結果は既

に現在の如き有様である。人に苟も正確なる志があれば、地位は小なりと雖必ず大事業に成功し得るものである。諸君は各人皆其の責任を盡さなければならない。然る時は浙江省も大いに爲す有るの省となり得るであらう。最後に道路は建設著手の第一階梯であり、之より著々進行すれば、前途に無窮の希望を有し得るだらうことを再言しておく。

三十四、眞の共和と僞の共和との爭ひ

—民國六年廣州の歡迎會に於て—

余は十餘年前共和政體を主張したが、久しい間同胞の曉る所とならなかつた。其後世界の新思潮が此の政體を提唱するに至つて、國人は初めて其の眞髓を知る樣になつた。斯くて東方の大共和國が生れたのであるが、之には督軍及省長の援助が與つて力があつた。然し共和成立後六年になる今日、未だ觀るに足る成績を擧げ得ないのである。只之が世界に影響した所は偉且つ大であつて、眞に人をして不可思議の感を抱かしむるに足るものがある。則世界に於ける最腐敗し而も最强大なる國家の一であり、且つ最も外部思潮による激動を受け難い國であり、其の爲政者は數百年に亘つて猛威を蓄積し、小なる改革でも他國に比して遙に困難な狀態に在つた露國が、突然

其の牢として破る可らざる專制政體を覆滅せしめて一つの新なる共和國を建設し、我が中國の善隣となつたことは、世界の一大事件であり、此事は人々の知る通りであるが、之實に中國の影響に由るものである。露國の頑固なる腐敗は、歐洲文化も之を改易し得ず、幾多の志士の鮮血も改易し得なかつたのであるが、中國が數十朝を經た帝制を僅々數日の間に覆滅せしめて共和を確立するや、之が影響を蒙ること甚大であつたのである。

然るに其の中國が、共和國を建てて六年に垂んとして、未だ曾て國民が共和の福利を享受し得ないのは何故であるか。之は共和の罪ではない。共和國の爲政者が共和の假面を被つて、事實專制を行ひつつあるが爲である。故に今日の變亂は帝政と民政との爭に非ず、新舊思想の爭に非ず、更に又南北意見の爭にも非ずして、全く眞の共和と僞の共和との爭なのである。此時に當つて眞の共和を奪回して福利を求めんとせば、どうしても陸海軍の二大勢力に倚らなければならない。余が大勢を熟察するに、强大なる陸海軍に倚るに非ざれば、國民の爲に眞の共和を奪回して、救國救民の目的を貫徹することは不可能であると思はれる。仍て余は屢々程總長と談議した結果、彼は全海軍を擧げて共和に味方することに決した。然し海軍には根據地の必要があり、上海は既に謀叛者の根據地となり、浙江福建も上海と同樣である以上、廣東を其の根據地として初めて一

切の大計畫を發展せしめ得るのである。故に余は今日諸君が連名で海軍に電請し、全海軍の來廣を求め、然る後廣東に於て國會を招集し、更に黎大總統に請ふて、廣東に來つて職務を執行せしめられんことを願ふものである。余は先日程總長と協議し、既に二艘の軍艦を北京に派遣し、黎大總統を南方に迎へて職に就かしむる手配をしてあるが、日本公使は現在京津一帶に叛軍が充滿し、黎大總統が一度び公使館の門を出れば、外部の暴力による危險を免れ得ないであらうから、徐ろに萬全の策を講じ、時機を見て總統を送つて出京せしむべしとなしてゐる爲、前記の二艦は目下秦皇島に於て待機中である。故に吾人が廣東に在つて略々組織を完成した頃には、彼黎大總統も來廣するであらう。之れ元より國家興廢の岐るるところであり、共和存亡の機軸であるから諸公は當に同心協力すべきである。即ち電報を發し艦隊と議員とを廣東に招集して政府を組織すべきである。何となれば共和國の總樞は全く國會に在り、國會の所在地は即ち國家政府の所在地たり得るからである。

三十五、之れを行ふは難きに非ず之れを知るを難しとす

—民國六年七月二十九日廣州全省教育界歡迎會にて—

本日の歡迎會は余を歡迎するのではなくして、實は共和を歡迎するのである。共和創設以來六年、共和の名ありて實無く、其の間帝制の發現を見ること二度、一つは袁世凱、他は宣統帝の復辟が之れである。然るに今依然として共和政體が存續してゐるのは、實に人心の歸趨によるのである。今日我が國人中帝制を崇ぶ者は少數であり、共和を崇ぶ者は多數である。何を以て之を徵するか。前記二つの場合に於ける帝制は短期間に消滅したが、共和は之に比すれば、既により多くの期間を經過した。之れ即ち帝制が共和と競爭し得ないことを物語るものである。昔日專制國たりし露國が現在共和に變じた如き事實も、以て時代の潮流を窺ふに足るであらう。時に順ずれば興る。帝制は今や永く存在し得ないものである。之が一例として曾つては復辟の贊成者であつた段、倪等の各人も、現在は復辟反對者として、軍隊を動かして共和の擁護に當りつつある。彼等は共和の名を藉らなければ軍人の心を壓服し得なかつたのである。之を以て視るも人心の趨く

所、共和は成立し得べくして、帝制は永く發生の望み無きを知り得るであらう。只惧るる所は今後尙眞の共和と僞の共和とが併存するだらうと言ふことである。卽ち段、倪等の提唱しつつあるものは僞の共和であり、張、康等のそれは眞の復辟である。而して僞の共和の害は眞の復辟より甚しいものがある。諸君等共和を歡迎する人々は、當に先づ眞の共和を擁護して僞の共和を打破すべきであつて、然る後初めて眞の共和の建設は可能となるのである。此等の責任は諸君が負はねばならない。今後永く帝制と共和との競爭は無いであらう。余が惧るる所は眞の共和と僞の共和との競爭である。

眞の共和を擁護せんとせば、當に先づ富强を圖るべきである。之れ今日の中國に於ける第一の要義である。然るに此の問題の實行が可能なりや否やに付いては二種の異つた見解がある。其の一は悲觀論であつて、今日の中國は瓜分共管の運命を辿るものであり、挽回すべからざるものであるとなし、他の一は樂觀論である。日本は元中國に比して貧弱であり、面積も中國の二省の廣さに過ぎないが、今日能く世界の一等强國となることが出來た。何が故であるか。教育者達が立志興國の學說を提唱したからである。此の學說が有れば其の國は必ず富强となり、貧弱とはならないであらう。卽ち富强の策は奈邊に在りやと言ふに、一年中他の研究は一切せずして、只此種

學說を研究すれば事足るのである。日本と中國の强弱同じからざる所以、詳言すれば中國數千年來の文化は現在地を掃つて殆ど盡きたるに反し、往昔中國の屬國にも等しい地位にあつた日本が現在中國に較べてより强國となり、堂々たる上國とも言ふべき中國が反つて之に及ばない理由は、「難」の一字に禍されてゐるからである。然るに日本人は事を爲すに當つて「難」の一字を知らない。

彼等は冥行直遂、眞一文字に旺進して今日の成功を得た。中國人の知識は日本人の上に在る。日本人は王陽明の學說を尊ぶが、彼陽明は「知行合一」を說いた。我國の古書に「之を行ふは難し」とある。然し余をして言はしむれば、此の說は是に似て非なるものである。余は言ふ「之を行ふは難きに非ず、之を知るを難しと爲す」と。

余の說は舊學說を覆すものの如くであるが、此種學說は上古に於ても曾て提唱されたが、未だ其の然る所以を證明し得た者は無かつた。今余が一學說を得て古人の舊學說を打破せんとするのは、飽く迄行はしめんとする爲である。中國の大成至聖の言に曰く「民は之に由らしむ可く、之を知らしむ可からず」と。孟子曰く「之を行ふて著れず焉、習ふて察せず焉、終身之に由つて、其の道を知らざる者は衆也」と。商鞅又曰く「民は與に成を樂しむ可くして、與に始を圖り難し」

と。以て之を行ふは難きに非ずして、之を知るを難しとなすてふ學說が、中國上古の聖賢の遺敎なることを知り得るであらう。更に今一つ余の說を證明するに足るものがある。卽ち文法の如きも、我國に於て使用し乍ら其の然る所以に至つては之を知らない。又豆腐は元と有機物であつて、外國に於ては最近に至つて初めて其の用途を發明して驚いてゐるが、我が中國人は夙に之を應用し、豆腐の製法の如きは數千年前に發明されてゐる。之を以て見るも中國人は行ひ得ざるに非ずして、知り得ざるものなることを知ることが出來る。

自ら思ふに、余が滿淸を覆滅して共和國を創建したことも、今にして視れば、如何なる方法を用ひたかは余自らも知り得ざる所である。之を家屋の建築に譬ふれば、必ずしも中國が技師として計畫しなくとも、大工、左官等によつて、立派に大屋を建て得るのであつて、何が故に然るかは知り得ないが、其の妙は實に名狀すべからざるものがある。之れ蓋し先づ行ひ、而も其の場合必ずしも知るを要せざることを示すものである。斯の如く先づ行つて然る後知るは、進化の初級であり、先づ知つて後行ふは進化の盛軌である。

余は往昔破壞主義を抱懷してゐたが、方今未だ能く建設し得ざるに當つて、一書を著して中國建國の新方略を說かんとしてるゐ。其の大意は精神的建設と實質的建設とであつて、前者は政治

の肅淸であり、後者は實業の發達である。吾人は今日此の困難なる時局に處して、大いに努力しなければならない。

三十六、中國改造の第一歩

—民國八年十月八日上海靑年會に於て—

本日は靑年會幹事との約束により、諸君と相見ることが出來て頗る愉快である。「中國改造の第一歩」此の題目は幹事が事前に定めたものであつて、余と商量して定めたものでは無い。故に只、題に付いて出來るだけ述べてみる考へである。

十月十日は中華民國の國慶紀念日である。靑年會は此の日を慶祝し、余も之が爲の盛會に參會することになつてゐる。然るに今日も亦國慶日と認め得べき日である。何となれば武昌に於て敵は搜索の結果黨人の名簿を奪ひ、我が黨人を捕へ、之が爲に三烈士が殺されたのは、正しく八年前の今日であつた。十月十日の成功は全く八日の犧牲の賜であつて、若し當日淸朝が極度に壓迫しなかつたならば、革命の爆發は或は左程速かには起らなかつたであらう。然るに革命成功後既に八年を經たる今日、何が故に猶も中國改造を說かなければならないか。當時既に滿淸の政府を

倒したが、建設に關する種々なる事項には毫も着手しなかつた。之が爲に今日猶中國改造の方法を討論せざるを得ないのである。

何が故に改造を要するか。現在中國の政治は非常に腐敗してゐるからである。然らば改造の方法として如何なる方面から着手すべきであるか。人或は謂ふ、教育こそ立國の要素であると。然し若し我々が教育に力を致した場合は、一般官吏は之に贊成しないばかりでなく、何等かの法を設けて其の計畫を破壞するであらう。例へば我々が青年を培養し、巨額の金錢を費して一種の完全教育を施したとすれば、官吏は此等新人物の心理を嫉視し、必ず之れを死地に置くに至るであらう。又或る者は實業を興して、多數人の生計の困窮を救ふべしと說くが、斯る場合、官吏は之れを奬勵しないのみでなく、比較的大なる會社、又は鑛山事業等を始め様とすれば、彼等は必ず先づ多額の賄賂金を要永し、之が支拂を受けたる後、始めて開業を許可するであらう。其の實例として辛亥革命後、多數の華僑が熱心に歸國して實業を經營せんとしたが、官吏が餘りに多額の賄賂を要求した爲に、中途で失望して中止した者が多かつた。斯く觀ずれば、先づ實業より改造に着手せんとすることも之れ亦希望を持ち得ない。

又或者は立國の根本は、人民をして自治の能力を有せしむるに在る。故に地方自治が最も重要

であつて、先づ一鄕一區より始めて一縣に及ぼし、更に一省より一國に至れば、必ずや國家改造の希望をも有し得るであらうとなす。然るに現在の官僚は、人民が自治能力を有するに至ることを決して喜ばない。試に地方自治の經費を見るに、官僚の爲に無慘なる削減を受け、自治は全く實施不可能な狀態である。

以上の三種は元より中國改造の要件ではあるが、未だ以て第一歩的方法とは認め得ないものである。然らば此の第一歩的方法とは何か。余の意見によれば只革命有るのみである。多くの人は革命の二字を聽いて怕れを抱くであらうが、革命の意味は完全に改造と同樣のものである。卽ち一種の建設計畫を有し、之が爲に破壞を爲すのが革命の意義である。譬へば我々が一軒の新居を建築する必要ある場合、先づ舊い建物其の他を破壞して綺麗に整理し、更に基礎工事を鞏固にして、初めて堅牢な家屋を建設し得るのである。此の方法によらないのは古代の建築方法であつて、今日には適用し得ない。八年來中國の政治が斯くも不良なる狀態になつたのは、實に地面の破壞のみをなして、地下の舊土を堀り起さなかつたからである。地方の舊土とは何か。卽ち前淸の遺毒たる官僚が之れである。

中國國家の腐敗を極端に達せしめたのは、革命の罪惡ではない。革命が淸政府を破壞して後、

一般人民は常に革命黨を以て破壞の能力のみを有し、建設の經驗無きものと罵り、遂に輿論は悉く官僚の執政を希望するに至つた。袁世凱時代の如きは、殆ど大部分の人が袁にあらざれば不可なりとなした程であつた。革命黨としては中華民國の主權は、國民全體に屬すべきものであるとなしたのであるが、輿論を如何とも爲し難く、遂に相率ひて進んで下野し、政權を官僚の手に渡した。此の八年來官僚と武人とによる政治の形體を見るに至つた原因は、此の一點に存するのである。

現在の國內政治は清朝時代のものに比較して異る所がない。余をして言はしむれば、清朝の政治の方が寧ろ今日よりも勝つてゐた。一般の人民は清朝政府の治下に在つた時代の方が、今日より多くの自由を享有し得た。更に現政府が濫りに人民を逮捕殺戮するが如きことは、清朝專制時代にも見受けなかつた。又現在の武人と官僚との貪婪さも、清朝時代に較べてより甚しいものがある。余は清時代廣東都督某が一ケ年に一百萬元を蓄へて、世人が頗る之を奇とした事を記憶してゐるが、今日から見れば問題とするに足らない。卽ち督軍師長等の如きでさへも一ケ年に數百萬の金儲をなし、數年にして千萬元以上に達する者さへある狀態である。此の事實よりしても現今の武人等の貪婪の風が、清代に倍するものであることを知ることが出來る。我々は清朝の政治

が不良なりし爲、革命運動を興したのであるが、革命の結果が清朝時代よりも更に不良なる現象を呈するに至つたのである。然し乍ら此の原因は革命黨の罪に歸すべきではなくて、實に清代の遺毒たる武人と官僚との罪である。

我々は既に中國の改造を企圖したものであり、須らく燦爛として莊嚴なる中華民國を建造すべきものである以上、技師が偉大なる家屋を建築せんとする場合と同樣、須く新式の方法を用ひなければならない。新しい方法によつて建築するには、家屋が高大であればある程、基礎工事を深く堅固にしなければならない。堀り除く舊土も從つて深く多くなる譯である。而して此の舊土こそ舊官僚なのである。

清朝時代の武人は文官の支配を受け、提督の如きでさへも縣官の職權を侵犯することが出來ず、若し武官が不法行爲をなした場合は、清政府は法律に照して嚴重に處分したものである。試に見よ。現在の北京政府に斯の如き魄力があるかどうか。余の見る所では一師長又は旅長の職をさへ免じ得ないであらうと思はれる。故に現在の中國の武人の如きは舊土の一種にしか過ぎないものである。

清代の地方勢力家は、訴訟を引受けたり、地方人を食ひ物にしたりしたが、公然と此等の行爲

を敢てすることだけはしなかつた。然るに現在の政客は白晝堂々と不正を働き、武人を煽動して國政を擾亂せしむるが如き事をなしてゐる。現在の武人の種々なる不法行爲は、皆政客の使嗾によるものである。武人の頭腦は頗る簡單であつて、不善を爲す方法の如きものには充分に考へ至らないものである。北方の張、南方の陸の兩人の如きを見ても、彼等は本來野人に過ぎないのが、政客の教唆を經て初めて種々擾亂の方法を發明するに至つたのである。故に政客も舊土の一種である。

斯く觀じ來れば莊嚴にして燦爛たる民國を建設せんが爲には、先づ上述の如き三種の舊土を排除して、始めて鞏固なる基礎を築き得るものなることに想到するであらう。而して斯くすることこそ中國改造の第一歩なのである。本日來會の諸君が此の精神を抱いて、新中華民國の改造に當られんことを、余は衷心より諸君に希望する。

三十七、救國の急務

—民國八年十月十八日上海寰球中國學生會にて—

今夕は招請を受けて來會したに就いては「救國の急務」と言ふ題で講演したいと思ふ。

民國成立後已に八年の歳月を閲した今日、何が故に尙救國の方法を研究しなければならないのであらうか。中國は今や最大なる危期と未曾有の艶難とに遭遇してゐる。卽ち內憂外患共に至り、內には南北の抗爭あり、外には强鄰が我が國脈を危からしめんとしつつあるのである。故に吾人は此時に當つて最も有力なる一方法を選んで、我國を救はざるを得ないのである。

吾人の採り得る救國の法は只二つある。其一は現狀を維持し、合法國會を恢復し、永久に眞正なる平和を維持することであり、其二は改めて又新革命事業を始め以て根本的改革を計ることである。先づ現狀維持について述ぶれば、諸君も承知の如く數ケ月前五ケ國の警告によつて上海に講和會議を開き、南北兩代表間に於て事實一切の問題は已に解決されたのであるが、只國會の處置を如何にするかと言ふ問題のみは未だ解決さるるに至らないのである。北方の代表は此の問題に對しては、絕對に國會の恢復を承服せざることを表明し、南方代表は此事は孫逸仙の主持する說であるから、北方代表は直接孫と打衝して貰ひたいと主張し、其の結果北方代表吳鼎昌君が余の許に來訪した。彼の言によれば此方は必ず我々の要求を拒絕するであらうから、別の方法を提出して貰ひたい、とのことであつた。そこで當時余が彼に提出した要求は次の三項である。

一、軍閥は約法を破壞し、人民の握つてゐた主權を奪つてゐるから、此の權を約法の建立者た

る革命黨の手に還すこと。

二、若し軍閥が、此の主權は强力を以て淸室から奪つたものであるから、革命黨員に還すことは出來ないと言ふのなら、張勳に倣つて此權を再び淸室に還し、淸帝の復辟を實現す可きである。

三、若し軍閥が之を以て猶足らずとするならば、袁世凱に倣つて帝號を僭稱し、以て此の權を永久に掌握すべきである。

余は吳君に北方は此三事を敢行し得るやと問ふたが、吳は毅然として「否」と答へた。仍て余は然らば國會恢復の一途有るのみではないかと答へたが、吳は承服せずして去つた。爾來此の講和は效果を見ず、斯くて王揖唐君の任命を見るに至つた。此の事に對し今日諸君は王揖唐君の北方總代表となることに異口同音反對を唱へてゐる。然し余は王揖唐は吾人の公敵であるから、彼が來つて吾人と會商することを欲しないと言ふ議論は常軌を逸してゐると思ふ。常理から言つても、現に親友である人と和議を講ずる必要はない譯で、講和は敵たる者との間に於てのみ談合されなければならないものである。

王揖唐の來滬以前、彼は余の許に人を遣して、和議に對する態度如何を余に問ふ所があつた。

仍て余は、王が若し國會恢復てふ條件を允すならば、余は和議の助成に盡すべきを告げた。其後王が北京を離るるや南方全體が起つて反對した爲に、彼は南京に留つて風潮を避くることを決意し、重ねて余の許に人を遣して如何にすべきかを問はしめた。之に對し余は王が眞に國會問題を解決せんが爲に來つたものであるならば、直に來つて余と面談すれば、余は彼と共に和議を完成すべきことに對して全責任を負ふであらうと答へた。其の後王が來滬して余の許に來るや、余は彼と國會問題に付て、虛心淡懷、以て長談を交へた。其時の王の言葉によれば、彼には已に新舊國會の合同と、永久憲法の制定とを許諾する準備があるとのことであつた。仍て余は之れが余の條件に非ざること、余の條件は合法國會の恢復なることを告げた。之れに對する彼の答は、余の言に從へば北方の無條件降服と同樣であつて、之れ段祺、瑞徐樹錚等の斷じて承服せざる所であると答へた。而も彼は誠意、平和と妥協とを求め、余に他種の方法はないかと問ふた。余は再び先きに吳に告げた通りのことを彼に告げ、且つ此等の方法を受諾し得ないならば、余と共に革命事業に從事することが、彼の爲最善最後の方法なることを告げた所、王氏は熟慮の後改めて返答すべきを答へた。

四億の同胞が我民國を救はんとせば、只二つの方法あるのみである。一は則ち余が三ヶ月間南

京に在つて民國の爲に經營した諸制度の維持であり、他は再び最初から革命の全事業をやり直すことである。今諸君は須く自らの慾求する所を決定しなければならない。求むれば必ず與へられるものである。諸君は或は自らを無力であると考へるかも知れない。然し諸君は中華民國の約法によつて、此の國の主人と爲つてゐる事を知らなければならない。從つて諸君が苟も自己の力を如何に用ふべきかを知るならば、決して力の足らざるを患ふるには及ばないのである。試に今回の學生運動を見ても、彼等は激昂して此の事を興したのであるが、最短期間に絶大なる效果を收め得てゐる。之を以ても團結の力の强大なることを知り得るであらう。若し諸君が卽時正當なる方法を以て結合し、國會政治の下に於て、自己の權利の回復を要求したならば、余は諸君の成功を斷言することが出來る。然し之には先づ諸君が、余と少數黨人とが、多數の反對に抗して二ヶ年間主張して來た國會恢復の主張を支持し、北京政府をして、再び吾人の主張を拒絶し能はざらしめなければならない。斯くすれば眞正なる平和の獲得も不可能ではないであらう。先に余が述べた現狀維持とは此事である。

若し上述の方法を實行し得ないならば、救國の方法としては他の一途あるのみである。他の方法とは卽ち重ねて革命を行ふことである。或者は言ふであらう。何が故の革命か。革命を厭はし

いものとは思はないのかと。斯の如き言を爲す者は、革命黨は破壞のみを知つて建設を知らないと思つてゐる者であつて、大なる誤りである。我黨に就いて觀ても、只建設を急いで破壞の完成を待ち得なかつた爲に、無用の舊物を殘留せしめて破壞しなかつた。卽ち淸朝を覆すことは出來たが、陳腐なる官僚系統を除去するに至らなかつた。吾人は已に一つの專制政治を破壞することは出來たが之に代るものとして現在、三つの專制政治が起り、弊害は一層激しくなつた。卽ち官僚と軍閥と陰謀政治家とが民國の最高の權利を左右してゐるのである。

我四億の同胞は民國の主人公である。須く起つて天下の輿論を喚起し、以て此の醜類を驅除するの決心をなさなくてはならない。諸君の中には救援者の無いことを心配する者があるかも知れない。然し諸君は數日前、民國の八周年を慶祝した筈であるが、それに就ても思出すのは辛亥革命の時のことである。當時武昌の砲工營の同志は、逮捕の手が其の身に及ばんとしつつあるのを知り、死を冒して義兵を擧げ、態秉坤君が先づ第一に事を發し、遂に滿族による羈絆を破壞し去つたのであるが、其の態君が余に告げた所によれば、當時の義軍は退役將校の手によつて三箱の彈丸を都合し得たばかりで、其他の新軍で嫌疑を受けた者の彈丸は、已に盡く沒收されてゐたとの事である。斯の如く當時革命黨人の物資缺乏は到底今日の比では無かつた。而も諸君は其の彼

等の手によつて年々雙十節を慶祝し得てゐるではないか。斯く觀ずる時、救援及物資の有無は問題とするに足りないことを知り得るであらう。

今日の南方には護法の爲に戰ふ、眞に國を愛する十五師の陸軍が有る。此の愛國軍隊は督軍又は高級長官の私の命令を受くべきものではなく、人民の指揮を待つべきものである。故に余が今回の護法戰爭を提起し、北方の叛賊を討つべきことを聲明するや、南方の軍閥は、努めて余の謀を阻止せんとした。余の護法事業たるや廣州を根據とするものであるが、廣東の督軍は北方に忠ならんとし、余の計畫を聞いて彼等は立つて反對したのであるが、軍隊が義に向ひたる爲、彼は竟に余を如何ともする事が出來なかつた。然るに其後護法の戰が我々に有利となるや、南方軍閥は始めて來つて之に參加し、更に舊國會を犧牲とすべきことを提議し、以て分贓に與らんことを願ひ出るに至つた。北方が飽く迄、國會恢復を拒絶するの主張を堅持しつつあるのは、彼等が深く南方軍閥は場合によつては、欣然國會反對の計畫に同意するであらうことを知つてゐるからである。

四億の同胞諸君よ、第二段の策を實行せんとせば、須く速かに之れを爲せ。吾人には南方に最少限度十五師の愛國軍隊があつて、專ら國民の指揮を待ちつつあり、北方にも少くとも五師の衆

があつて、諸君の指揮を待つてゐる。諸君よ、決して諸君は諸君の希望を遂行する力無きを憂ふる必要は無いのである。

今や二十一箇條條約は北方の竊かに許可する所となり、危難は目前に在る。諸君も已に廢約を要求しつつある。然し軍閥が已に完全に此れ等の賣國的條約を要求する勢力に支配されつつある以上、どうして之が廢棄を爲し得ようぞ。而も諸君は自己固有のものたる締約廢約の權力を拋棄して、之れを北方人に付與し簒竊せしめてゐるのである。之れ實に計を失したものであることを知らねばならない。之が爲に前門の虎を拒んで、後門の狼を入るることとなり、益を見ずして先づ其の害を受くることとなつてゐるのである。諸君は締約廢約の權が元、國會に在ることを知らなければならない。從つて此れ等の全權を國會に還せば、諸君の要求は必ず到達されるであらう。然るに國會を恢復し得ないとなれば、只重ねて新革命を爲し、以て此の簒奪者の全部を除去し、同時に一切の腐敗せる舊官僚を掃蕩し、更に此の條約を否認する外は無いのである。余は諸君が必ずや、如何にすれば國を救ひ得るかの一點に考へ至るだらうことを信ずる。

國民よ、諸君は民國の主人公である。諸君が當に爲すべき所を吾人に命令するに於ては、其の最上の要求と雖、必ずや到達し得られるであらうことを、余は信じて疑はない。

三十八、正式政府の成立は民國の基礎を鞏固にす

—民國十年元旦廣州政府に於て—

本日は南京政府の成立紀念日である。中華民國成以立來既に九星霜の歳月を閲した。當初吾人は民國の基礎を鞏固にし、變亂を平ぐる決心をしたのであつたが、專心と違ひ遂に今日斯くの如き局面を招來するに至つた。今後若し現狀の儘推移すれば、九年にして功を爲し得ざるのみか、九十年を經るも猶且つ成功し得ないであらう。然らば吾人は如何なる方法を用ふれば、中國の基礎を鞏固にし得るか。單に民國の成立と言ふ點より言へば、實質的には武昌義擧の日に成立したと見るべきであり、之れが中國元年の元旦に至つて正式に成立するに至つたものである。外人は南京政府の成立以前には中華民國の存在を知らず、成立後初めて之れを知り、次で全世界の注目を惹くに至つたのである。故に民國の成立を論ずれば、當然元年の元旦を以て始めと爲すべきである。然し乍ら成立するには成立したが、基礎猶鞏固ならざりし爲、九年間に一度は袁世凱により今一度は張勳によつて民國を覆された。幸にして間もなく恢復されたが、段祺瑞が袁の帝制に反對し、張勳を驅逐した後は、自ら其の功に誇り、法を破壞し國を賣つて悍然として顧みざるに至

つた。玆に於て吾人は忍ばんとして忍び得ず、海軍を率ひて南來し、法を護り外交其他の問題を解決せんと期し、數年來堅持して毫も讓らなかつた。其後末節を棄てて大局を保全せんとし、誠意を以て北方と和を謀つた。講和停頓後段、祺瑞も漸次武力統一の不可能なることを覺り、法律外交の兩問題に對しても、讓步の意を示し、期を定めて軍事協約を取消すことを許したが、次で排日派の曹錕、吳佩孚及親日派の張作霖等が、聯合して段を倒した爲に、遂に此の問題は商量の餘地無きに至つた。其の後岑春煊等は講和を謀らんが爲めに、投降條件を商議決定したが、廣東軍が廣東回歸の目的を達するに及んで、其議は自ら放置され、彼等が倉皇として出走せんとせる際に、自主を取消した爲、北庭は竟に統一を宣告するに至つた。此種の行爲は兒戲に類するものであつて、余と伍唐の諸君とが既に否認を通電したものである。

此の度廣東軍が廣東に回歸したに付いては、其の責任は元より續いて法を擁護するに在るが、余をして現在の大勢を觀察せしむれば、護法は決して根本問題を解決し得るものではない。仍て吾人は今後一定方針に從つて、一新紀元を開かなければならない。卽ち中華民國の基礎を鞏固にし、變亂を削平せんとするには、當に正式政府を建設すべきである。蓋し護法は北方政府の非法行爲を矯正するに過ぎないものであつて、其の目的を達し得ても、中華民國には何等裨益する所

が無いからである。況んや護法は國內の一部分の問題であつて、對內的に依然北方政府を中央政府と認むるものであり、對外的にも何等中國の國際的地位を向上せしむる效力を有しないものである。數年來、北方政府は自ら中央政府なりと稱し、外人も依然之を承認してゐるが、吾人は彼等を土匪と見做してゐるに過ぎない。故に吾人より見れば護法區域は土匪區域であつて、其の主義とする所、餘りに狹く、且つは不正である。吾人が此の狹隘なる主義を採ることは、換言すれば北方政府を中央政府として承認することであり、外人に北方政府を承認せしめ、其の結果彼等の蔑視を買ふに過ぎないものである。又護法區域には以前四川、廣西等も加入し、範圍は比較的廣大であつたが、現在縮少し、其の不適當なことを物語つてゐる。更に軍政府機關に至つては、外人は之を清代の營務處と同一視し、其の中華民國を代表し得ず、北方政府に對抗し得ないものであることを知つてゐる。以上の種々なる點より觀て、吾人は正式政府の建設が、一日も忽にすべからざるものなることを知ることが出來る。且つ北方政府は自ら正式政府と稱してゐるが、現在徐世昌は、公然と舊國會選擧法によつて、新總統を選擧する旨、發令してゐるから、總統たる彼自身が、既に非法選出によるものなることを宣布したと同樣であり、自ら其の政府が正式政府に非ざることを公示したことになる譯である。故に吾人も亦此等汚穢に堪えない北京政府を排除

し、善良にして淸淨なる正式政府を建設せんとするのである。之れ中華民國の基礎を鞏固にし、變亂を削平する所以であつて、放棄し得ざる吾人の責任である。只正式政府設立を建議する權限は、全部國會に在るから、國會が北京に在る以上其の職權を行使し得ないが、廣州に國會が在れば自由に之を行使し得るのである。故に余は國會議員諸君が、南京政府の辨法に倣つて、廣東に一つの正式政府を設立されんことを望むものである。斯くすれば對內對外の總機關として中華民國の前途に益する所尠からざるものがあらう。斯の如く余は目下廣東に正式政府を建設することの必要性を大いに認むるものであつて、之が中華民國十年一月一日の、新に紀念さるべき事項とならんことを願ふものである。

三十九、中國問題解決の方法

—米國議員團の歡迎會にて—

近來中國は極端なる混亂狀態を呈してゐる。此の三年來南北は互に戰火を交へ、南部邊疆地方に於ても、現在雲南と廣西とが干戈を交へてゐる。更に北部邊疆地方でも、南隷と安徽の兩派が相戰つてゐる。斯の如く混亂せる狀態は、中國に於ても古より未だ見ざる所である。斯る情勢は

混亂更に混亂を生み、遂には國民が解決の方法を發見する希望をさへ有し得ない樣な、如何とも爲し得ない、最惡な狀態に立ち至らなければ拾收出來ないものであるかと言ふと、余は然らずと信ずる。即ち若し能く正當なる軌道によつて進んで行くならば、必ずや解決の方法は求め得られるものである。中國問題を解決せんとするには、先づ次の三項に付いて知らなければならない。

一、之れは純然たる外國人關係の問題であるが、二十年前八ヶ國の聯合軍が北京を占領した際、各國は歡喜して中國の處分方を、商議し之れが爲に中國は殆ど全領土を分創されんとした。然るに當時米國の國務員約翰海が各國間に一通の廻狀を廻した爲に、辛うじて此の問題は消滅するに至つた。若し現在の中國問題を、依然舊の如く純然たる外國人間の問題たらしめたならば、彼等外國の政治家達は、立ろに一箇の解決方法を案出するであらう。

二、此の問題は純然たる中國人關係のものである。中國人が常に自己の問題に關して、他人の關與することを排除し、獨裁的政體を排除して、眞の共和國としたならば、一切の內政問題も中國人自身の力を以て解決し得るであらう。

三、之れは複合的問題である。即ち中國人のみに關するものでないと同樣、外國人のみに關する問題でもなく、此等兩者の混合せるものである。從つて解決も最困難であり、先づ種々な

情勢を精密に研究して後、始めて解決方法を見出し得るものである。然し此の問題は若し能く其の性質を洞察し得るならば、解決も至極簡單である。以下此點について述べることにする。

余は既に中國現在の混亂を停止し得る方法を見出し得た。此の問題の解決の鍵は二十一ヶ條條約の廢棄に在るのである。若し能く二十一箇條を廢棄し得たならば、再び混亂を呈することはないであらう。

次に二十一箇條條約の歷史に付いて略述する。

二十一箇條條約とは何か。多くの人は之を單に日本の中國蠶食の一つの現れであると思つてゐる。之れが若し眞に然るならば、至つて簡單な問題であつて、一箇の統一國たる中國が、日本の壓迫に對抗すればよい譯である。然るに此の問題は事實は中國人から起つたものである。即ち袁世凱が故意に日本の斯くも過大なる特權を承認し、之れが代償として、日本をして、彼が中國の皇帝たることを援助せしめんとしたのである。當初日本は、斯る激烈な條約の提出を逡巡した。當時の日本の外務大臣加藤高明男爵は、豫め先づ仔細に袁氏が應諾するや否やに付いて觀察し、彼に應諾の意思有ることを確め得た後、更に袁氏に絕對祕密を守る

べきことを要求し、日本側より提出する迄は、之が條約の内容を漏洩することを禁じたのであつた。然るに提出後、新聞紙が此事を世に漏すや、中國及外國の各方面に於て、紛々たる反對が起るに至り、袁氏の部下迄も反對を唱ふるに至つた。茲に於て袁氏は日本政府に、終始其の主張を堅持し、必要があれば出兵して武力を示すべきを要求した。そこで日本は袁の畫策に從つて中國に派兵したのである。當時日本人も、皆日本政府の如き無暴な舉を攻擊したが、日本の首相は、滿鮮駐屯軍の滿期に當る爲、派兵交代せしむるものなる旨を聲明した。然し之れは完全な飾詞で、派兵したのは滿期の二ヶ月前のことであつた。而も日本の首相は遂に之を以て中國の反對を壓へてしまつたのである。

他方中國に於ては、袁世凱は日本の派兵を直接威嚇行爲なりとし、中國人をして彼を信ぜしめんとした。即ち二十一箇條條約を承諾しなければ、日本は武力を用ふるであらう、となしたのである。此の種の深い密謀は、從來民衆の曉り得なかつたものである。然るに此の種の事實を知ることなしに、中國問題の正當なる解決方法を求めようとすることは、實に至難である。

當時の日本の輿論は、之を日本政府の外交上の大失態となし、其の結果加藤外務大臣は辭職

を逼らるるに至つた程であつた。他面全體の中國人も一致して此の事に反對したが、袁世凱は現北京總統たる、時の首相徐世昌及外交總長陸徵祥をして、無理に中國を壓退する此の協定に調印せしめた。之れが爲に此の二十一箇條條約は既成の事實となり、日本人も重ねて其の政府を責めない樣になつた。

更に二十一箇條條約の效果に付いて一言する。

二十一ヶ條條約の所定に據れば、中國の主權を完全に日本に讓渡するのと大差無いことになり、此種協定の下に在つては、中國は日本の附屬國又は陪臣國たる觀を呈するに至ることは、恰も往年の朝鮮と日本との關係と同樣である。

二十一ヶ條條約調印後、日本の軍閥と政治家とは、東三省及中國の其他の地方に於ける、自己の優先權の整理に着手し、又時の日本政府は、之れが爲に外交手段によつて中國を征服し得ることを、明瞭に意識するに至つた。茲に於て英國は中國を協商國に加盟せしめんと努力し、之れに對し日本は中國の世界大戰參加を禁遏せんとした。

米國の大戰參加

然るに世界の情勢は忽然として變化した。即ち米國が獨逸と絶交し、且つ中國にも同樣獨逸と

絶交せんことを要求し來つたのである。之れに對して多くの中國の有識者達は、大戰參加が自國を日本の壓迫より救ひ出す唯一の方法であるとし、北東政府も米國の後に隨ふ旨を決定した。此の事があつて間もなく、上海の日本總領事が突然余を來訪して、一つの消息を傳へた。彼曰く「日本政府は中國と連携して、獨逸に宣戰せんことを、中國に要求するであらう」と。仍て余は彼に、日本政府は、何故に此の事に對する政策を俄に變更したのか、と問ふたところ、彼は滿足な答をなし得なかつた。そこで余は深く此の事に關して考察した結果、直に日本の此の種新動向の意味を曉ることが出來た。之れには一つの陰險な事實が其の裏面に藏されてゐるのである。仍て余は日本總領事に次の如く告げた。「余は日本が中國の中立を維持せんとする在來の政策には贊成するが、中國を日本の保護下に置きつつ參戰せしめんとする新計畫には、十二分の力を用ひて反對せんとするものである」と。

其の際余は、日本が單なる外交手段によつて中國を征服することは望み得ざることとなつた爲に、中國に參戰を要求し、名義を之れに藉り、裏面に於ては軍事統轄を利用し、中國を征服せんと企圖しつゝあるものなることを想起し、之れには救助の方無きを思つた。何となれば總ての協商國は皆中國の參戰を要求しつつある關係上、彼等は不知不覺に日本の中國に於ける軍事的統轄

を幇助する結果となるからである。

玆に於て吾人が採り得る唯一の道は、中國をして一回轉して新局面を打開せしむることである。即、北東政府は既に日本に盲從し、日本の傀儡に過ぎないから、別に廣州に一箇の政府を樹立し、以て日本軍閥の計畫を牽制せんとすることである。然るに日本政府は段祺瑞の意志に隨つて、彼に軍資金兵器等を供給し、南支の勢力を撲滅せんとするの擧に出た。之れに對し余等は甚しく缺乏せる軍需品と、內部の不一致（南方の軍閥は常に北京政府の指揮に從つてゐる）とに係らず、顧慮するに足る丈の抵抗をなすことが出來た。次で戰鬪開始後は、南方軍閥も强烈なる輿論に刺戟され、已むを得ず余等と協力するに至つた。

次で世界の情勢は更に一變した。

歐洲大戰は忽然として終りを告げ、五强國（日本をも含む）は共同の勸告書を南北兩政府に遞送し來り、國內の平和を速成し、一箇の統一國家として、代表を巴里に派遣すべき旨を勸告し來つた。仍て若干の猶豫を求め、南北兩政府は代表を上海に派遣して和議を開始した。此間に在つて日本の軍閥は、既に中國征服の成案を案出してゐたのである。即ち中國の軍閥を利用して、中國を征服せんとするのである。玆に於て彼等は二個の軍閥の頭目を製造した。一つは北京に在る

軍閥の頭目段祺瑞であり、他は奉天に在る軍閥の頭目張作霖である。張は日本の援助を得て其の勢力を擴張し、現在既に三十萬の兵力を有し、段祺瑞も約十萬の兵を有してゐる。茲に至つて中國の兵力は日本の統轄下に置かるることとなつた。和議の開かるるに當つて、余は合法的國會を恢復し、其の法律上の職權を行使せしむべきことを主張した。約法によれば一切の外國との條約は、國會の批准を經て初めて效力を生ずるものであり、此の種の合法國會は、二十一ケ條條約を批准し得ないことを知つてゐたからである。即ち余は國會の權限を利用して、二十一ケ條條約を廢棄せんとしたのであるが、北方は國會の恢復を承諾せず、竟に北方代表は引上げ、自然上海の會議は中止さるるに至つた。

其後久しからずして、段祺瑞は其の方針を改め、余に向つて、南北の戰ひは余と彼との戰であつて、其餘の南北の各種軍隊は皆中立であるから、彼から平和協定の基礎的條件を余に提出しても可なる旨を通告し來つた。仍て余は第一條件として、總ての日本との密約を廢棄すべきことを提議した。之れに對し余と段とは、夫々個人代表を出して意見を交換し、結局段氏は余の條件を許し、軍事協約の廢棄を承認した。茲に於て余は同僚と商量して、一個の宣言を發し、從前と同樣の條件に基いて準備し、重ねて上海に講和會議を開くべきを聲明した。他方段氏も個人の名義

を以て、公式に一個の復電を送り來り、邊防處も一個の通電を發して、軍事協約の廢棄を宣言した。

然るに其の後段氏は二個の勢力によつて打倒された。一つは吳佩孚を首領とする排日勢力であり、他は張作霖を首領とする親日勢力である。而して吳佩孚には全國の輿論と、外國勢力との援助があり、多くの人も段氏を打倒すれば情勢は好轉するものと考へてゐた。然るに今や吾人は、局面は更に惡化し、恰も熱鍋より躍り出て、火爐に飛び込んだと同樣の結果であることを、明瞭に意識するに至つた。そして余の、日本の訓練した邊防軍を以て、日本を討たんとする計畫も、段氏の失脚によつて、竟に消滅するに至つた。

現在如何なる交渉が進行しつつあつても、吾人は二十一ケ條條約の留保には、絶對に反對するものである。二十一ケ條條約と軍事協約とは、日本が製造した中國の手足を緊縛する、最も强靱な鐵鎖であり、二十一ケ條條約を實行することによつて、統一されたる中國は、完全に日本に征服されたる中國となるのである。我々革命黨は最後の一人迄、二十一ケ條條約の廢棄に全力を盡さんとするものである。中國の大混亂は實に二十一ケ條條約によつて釀成されたものであり、若し此の條約を廢棄し得たならば、中國の統一は直に實現し得るものである。

四十、廣西は應に道路を開設すべし

—廣西昭平の各界歡迎會にて—

今回の北伐に際し、昭平を過ぎて諸君と相見あるを得た事は欣幸に堪へない次第である。思ふに、民國成立以來、既に十年であるが、この十年間は、僅かに民國の名あるのみで毫も民國の實がなかつた。民國の政體は共和であり、帝國の政體は專制である。前清帝國では滿洲の異民族が中華に侵入して主人となり、我が同胞四億の生命財產を其の私有物となし、人命を屠つて何等惜しむ所がなかつたが、今日は既に帝制を革命して民國である。即ち中國四億の同胞は、中國の主人であり、斷じて野心家が四億國民の生命財產を危殆ならしむるを許さない。實に、民國の國家を全國々民の公有となし、民國の政治は國民の共同支配により、民國の權利は國民の共に享受する所であつてこそ、眞正の民國であり得るのである。試みに、民國十年間の成績如何を見るに、袁世凱は自ら帝制をしき、官僚武人割據して各省を私有し、徐世昌、靳雲鵬は國を賣つて自らを肥やし、政治の腐敗と共に國勢日に危く、政府は恰も庖丁、俎にして、國民は魚肉たるの觀を呈してゐる。未だ嘗つて、國家が國民の公有たりしことなく、各省も亦國民が治めた事はない。實

に一切の幸福には國民は少しも與からないのである。これを廣西の一省に就いて見ても、諸君が、十年來受けた苦痛も亦當に然りである。武昌起戰の際、陸榮廷は民國に贊成したので、本大總統は善意に解して、彼は土匪上りではあるけれども、矢張り國民の一分子である。若し改過して今後民國に忠實ならんとするならば、最初から彼の存在を廣西の利益に非ずとすべきではないと考へた。所が、虎狼の野心と、その盜賊根性とは善に移り難く、革命黨を慘殺し、帝制の陰謀をなし、廣西を獨占して人民の權利を剝奪し、遂に廣西全省を陸榮廷の私有財產となしてしまつた。かくて廣西の政權は陸榮廷一味の盜賊の徒黨に奪ひ去られ、一切の利益は盜賊輩に獨占され、大きな都邑にはみな陸榮廷の宏壯な邸宅が設けられた。廣西の人民は、其の子も其の孫も皆正業に就く術なく、專ら强盜一味が官吏になる路を塞ぎ、彼等のみが、督軍たり、省長たり、鎭守使たり得るに過ぎなかつた。玆に於いて、廣西の國民はみな强盜の壓制を蒙つて盡く生計の路を斷たれたのである。

數ヶ月前本大總統は天下の民意に順つて廣西の人民を救濟せん事を主張し、廣東軍總司令陳炯明をして盜賊陸榮廷の徒黨を驅逐せしめ、今や廣西を廣西國民の手に還すことが出來た。今後の廣西は廣西人の所有であり、廣西人の治むる所である。特に其の一切の權利は、廣西人の共に享

受し得るものである。諸君は既に廣西の主人たる以上、當然主人たるの責を盡さねばならない。諸君が今日先づ盡すべき責は、道路開設より急なるはない。決して金なきを以て責を逃れる事なく、ひたすら人民全部がこれに努力せねばならぬ。即ち通行する道を開設擴張し、低き所は塡めて高く、高き所は削つて平らかにすべきで、到る處に、其の石材土砂は存在して居るのであるから外國より材料を購入するを要しないのである。若し道路が開通し、交通が便利となるならば、諸君の餘れる糧食、豊富な家畜、燃料は自由に運び出される。また地下に埋藏する無限の石炭、鐵、金、銀は更に開發され、一切の工場や産業を振興する事が出來、教育もまた普及し、盜賊はその影を潜めるであらう。この權利は諸人のひとしく享けるものであり、同時に諸君が民國に對して當然盡すべき責任である。假へば、梧州昭平間の里程は二百八十里、（註、日本里四十七里弱）に過ぎないが、遡江して上ると、八日を費さねばならぬのに、若し自動車道路が設けらるれば、僅に數時間にして足りるのである。若し全省大道路を開設しこれを全國に推して行き、全國の交通が便利となれば、中國の富は以て世界全體にも匹敵し得るであらう。諸君の責任や甚だ重大である。須らく道路修築を以て急務となさねばならない。

本大總統が今回北伐する所以は、全國國民を救つて官僚の專制より脫離し、民國を國民の所有

たらしめ、民國を國民の支配する所たらしめ、民國を國民の享受する所たらしめんとするに在る。數ケ月、廣西人を助けて、陸榮廷一味の强盜を驅逐せるが如きも、之れと同一の作用に外ならない。諸君が一齊に起つて國民として責任を負はれる事を、本大總統は切望する次第である。

四十一、北伐なければ統一なし

—民國十年援桂凱旋軍及北伐豫備軍の軍官に—

諸君。今回廣東より廣西に出兵して僅か一ケ月の今日、既に廣西は鎭定されたのである。廣西軍の兵力はさきに雄厚なりと稱せられて居たにも拘はらず、我軍の一擊に對抗し得なかつた理由は、固より、前線の將士たる陸軍、內河艦隊、飛行隊及び後方兵站部の諸君の努力功勞によるものである。さればこそ、效を收むる事此くの如くに神速であつたのである。然らば廣西の鎭定は吾人に於いて何の關係を有するものであらうか。須らく、廣西の强盜にして一日存在すればするだけ、我が廣東の人民は安んずる事を得ない事を知るを要する。今、廣西の賊徒は既に一掃された以上、我が廣東人は最早自ら安居して憂ふる所なくとも差支へない。而して之れ豈に永久の治安となすに足りようか。之れは一時の治安、かりそめの平和に過ぎない。然らば我が廣東人は、

今後如何にして永久の治安をはかるべきであるか。それは中國々民の一人一人をしてみな安全ならしめねば、斷じて望まれない。然らば如何にして中國々民の一人一人をしてみな安全ならしめ得るであらうか。それには廣西平定後更に一段の努力をして中國を統一せねばならない。中國既に統一せば、四億の同胞は眞に安寧幸福を享受し得るであらう。

中國統一は難題である。我が廣東三千萬の國民及び軍隊も、みな中國統一は容易の業ではないと思つてゐる。中國統一は果して難事であらうか。本大總統は難事ではないと信ずる。卽ち四五ケ月前に余が廣西援助を主張せる際、一般人民の考へでは、廣西の賊軍は六七萬の兵數を擁し、且つ土匪上りで系統ある强盜故、必ずや頭目のために死力を出して我軍を拒むであらう。吾人が彼等を廣東より去らしむるは容易であるが、之を廣西より除く事は特に困難であるとした。此の說は、また福建より廣東に歸來せる百戰往來の軍人にも行はれ、北軍を破るは容易であるが、廣西の賊徒を破るは至難である。何となれば、廣西は山多くして侵入攻擊し易くないからであると考へて居た。當時本大總統は各軍に對し、廣西の賊軍が多數であつても畏るる必要はない。よく北兵を破り得れば、必ずや廣西の賊軍を破り得る。大いに勉めよと激勵した。故に出兵月餘にして廣西は旣に鎭靜に歸した。今、此の過去の事實を以て、吾人は旣に經驗を得た證據となし得る。

故に、余は今回廣東軍がよく此の勇氣を發揮して北伐するならば、中國統一は難事ではないと考へるものである。廣西は現在平定し、湖南湖北には旣に戰爭が發生した。湖北の人民は、廣東軍が廣西に戰勝せば必ず兵を長江に出すであらう。然らば自から先づ出兵して他人の占據を免れるに如かずとし、湖南の人民も亦中原を定めんとし、先づ湖北に戰勝せんとしてゐる。故に兩湖の用兵は頗る複雜である。兩湖の中、一部分は吾人の同志であつて、大いに此の潮流に掉さし、機會に乘じて功を立て、武漢を取つて中國を統一し、民治を實行せんとしてゐる。又、吾人の同志でない一部の人々は、頗る懷疑心を抱き南方政府の民治提唱は、眞實の主張に非ずして、かかる掛聲をなすに過ぎないものであると考へてゐる。併し之れは彼等が同志でないからのことで、決してかかる疑念を有することも怪しむに足らぬ。併し今や廣西の時局も旣に鎭靜に歸し、廣東軍は廣西を得て、之れを廣西人の手に返へした。これは廣西が廣東を得て、廣東を視る事その征服領土の如くであつたのとは正に同日の比でない。最初各省の人民にして吾人を疑ふ者は、考へた、廣東軍は廣西を平定する以前こそ廣西人の廣西自治を提唱してゐるが、廣西平定後は怒らく前言を履行すまい、と。而して吾人が主張あれば信義あり、言を出せば必ず行ふ事、斯の如きを知らなかつたのである。然し今や廣西省平定後、果して之を廣西人に返へしたので、さきの疑念は頓

に氷解し、且つ吾人こそ眞實に民治を實行する者である事を知つたのである。今や湖北の人民は武昌を速かにとつて廣東の出兵を免れんとしてゐる。故に第一に先づ王占元を倒して、その十萬の大兵を驅除し、民治を實行せんと計劃した。所へ、忽然として東北方の武人吳佩孚なる者が現れた。彼は二三年前嘗つて民治を提唱したので、人みな之れを尊敬したが、今では兩湖巡閲使とまでなり下つて居る男だが、此の吳佩孚が湖北に侵入して以來、湖北は其の蹂躪殺傷を被る事、擧ぐるにたへない。甚しきに至つては、實に堤をきつて無辜の人民を掩殺した。人道を滅絶すること既に此處に至つたのである。今や兩湖の人々は、吳佩孚の民治を談ずるは、全くその假面に過ぎざるを知り、之を信ずる者は一人もない。兩湖の人民が、吾人の出兵を喜ばぬのは、民治事業を他人をして行はしめねばならむと考へるからであるが、既に吳佩孚のために騙られて大いに悟る所があつた。併し乍ら、兩湖の兵力は不充分なため、一方には力をつくして北軍を拒ぎ、他方日に吾人の出兵援助を督促して、使者の往來が道に絶えない有樣である。その吾人の出兵を促す所以は、一はそれによつて兵力を集中して北軍を防ぎ、一は深く廣東軍が眞に民治を擁護する者なる事を信ずるからである。故に、さきには兩湖は鎖國閉關主義をとり、今は門戸を開いて吾人を歡迎つつあるのである。

中國の統一は、出兵北伐するに非ざれば成功しない。兩湖は既に我が出兵を督促してゐる。即ち今日の時局は、正に天造り地設くるの類で、何としても吾人は北伐の擧を行はざるを得ない。且つ時機全く熟した。かりそめの安きを貪るに止るのは、永久の治安ではない。よく出兵すれば即ち中國を統一し得る。現に兩廣の人民は自由幸福の樂みを得たが、併し乍ら、我國にはなほ多數の同胞が、深い水、熱い火の中に投ぜられて苦んで居るのである。

今回の出兵は、實に天も味方し、人も心を之に歸するものである。廣東軍はさきに北軍を破るは容易であるが廣西の賊を破るは困難であると自から信じて居た位であるから、今回の北伐は廣西西征に比較して斷然容易であるべきである。

今晩列席の諸君は、既に廣西より凱施せる廣東軍將校、內河艦隊、飛行隊の諸君、及び更に今や此の北伐出發を準備しつつある諸君である。本大總統は廣西より凱旋せる諸君に對しては人民に代つて之を感謝し、北伐出發準備の諸君に向つては、人民に代つて之れを祝福するものである。

四十二、黨員は主義を研究せよ

—民國十年梧州に於ける國民黨々員に對する演說—

今日、梧州に於いて諸君と相見えた機會に少しく諸君にお話したいと思ふ。諸君は、我黨は現に中國國民黨と稱して居るが、實は昔の中華革命黨である事を知らねばならぬ。中華革命黨は、即ち同盟會と國民黨とが合併して成つたものである。我黨は何がために成立したのであるか。中國は數百年來、滿洲人に征服せられ、且つ數千年來、專制政體の國家であつた。故に此の革命黨を創立して、之によつて三民主義の實行と、國家の政治の改良とを行はねばならなかつたのである。

革命黨は辛亥の年義兵を起して滿清を顚覆し、共和の光を輝やかした。始め同盟會を改組して國民黨としたその當初の革命の目的は、本來國家の政治を改良せんとするに在つた。現在民國は成立以來既に十年を經たが、此の十年間、一體革命の事業として何程の事を行つたであらうか。實の所、革命の主義は未だ實行されて居らず、革命の目的も未だ達成されては居らない。その理由をたづねると、中國人の思想が幼稚であつた爲め、革命最初の成功の際、轟々烈々、極めて華や

かなのを見て、みな革命の主義は極めて達成し易いと考へ、革命の初期、滿清滅亡の頃、早くも一般の滿清官僚及び武人が、誠實を誓つて入黨した事を知らなかつたのである。彼等は入黨後早速政治方面に活動し、少數の革命黨は全く彼等のために陷策に陷いれられた。此の官僚共は、また勢に乘じて僞輿論をつくり出し、革命軍起つて革命黨消ゆ、と云ひ、當時の黨員はみな之を誤信し、革命軍起つて革命黨消ゆとは實は官僚共の僞造である事を知らなかつた。そして辛亥革命の成功後は、革命黨の名義を取消してしまひ、中華民國は官僚武人に摧き破られてしまつたのである。十年來名ごそ民國だが、實は官僚國であり、革命の主義は未だ實行されず、革命の目的は未だ達成されない。僅かに民國の名のみ有つて民國の實なく、遂に後來、袁世凱の帝制を手盛り、宣統帝復辟、武人專政等種々の惡現象を釀成するに至つた。去年廣東軍は廣東に歸來し今日既に廣西の盜閥を倒し、又まさに革命黨を恢復せんとしてゐる。然し我黨に附屬するものは、現にただ廣西一省あるのみである。雲南、貴州、四川、湖南の諸省は我黨に屬してゐるが、ただ惜むらくは時日未だ久しからず、その精神も未だ充分に發達して居ない。今回本總理は中華民國大總統に選ばれた。本總理は自ら黨務並に國事に當り萬事力をつくして實行する。併し我黨の同志は、斷じて革命軍起つて革命黨消ゆの論に惑はされてはならない。諸君は却つて、革命軍起つて革命

黨成るの主義に向つて協力邁進するを要する。現在、兩廣は全部革命黨の範圍に屬して居るが、併し其の人民はなほ未だ全部革命黨員ではない、即ち革命思想も亦普及して居ないのである。我黨は一體何の恃む所あつて存在し、何の恃む所あつて人を服せしめるのか。兵力を恃むとでも云ふのか。否。さうではない。我が革命黨は、主義、眞理及び道德を恃みとするのみ。故に我黨は德を以て人を服せしむるものであり、武力を以て人を服せしめんとするのではない。諸君は武力が實に恃むべからざるものであり、ただ德のみが人を服し得る事を知るを要する。十年來、廣西の陸榮廷は、十餘萬の兵力を掌握し、廣東湖南を征服したにも拘らず、今回何故に失敗してかかる結果に陷つたのであらうか。これは武力の恃むべからずして、主義、眞理、道德の恃むべき事を證明するものである。故に吾人は應に主義を以て國家を維持すべく、再び武力を恃むべきではない。此事たるや、單に中國のみ然るに非ず、全世界も亦みな然らざるはない。

最近數百年來の世界各國の發達は、みな革命思潮の賜物である。先づ歐洲に始まり、「アメリカ」洲、亞細亞洲と、革命の旗風には到る處敵無しである。中國に就いて論ずれば、前清の兵力は强大であつたのに、何故遂に顚覆されてしまつたのであらうか。之を袁世凱の時代に徵しても然りであり、最近では陸榮廷の失敗によつても明かで、黨の勢力の到る所、屈服せざるはない事

を知り得る。この勢力は、實に天地の大道である。蓋し自由、平等、博愛は公衆の幸福であり、人心のひとしく向ふ所に對しては、之を壓迫し得る何ものもないのである。

我黨の三民主義とは、民族、民權、民生の三種を云ふ。此の主義の內容は、民有、民治、民享であつて、之を自由、平等、博愛と云ふも同樣である。故に具體的に名づけて云ふならば、民有、民治、民享と稱すべきである。今、此の三主義を詳細に解說せんとしても、一二時間を以てしては能く盡し得るものではない。要約して申述べると、民族主義が即ち民有である。天下は天下の人の天下であり、一二の人間が獨占すべきものではない。民權主義は即ち民治である。從來國家は專制時代に於ては、官僚武人によつて統治されて居たのであるが、本總理は、各人は、みな國家を治むる責任を有すべきであり、また之れを治むる責任を負ふべきであると考へる。故に余は極力人民が天下を治めることを主張する。民生主義は即ち民享である。天下は既に各人の所有である以上、天下の利權は、當然天下の人民が共に享受すべきものである。此の三主義を研究唱導して以來、如何なる所にも容認され、人として從はざるはない。何となれば、權利は人のいづれも好む所であり、今平等に之れを與へんとするのであるから、從はざる者なきは當然である。曾つて陸榮廷は政治の衝に當つて、廣西人の有する權利を完全に自己一身に收めてしまひ、賭博場

を開き、稅を重課し、紙幣を發行する等その種々なる收斂方法は十指を以て數へ難い。單に紙幣發行に就いてのみ見ても、其の額は二千餘萬に達し、質物もなく擔保もなかつた。これは資本いらずの大儲けである。卽ち吾人は、一切の勞働と貨物を以て之と交換した譯で、蒙つた損害は決して尠少ではない。今回の廣東軍の廣西援助による、廣西の無形の損失は、紙幣のみを以てして既に數千萬元に及び、その巨額の損失は全く陸榮廷に洗ひ泄ひ持つて逃げられたのである。從つて廣西に於ける一切の幸福と權利は、ただ陸榮廷及びその一家、一黨のみが享けて、廣西の同胞は一指だに觸れる事が出來なかつたのである。當時の流行語の、官吏たる者平かならざれば鳴ると云ふのは、廣西が人に公平にせざれば、則ち武、人を鳴らしむるとの意味である。更に一般數百萬の人民はみな陸榮廷の奴隷である。奴隷の制度たるや、野蠻時代の產物であつて、聰明なる者が愚者を欺き、多數が少數を暴壓するものであり、弱肉强食、人民を苦しめるものである。陸榮廷の罪惡の大なる事此の如くである。併し我が革命黨は之に反して、各人みな平等、自由であり、世界の幸福は各人ひとしく享樂し、野蠻を變じて文明となし、不平等を變じて平等とするものであり、革命黨の天下に敵なき所以は卽ち此處に在るのである。野蠻時代の官僚は、往々にして一人の私利を圖り、武力を動かして幾千萬の人民を壓制し、之れをして一個人のために奴隷た

らしめる。革命黨の三民主義はこれとは大きな相違で、自から自己の權利を爭ひ、同時に衆人の權利のために爭ひ、人々之れを歡迎し、之に協力する。故に革命黨の力は車隊の力に比較して、一層强大である。而して此の力は、全く道德と眞理との合してなれるものである。諸君が眞理を理解するのは、公のため大衆のためであつて、私のため一人のためにするのではない。若し私の爲めにすれば、卽ち人心は之に服しない。人心の服さぬ者は僞革命黨であり、專ら黨の名を假つて、以て人民を魚肉となし、人民を欺瞞するものであつて、眞の革命黨は斷じて此くの如きものではない。諸吾黨員たる者、切に此の理を明かにし、力を合せて之を排斥せねばならない。

現在梧州の革命黨は、漸く成立を見た所であり、參會された諸君も亦二百人足らじである。一體これでは如何なる方法を以て幾百萬人を制御服從せしめ得るであらうか。機關銃も山砲もみな不可であつて、ただ革命主義のみが之を能くする。我黨員にして、若しよく革命主義を宣傳し、未だ知らざる者には之を知らしめ、既に知つて居る者には之を詳細に理解せしめ得て、人々が皆この主義を理解し、みな革命黨員となるに至れば、卽ち廣西の永遠に革命黨の地盤となるであらう。若し、此の革命の眞理を極力宣傳し得ず、將來、陸、譚、馬、莫の諸强盜が機に乘じて捲土重來するならば、廣西數百萬の人民は、永遠にその奴隷となり、民治は決して發展する日を見な

いであらう。諸君は、目下陸、譚の初めて倒された機會に乘じて、直に、各縣に分れ赴き、三民主義の宣傳に努力し、人々をして皆此の主義が天經地義の大道であることを知らしめ、團體を結成して自治を實行し、廣西數百萬の人心をして悉く一心同體ならしむるならば、如何なる武力を以て侵逼するとも、いづれも倒壞し得ないだらう。若し此の主義の宣傳を怠り人々をして理解せしめなければ、將來彼の陸、譚の私益を蒙れる徒輩が、再び攪亂して廣西が賊の統治下に變じ、また野蠻世界となるを免れ得ないだらう。廣西は現に萠芽時代である。民治を實行せんと欲せば、必ず革命黨を擴大しなければならぬ。吾人がみな親戚朋友に對して此の主義を宣傳し一人より次第に數百人に傳へ、數百人より數千人に傳へ、數千人より數萬人に傳へ、廣西省民全部をして、此の主義を理解せしめ同心協力するならば、如何なる强大なる武力を以てするとも、斷じて倒す事は不可能である。吾人はよつて大衆の利益と幸福とを圖る機會を有するのである。現在、廣西は革命黨が占領し革命黨が散在して居る。併し、却つて陸、譚の歸來を希望する者もなほ少くない。我が革命主義が、此の數ヶ月內絕好の機會に乘じて宣傳され、主義を以て彼等を感化し、道德眞理を以て彼等を征服しなければ、廣西の革命黨の地盡は、兵力有りと雖も、結局は鞏固たり得ないのである。現在中國人にして眞理を明にして居る者は極めて少數である。吾人黨員は既に

先知先覺者たる以上、まさに我が先覺を以て後覺を覺らしめ、先知を以て後知を敎ふべく、諸君は宣傳の責任を負はねばならぬ。更に黨員に望む點は、革命の主義に對して常に詳細に研究する事である。そして若し此の主義を理解せざる者があれば、必じ之れに向つて宣傳し、之をして明瞭ならしめ、進んで、此の主義に基いて各鄕村を團結せしめ、地方自治を實行せねばならぬ。若し地方自治がいづれも成績良好ならば、これによつて民國は實質的に成立するのである。嘗つて、一般官僚と武人とは民治を一蹴するに努め、ただ利己を知るのみであつた。現在兩廣は革命の地盤となり、官僚と武人はみな逃走し去つた。我が革命黨員は、此處にしつかりと足を蹈みしめて、必ずや眞正なる中華民國を建設しなければならないのである。

四十三、三民主義の具體的方策

同志諸君。余は我が中國國民黨とは一體如何なるものかと云ふ事について考へて見たいと思ふ。回想するに嘗つて我々が滿淸を倒壞して民國を建設せる後、此の國民黨を組織したのである。而も國民黨が中國の前途に關係する事は頗る大である。さきに國民黨が橫暴にも解散せしめらるるや、中國は忽ちにして亂れ其の亂は今猶終結を見ない。之れによつて、連年の禍亂に民衆が生

に安じ得ないのも、總て國民黨が解散せしめられた反響である事を知り得る。我々國民黨は、乍併、常に彼の多數の國賊と爭つた。ただ北方の各省は現在に到るもなほ完全に我々の範圍に入つたものはないが、南方には廣東といふ汚がれざる土地が存在して、この辨事處（臨時政府）が成立した。諸君は第一に中國國民黨は政黨に非ずして一種の純粹なる革命黨である事を明らかに知らねばならぬ。民國二年、國民黨が解散せしめられた時、我々の同志は海外に亡命して、海外に在つて同志を糾合し中華革命黨を組織して革命を繼續し來つた。故に今日の此の中國國民黨は實際は即ち中華革命黨である。名目上には如何なる變更があらうとも、實質上は全く同一である。

民國成立して十年に及ぶと雖も、その基礎には何等鞏固なるものが無い。さればこそ、民國の共和政體が未だ成功しないのである。共和が一日成功せぬならば、我黨の責任もそれだけ解除されないのである。我々は此の責任を放棄してはならぬ。更に努力して奮鬪し、必ず共和政治を徹底して、民國の基礎が十分鞏固になるのを待たねばならぬ。かくて、漸く我黨の革命は大成功を告げるのである。且つ、我々の中國國民黨は其の他の一切の政治的黨や結社とは大いに異るものである。譬へば、明末清初の頃に・多く明朝の遺臣が天地會、或は呼んで洪門會と稱するものを粗織し、此の會の我が南方各省に散在するものを三點會と稱し、長江一帶に散在するものを哥老會と

稱した。彼等の目的は、「反清復明」漢族を復活せしめんとするに在つて、元來、これ亦革命黨であつたが、彼等の主張は專ら民族革命に限られ、我々の主張とは大いに異つてゐた。我々の主張する革命は、三民主義と五權憲法との革命である。

何を稱して三民主義と做すかと云ふに、民族主義、民權主義、及び民生主義即ちこれである。從來、滿洲の虜敵が中原に盤據せる頃は、一般の革命家は單に民族主義に力を盡すことを知るのみで、民權主義と民生主義とには全く注意を拂はなかつた。五權憲法は、建國の建設方針に關係する所極めて大で、漢民族の復活せざる以前に於いては、一般黨人の心中は、漢民族にして一度復活せんか國利民福の目的は即座に達成せられると考へ、今日に到つて漸くその然らざることを悟つたのである。この原因を推究して見るに、其れは當時の同志が、ただ民族主義に重きを置かねばならぬ事を知るのみで、民權主義と民生主義を忽緒に附した過失錯誤によるものである。この過央錯誤は亦本黨の責任でもある。未だ革命の終了せぬ地方では、民權主義と民生主義との貫徹にも努力しなければならぬ。即ち、民族主義がその目的を達成せねば、結局一切は安固たるを得ないからである。ましてや、民族主義が今日に於いて尙ほ未だ完全に目的を達せざるに於てをやである。

何が故に、民族主義は未だ完全に目的を達しないと云ふのか。滿洲人が中國に來つてより以來、我々漢人は彼等に征服せらるる事二百餘年、現在滿洲の虜敵は傾覆して漢民族が復活したとは云へ、我が民族は尙完全なる自有を有して居ない。その原因は、本黨がただ消極的政策を行つて積極的政策を遂行することのなかつたのに由るのである。歐洲大戰が終局を告げてより世界の局面は一變し、大勢の赴く所、各民族は總て民族自決を重視するに至つた。我が中國は世界民族中の最大民族である。而も現下、東亞に於ける國家は、嚴格に云ふならば、暹羅と日本とが完全なる獨立國と稱し得るに過ぎない。中國の幅員の廣大なると、人口の多きとは、何ぞ彼の兩國に比較して數十倍に止らう。併し、幅員が大であらうとも、人民が多からうとも、ただ半獨立國と稱し得るに過ぎない。これは如何なる理由であらうか。漢族復活後、その內部に在つた世襲的官僚や、頑固な舊黨、復辟を計る宗社黨が一齊に口を揃へて「五旅共和」を叫んだが、焉んぞ知らん、根本的錯誤が其處に存在してゐた。卽ち五族の人口を調査すると、西藏人は四五萬に過ぎず、蒙古人は百萬に滿たず、滿洲人は僅かに數百萬であり、回教徒は多數あるけれども、その大部分は漢人である。五族の地位を述ぶれば、滿洲は日本の勢力範圍內に在り、蒙古は以前より露國の圈內にあり、西藏は英國にとつて殆んど囊中のものである。之れによつて、彼等が盡く自衞能力を有

せず我が漢民族が應に彼等を幇助せねばならぬことを知る。漢民族は從來四億と號して居るが、或は之れに止らぬかもしれない。かかる多數の民族を以て、なほ眞個の獨立をなし、完全なる漢民族の國家を組織し得ぬのは、實に我が漢民族の恥辱としてこれより大なるはない。されば本黨の民族主義がなほ徹底的大成功を見ないのである。之によつて、本黨は今後なほ民族主義に就き努力するを要し、必ず、滿蒙回藏を我が漢民族に同化せしめ一の大民族主義國家を形成せねばならぬ事を知り得る。諸君は米國が今日の世界に於て最强最富の民族國家であることを御存知であるが、彼等の民族の複雜さを人種別して述べて見ると、黑人種、白人種、銅色印度人種があり、幾十種の民族がある。國別にして見ると、最も多數を占めるものに、英國人、和蘭人、獨乙人、佛蘭西人、露西亞人があり、其他、數十ヶ國の民族を包含して居り、世界の國家中、最多數の民族集合體である。米國の總人國は一億を超ゆるが、特に獨乙人種に就いて見るに約二千萬に及び、實に米國總人口の五分の一を占め、其他、英、和、佛、露の各國人の米國內に散在する者も甚だ多いが、何故に米國の民族を稱して、英、和、佛、獨、露、米、各國人と稱することなく、單に「アメリカ」人と稱するのか。諸君は英、和、佛、獨、露等の數民族が同化して米國と稱する一名詞をなすのは、かかる多數の國人が「アメリカ」に到るや總て一爐に投じ、煅きなほされて一

民族となるからであることを知らねばならぬ。卽ち英、和、佛、獨、露の米國人と稱せず、專ら「アメリカ」民族と稱して居るのは、只一組の「アメリカ」民族あるのみだからである。これが今日光輝燦爛たる米國のある所以である。諸君、民族の作用の偉大さを思ひ給へ。米國のかかる民族主義の如きこそ、積極的民族主義であり、かかる積極的民族主義こそ我黨の主張する所の民族主義の好標本である。我等は今日中國の民族主義を講ずるに當り、五族の民族主義は之を包含し得ない。當然それは漢民族の民族主義を講ずべきである。或は五族共和の旗を揭げて旣に久しい今日、單に漢民族の民族主義のみを講ずれば滿蒙回藏四族人の不滿を招くと言ふ人もあらう。余は此の一事に到つては、顧慮する必要はないと思ふ。現在滿洲人は日本、蒙古人は露、西藏人は英の後に附して、自衞能力の發現がなく、將來彼等列國から分離しても尙ほ我々漢民族に依賴するを要するだらう。余の現在考へて居る調和方法〔、漢民族を以て中心となし、滿蒙回藏四族を全部我等に回化せしむると共に、彼等四族に讓步せしめて我等に加入せしめ、建國の機會には、「アメリカ」民族の規模に倣つて、漢滿蒙回藏の五族の同化を以て一個の中華民族を形成し、一の民族國家を組織し、米國と東西兩半球に在つて、二個の大民族主義的國家をなして相照映するにある。

民族主義的國家は、必ず種々の影響を受けるが、就中、歷史と地理との影響を以て最大とする。譬へば、瑞西國が早くから一個の獨立せる民族主義的國家として成立したのは、其の地形が歐洲の中部に位し、東は墺太利に、西は佛國に、北は獨逸に、南は伊太利に接壤してゐるからで、彼等の國土は無論他國との境界附近では、種族も言語文學も互に同樣であるが、而も佛獨墺伊の聯合せる民族の國家ではなく、自身單獨で一の完全なる瑞西民族の國家を組織して居る。之は眞に珍らしい事であるが、更に瑞西は直接民權を行使する國家で、佛國は尙ほ未だに間接民歐を行使してゐる。全世界で直接民歐を行使するのは瑞西を以て第一とする。瑞西に於ける民權の發達は、歐洲としては現在のところ極點に到達したもので、國內の政治の正しく明るきことと、民族の結合とは、米國に比較するも、まさに其の上に出でんとして居る。此の如き民族主義國家は、眞に我等の最も好ましき標識である。故に中國の將來を論ずれば、如何なる民族が參加し來るとに論なく、必ず彼等を我が漢民族に同化せしめ、一の中華民族の國家を成立せしめねばならない。故に我等の抱持する所の民族主義が積極的民族主義であることを、諸君、決して忘れてはならない。

我々は三民主義を奉ずる革命黨で、各國の革命黨とは大いに異るものである。各國の革命黨は、僅に一主義を奉じ、最も多いのは二主義を奉じてゐるが未だ嘗つて三主義を奉じて革命せんとし

たものはない。三主義を奉じて革命せんとするものは、世界中に我が中國國民黨ただ一つなることは明々白々である。米國の英國より脱離して獨立せるが如きは、全く民權主義であつて、民族主義ではない。佛國の嘗つて行へる大革命は本來民權主義と民生主義とを奉じたもので、佛國と米國との民權革命は部分的には成功したと認められるが、佛國の民生革命は今日に至つて見ればむしろ失敗に過ぎなかつた。米國の民族主義と民生主義とは、本未成功したと稱すべきであるが、併し社會問題は今日に及ぶも尙ほ解決を見ないで居る。そして此の問題のなほ解決しない爲めに其の裏面には將來の革命の導火線が伏在してゐる。かかる形勢により、佛國米國は現在民生主義を講じて居る。ここで再び中國の現狀を觀れば、如何なる情態であらうか。我黨の同志が革命に志してより數十年に及ぶも、僅かに民族主義の一部分を達成したと云ふだけである。外國の民族主義と民權主義とは既に盡く目的に到達した今日、我等はなほ民族主義に就いて努力せねばならぬので、此點米國や佛國と大いに異る。又、最近の露國革命の如きは、「ソビエット」政府は民生主義に重きを置き民族主義に就いては大なる意味はなく、民標主義に至つては革命の附屬物に過ぎないと說く人がある。之れ亦、我黨と異る點である。余の主張する所の三民主義は實に古今中外の學說を集め世界の潮流に順應したもので、政治に於て得たる一個の結晶である。此の結晶の

意味は、米國大統領「リンコルン」の述べた of the people, by the people, for the people の語と相通ずるもので、此の語の支那語譯の意味は適當の譯文が無いが、余は之れを民有、民治、民享と譯して居る。of the people は卽ち民有 by the people は卽ち民治 for the people は卽ち民享である。「リンコルン」の主張する所の民有、民治、民享主義は余の主張する民族、民權、民生主義である。之れに依つて余の三民主義が、新大陸の偉人によつて既に余が考へつく以前に唱へられたことがわかる。余が以前海外に在つた折、外國人は、何を三民主義と名づくるものなるやを知らず、總ての人が此の意味を余に質問したが、余は當時適當な譯語がなく回答に苦しみ、唯だ「リンコルン」の主義を援引して彼等に告げた所、彼等は始めて完全に余の主義を了解し得た。之れに依り更に余の三民主義が啻に現代の思潮に合致するのみならず、且つ甚だ由來あるものであることを知り得るだらう。

民權主義を講述するに當つて、歐米に於いて民權の最も發達せる國家の瑞西なることは、余が既に前に述べた所である。現在、更に愼重なる態度を以て聲明すべきは、代議制度は未だ眞正なる民權に非ずして、直接民權こそが眞正の民權なることである。米國、佛國、英國は凡て民權主義を行つて居るとは云へ、併しながら彼等は尙ほ直接民權ではなく、間接民權である。余の民權

主義は瑞西の民權主義を採用して居り、直接民權を主義とするものである。歐米の間接民權は既に困難なる爭によつて得たもので、之れが爲めに幾許の鮮血が流されたか知れない。其の代償として、辛うじて手に入れたものである。されば此點より看る時、直接民權は當然更に貴重とすべきものであり、我々が此の更に貴重なるものを得んとせば、因より甚大なる代價を必要とするのである。直接民權の第一は、『選擧權』で人民は直接選擧權を得、更に『罷官權』を有せねばならぬ。之れは凡そ一切の重要官吏は、人民に權利を以て選擧せしめ、官吏中感心出來ぬものは之を人民が罷免し得る權利を人民に有せしめるのである。次に重要なのは、法律である。人民は、自ら法律を制定し、若し其の法律にして不便を生ずる場合は之を自ら修正改廢し得る權利を有せしめねばならぬ。此の種の法律を修正改廢し得る權利を『複決權』と稱し、法律を制定する權利を『創制權』と稱する。故に直接民權は之た等の四種、選擧權、罷官權、創制權及び複決權を總括せるもので、此の四種類の權利が卽ち具體的な民權であり、此の如き具體的な民權こそ、眞正なる民權主義である。

民生主義は、卽ち現今の社會主義である。諸君よ、余が民生主義を提唱したのは、如何なる時であつたかを考へられたい。我が國人は今日に到つて漸く社會主義を論じ始めたが、既に甚だ遲

播きである。併し社會主義の眞學說が中國に輸入されたのはなほ甚だ遠いことではない。余が『社會主義』の原語を『民生主義』と譯したのは、その意義よりして大體妥當に近い。而して我國人は往々民生主義の眞意義を誤解して居る。許多の資本家は、工場を開設し、幾千名の勞働者を雇傭して作業し、各人に每日極めて少額の賃銀を給與し、彼等自らは衆人に誇つて民生主義を實行すると云ふ。諸君、思ふても見られよ、かかる資本家の說く所の民生主義と眞正の民正主義と相距ることの如何に遠きかを。資本家は其の黃金の魔力によつて多數の勞働者を縛りつけ、彼等のために其の死力を盡さしめ、勞働者は血と汗とを絞つて漸く僅少な賃銀をかち得るのみである。斯樣な工場組織を外國語では『血汗店』と稱するが、全く其通りで少しも錯(アヤ)まらぬ。現在、許多の人々が民生主義を說くが、盡く本題から離れること甚だ遠く五里霧中に陷つてゐる。之れ亦我國人が眞に理解せんとせざる失錯である。余は故に、最も好ましき具體的解決方法として民生主義を主張する。之は多くの奇を好む人々が徒らに空談に託して一時的な言論を爲して快とするが如きものではない。余の解決方法とは何であるか。其れは、『土地』と『資本』の兩問題に歸着する。現在社會狀態に注意しつつある人々は、多く中國は目下資本家が存在せぬから社會主義を講ずるには及ばぬと云ひ、又、多くの人々は、資本家の發生するを待ち、然る後に再び社會主義を

講ずるも未だ遅しと爲さずと云ふ。之等は要領を得ぬこと甚しい。かかる見解を有する人が社會主義を講ぜんとするならば、彼等は定めし社會主義を見て前路茫々何處より手を下すべきかに苦しむだらう。社會主義の眞意義を若し專ら書籍中より研究せんとするならば、幾十卷、幾百卷、恐らく幾千卷の書籍を讀まねば掴み得まい。必ず機敏なる理解と確實なる會得とを有してこそ始めて悟り得られる。余は嘗つて中國人の讀書は、讀めば讀む程曖昧となると述べた事があるが、概ね此の類の人である。

三民主義の大體の趣旨は最早や述べ終つた。我々が今日世界の大勢を考察し、古今の流れを洞觀するに、人類社會の三民主義を需要すること眞に一日も缺くべからざるものが有る。故に余は敢て斷言する。我が國民黨の同志は三民主義に就いての討論を必要としない。唯、實行を要求すると。三民主義はかかる重要性を有するものなるが故に、重複を厭はず、繰返へして詳細に尙一度述べよう。我等は辛亥の年、滿清を傾覆し漢民族を復活せしめ、消極的方面に於いては民族主義の目的を一部分實現したと云ひ得るが、併し積極的方面に就いては何等の努力も拂はれなかつた。今後は、まさに漢族の光輝を發揚し、我等と彼等との共同建國の爲に各民族を一切一つの爐に投じて冶金し、漢族に同化せしめ、東亞の大陸に中華民族の國家を建設し、漢族の威名を以

て全世界を震動せしめねばならない。是に至るには眞正なる民權の目的を達成し、應に四種類の直接民權を實行するを要する。其の四種類の直接民權とは、選擧權、罷官權、創制權及び複決權之れである。民生主義に就いては余は既に最も適當な解決方法を定めた。此の解決方法とは、『平均地權』の實行である。中華民國政府がさきに南京に創立された頃、余は直ちに平均地權を我黨の民生政策として實行することを提議したが、多數の同士は贊意を表さなかつた。それで余は彼等に問ふて曰く、君等はさきに同盟會に入會し革命に從つて來て居る以上、平均地權の民生主義の實行は、誓願を實現することではないか、と。次にその由來に就いて述べよう。何が故に民生主義が必要なのか。それは社會に貧富の差があるからである。何が故に貧富の差があるのか。古は貧富の階級別はあつたけれども今日の如く激しくはなかつた。今日は貧富懸絶して殆んど比較にならぬ。正に所謂、富める者は王侯の如く、貧しき者は立錐の地すらなしである。かかる貧富不平等の現象を生起せしめたのは、古今の生產力の不同に由るのである。例へば往昔木工(工匠)の使用せる道具は斧、鑿、鋸に過ぎなかつた。故に古人は『工其の事を善くせんと欲せば必ず先づ其の器を利にす』と言つてゐる。現在工業は發達して完全に機械を以て人力に代へ、極めて僅かな工作に依つて極めて多くの製品を得るが、正に所謂「事半にして功倍す」とは此事である。

殊に耕作の如きは、最初の頃は漸く手力を用ゐるに過ぎなかつたが、犁の發明以來は牛馬を使用して手力に代へ耕作速度は倍加し、成功は比較的容易となつた。從來專ら人力によれる際は數日を要して漸く一畝の田地を耕し得たものが、現在では一日で一畝有餘を耕し得る。歐米に於ては改めて電力や發動機力を用ふるに到つた爲め、一日にして更に幾百畝、或は一千畝を耕し得るに至つた。實に、之れは千對一の比例であつて、人を驚かしむる一奇事に非ずして何であらう。又、運輸に至つては、若し專ら人力を用ふるならば、一人百斤を負ふて日に百里を行く事は極めて困難な苦痛事であるが、汽車汽船の出現以來之を運輸の用に供することとなり、人力を用ゐての速度に比すれば、之れ亦何ぞ千倍に止らう。以上は從前の生產と現在のそれとが同じからざる概略の狀況である。生產方面の變動はなほ有限なものに過ぎぬが、分配方面に起つた變動に至つては無限である。外國人は民生主義を論じて曰く、『今日に在つては單に資本と勞働の、二個の問題あるのみ、勞働者は働くべき仕事がなければ食ふべき「パン」がない。機械を所有する者は一日は一日より富み、之れを所有せぬ者は一日は一日より窮し、斯て富めるは愈〻富み、窮せるは愈〻窮する』と。斯樣な現狀は、我等の現狀とは異るもので、中國今日の狀態では、上下共に苦しみ、一般が盡く一樣に窮してゐる。之に由つて、外國は不平等を憂ひ、中國は貧を患とする事が判明

する。之れが內外社會狀態の大なる差異である。或は、中國には大資本家なしと說く人がある。これは實際の狀態で中國の地廣く物博きを以てするも、全國を通じて一千萬圓以上を有する資本家は百餘人に過ぎぬ。之れでは、どうしても資本家が在在するとは言ひ得ない譯だ。併し乍ら、中國には資本家がないから社會主義を說かずとも可なりとするのは、それは前車の覆るは、すはなち後車の鑒である事を知らぬ大間違である。歐米の社會が今日不平均に惱んでゐるのは、吾人にとつて極めて好い敎訓である。さうした不平均の病根は、矢張り、土地及資本の二問題を前以て解決しなかつたのに由る。故に民生主義を提唱し說明して來ると結局歸着する所、『土地』と『資本』との兩問題を解決せざるを得ないことになる。

我々は先づ『土地』問題を研究しよう。土地制度は歐米各國に於いては盡く異つて居る。英國の土地の多くは封建制度により、米國の土地は、完全に資本家が金錢を以て買入れたものである。余が民生主義の解決方法として『平均地權』を主張するのは、中國に於いては本來、單なる豫防策の意味であつたが、今日では最早、此の問題の端緒が現れ始めた。近來、廣州市の土地の如きは車馬道を設けて以來、長堤一帶及び其他の目拔の方面の地價が日に日に騰貴し、目下のところ每畝數萬元の値を呼んでゐる。斯樣に高い地價は中國內地の市場に於ては、洵に稀に見る事であ

るが、若し之を「ロンドン」、「パリ」、或は「ニューヨーク」に於ける地價の高騰と比較する時は、一畝の土地が、數十萬元、或は數百萬元に値するのだから、全く問題にならない。中國古代の最良の土地制度は井田制である。井田制の理論と平均地權の目的とは同一である。我黨の民生主義は元來國利民福を目的とするもので、平均地權は卽ち此の目的に達する方法である。此方法は從來實行せられた事はないけれども今から速かに計劃すれば未だ晩しとしない。繰返して述べるが、米國の如きは、元來資本主義の國家で、表面甚だ富裕の樣ではあるが大多數の民衆は却つて毫も幸福を享受する所なく、その許多の幸福を享樂するものは、ただ少數の資本家のみである。充分に他國を觀んとせば、徒らに其表面のみを觀るは不可である。一國中の各種の社會層を盡く明らかに見きはめねばならぬ。米國の「ヘンリー・ジローヂ」と呼ぶ哲學者は現代文明を說いて、宛かも尖銳なる錐を社會に入れて、錐の上にある社會を益々高きに昇らしめ、錐の下にある社會は壓迫して益々低からしめる如きものであると稱してゐる。此の道理によるが故に、近代社會に在つては富める者は愈々富み、貧しき者は愈々貧しからんとする趨勢が生ずる。現在我國人が社會主義を講究せんとするならば、まさに我黨の民生主義を講究しなければならぬ。我黨の民生主義には解決方法がある。その解決方法とは卽ち平均地權のことである。平均地權の一部分の手續

きとしては「定地價」(地價制定)がある。地價制定の手續に關して述べて見るに、〻嘗つて英國は此の方法を實行し、地價査定の官廳を設け、又査定地價に不服なるものの控所官廳を設けた。之れは英國の地價制定方法の大略であるが、此の種の方法は中國に於いては甚だ行つて宜しきを得難い。何となれば、中國人は官吏を怕れ、官衙に到つて公事を辨ずる事を怕れるから若しも一塊の地價を制定する爲めに、必ず官廳に兩三度も出向かねばならぬ樣では、其の煩はしさに堪へぬであらう。故に之れは普通一般の希望しない所である。余の制定に就いての方法は極めて簡單で而かも公平である。卽ち、人民自身をして地價を報告せしめ、政府の仕事は只二つに限られる。一は、原報告の地價に應じて其の百分の一にあたる稅率を徵收すること、他の一は報告の地價に依據して買收すること。この方法によれば敢えて政府を欺瞞し得ない。實際多額な地價を少額に報告したり、或は少額な地價を多額に報告する樣な事は起らず、その效能は甚だ妙である。何が故に、多額を少額に、少額を多額に報告する事は起らぬと說くか。それは、人民が自己の地價を政府に報告した後には、政府は一面には隨時その價格に應じて買收し得るし、また一面買收しない場合には、地價に基いて收稅し得るのである。從つて少額を多額と報告する者が有れば、その眞意は政府の土地買收を希望するもので、もし政府が買收せぬからと言つても報告した地價に基

く納税は當然せねばならない。だから多額の地價を報告すれば重税の損失を受けることになる。之れは少額を多額に報告する方面であるが此點政府は決して顧慮する所なくして可なりである。多額の地價を少額に報告するものは、固より税金を輕減せんと希望するものである。しかし假りに若し政府が卽刻原價に基いて買收せんとしたならば、その土地は減税しようとして却つて損失を招くことになる。之れは多額と少額と報告する方面であるが、之れ亦政府は何の顧慮する所なくして可なりである。多數の地主は此の明白な利害を知つて居る。だから多額の報告、少額の報告、兩者ともに總て危險のあることを考へ、結局、却つて中間の實際價格を報告するに如かずとする結果に歸するだらう。斯樣な方法は政府は費用と努力とを要せず、居ながらにして税金を收め得るし、地主も政府の扶助を得て大いに利益がある譯で、法の善なること、復た之れに加ふるものはない。地價の高低は一定せず、全く附近の交通の狀態と商業の隆盛につれて變化する。現在廣州では黃埔に至る一帶の地價が甚だ低く一畝二三百元の價に過ぎない。もし、黃埔が商港として開かれ黃州から一直線に黃埔に達する一條の車馬道を通じ、之れが完成を見た曉には、地價は必定昂騰し、將來昂騰する價格は恐らく同時期に於ける長堤の地價所ではあるまい。或は一畝の地價が五萬元を呼ぶかも知れず、土地を所有する者は一日にして富み、土地を所有せざる者は

一日にして窮するだらう。故に土地問題は實に大問題であつて、我々が豫めかかる土地關係に由つて貧しき者の愈々貧しく、富める者の愈々富むが如き惡例を防がんとするならば、民生主義を講じなければ不可である。又、民生主義を講ぜんとするならば、從來同盟會の定めた平均地權の方法を用ひねば不可である。此度の革命事業は尙未だ成功を見ない。革命の完全なる成功を想ふならば、先づ以て土地問題を解決せねばならぬ。

我々は更に資本問題を研究しよう。此の問題は現在世界の最も大なる問題であり、且つ最も解決困難なる問題である。從つて資本の既に發達せる國家に於ては、現在では全く適當な方法がない。中國は現在尙ほ資本が發達して居らぬ。我々は、まさに未だ禍の至らざるに先つて嚴重に法を設けて防備して、歐米の覆轍を再び踏むを免れなければならぬ。此の問題の解決に就いては、余は「實業計畫」と稱する一書を著した。其の主張は、外國資本を借り利益ある事業を選び、例へば市場を開設し、工場を新設經營し、鐵道を布設し、運河を治修し、鑛產物を採掘するが如き大いに利益を生む事業は一切公有に歸し、各種新事業の利益は盡く公共に繰入れるのである。例へば、此際北京政府が外資を用ひて京奉、京漢、津浦線等の如く、總ての利益ある鐵道を布設するのである。現在、中國の鐵道は總延長五六千哩を出でないが、毎年の收入は七八千萬元で、全

國の地丁に比較して遙に多額に上つて居り、全國各項の收入中、鐵道收入が第一位である。若し鐵道を延長して五六萬哩に到れば、此上更に儲かるだらう。外資を借つて鑛山を開發するのも甚だ有利な事業で、元來鑛山開發は欲損する理由がないのであつて、往々にして欲損するのは、經營が惡いからである。此點諸君の注意を喚起したい。余の主張する所の外資借入れは、外國の機械を借入れて生產事業を營まんとするのである。京奉鐵道の如きは、其の建設後利息が極めて高率で外人は買收に應ぜず、その利益を以てまた京張鐵道を布設し、此の鐵道をまた更に一路綏遠城に達せしめんとしてゐる。總括して云へば、外債は借入れてならぬものではないが、借入れた外資は必ず生產的事業に投ずべきで、消耗的費用としてはならぬ。

世界各國の社會狀態に就いて申述べると、現在、國內の最も秩序ある點では英國、米國に過ぎるものはない。英國米國の政治は、實に立派なものだが、併し彼等の國內には尙多數の人々が常に社會革命を煽動してゐる。之は抑々如何なる故であるか。其は民生問題が未だ完全なる解決を告げて居ないからである。此問題が一日解決されねば社會革命は一日だけ必要となる。諸君は更に社會革命の慘苦が政治革命の流血よりも尙一層激烈なることを知らねばならぬ。我黨從前の革命は滿淸を倒して以來、民族主義に關する限り一部分の成功を齎したが、民權主義と民生主義に

至つては寸毫も效果を收め得るに到らぬ。故に、現在の革命は民權主義及び民生主義を實行するのみでなく、併せて現代の潮流を受入れて民族主義をも顧みなければならぬ。現今の民族主義は如何なるものであらうか。歐洲戰爭終了後、米國の「ウイルソン」大總統は世界各民族の大勢に鑑み、彼の『民族自決』論を主唱した。かかる『民族自決』論が、乃ち我黨の民族主義である。其後、巴里平和會議完了後、歐洲中部には早速多數の新しく獨立した民族國家が成立し「チェッコ・スロバキア」の如きは其の最も著名なるものである。諸君は、之に由つて現代民族思潮を察し得るであらう。

我黨の終始一貫せる最大目的は、民族、民權、民生の三個の主義の各々の計畫を同時に完成せしむるに在る。此三種の計劃を完成せば乃ち我黨の主張は達成するので、始めて强國富民の目的を達して人民は眞正の幸福を享受し得るのである。此の三種の計劃を行はんとするには、諸君の努力を希望しなければならぬ。又更に諸君は先づ宣傳を行はねばならぬ。我々は現在此の三計劃をなすべき實に絕好の機會にある。何となれば廣東は旣に我々の手中に落ち我々の策源地となつたからである。此省の人口は甚だ多く、總數凡そ三千萬、諸君は我黨の主張を廣東全省の人民に宣傳し、人々の腦裡に總て我が三民主義を了解せしめねばならない。此際若し速に宣傳に從事せ

ずして、將來廣西の土賊共が逆に攻擊し來る樣なことがあるならば、我等は宣傳計劃を實行するの機會を逸し去るであらう。十數年前、余は「革命方略」なる一書を著し、其の中、地方自治に就いては「縣長」の民選を主張した。現在廣東の縣長は既に民選を實行し積極的に民治を提唱してゐる。諸君、廣東の人民はかゝる程度に達してゐるか否か、考へて見給へ。余から觀れば、彼等は尙ほ此の程度に達して居ない樣に思はれる。既に此程度に達せずして、無闇に民選を實行せんとするのは、徒らに混亂せしむるものである。民治主義は我黨元來の主張で、之を實行すべきは當然であり疑を容れぬものであるが、此際我等の主張を實現せんとせば、徒らに混亂することなく、一般人民をして盡く其の程度に達せしめた後、之を實行すべきである。故に寧ろ此際は宣傳運動を行ふべしとなすのである。

余は最近ある感想を抱いてゐる。英米の政治は頗る發達してゐるが、政權は必しも普通人民の手中にあるのではない。然らば、誰の掌中にあるのだらうか。直截に云ふならば知識階級の手中にある。知識階級が國家の政權を掌握してゐるのを、稱して政黨政治となすのである。たしか余が今回廣東の歸途香港を通つた時と記憶するが、新聞紙が我等の廣東歸來は廣東人が廣東を治むるものではなく、實際は黨人が廣東を治むるのであると評した。此の言說を爲した人は固より別

に考ふる所有つての事であらうが、我等も亦喜んで之を承認し、今後とも黨人を以て廣東を治むる旨を主張せんとするものである。何となれば、黨を以て國を治める事は、英國、米國に引用すべき先例があり、如し今後果して廣東に於て我黨の主義を實行に移し得れば廣東人の絕大なる幸福となるからである。我等が黨を以て國を治めんとする目的を達せんとせば、今日すぐ樣着手して、團體を結合すること、我黨の黨員を訓練すること、我黨の主義を宣傳することに着手すべきである。諸君にして三民主義に對し未だ明瞭ならざる個所が存するならば、遠慮なく隨時余に質問せられたい。余は、必ず詳細に答辯するだらう。諸君が此處を去つて一般的宣傳を行ひ、人民をして三民主義を了解せしめるには、先づ自身が三民主義を了解する必要があるからである。所謂、先知先覺なる者は、必ず自己が先づ理解して然る後に始めて人をして理解せしめるので、自己が理解せずして能く人を理解せしめ得る者は斷じてない。現在、廣州には既に中國國民黨の「特設辨事處」が設立されてゐる。之は、我々の廣東に於ける黨員の訓練、主義宣傳の總機關であり、之より次第に擴張充實せんとしつつあり、前途は洋々たるもので、將來は廣東全省を吾黨の主義實行の試驗場、民治主義の發源地となし、更に廣東を擴充して全國に及ぼし、長江黃江一帶の各省も總て我黨の主義によつて治めねばならぬ。諸君は、我黨の主義が、宣傳に急を要する理由は

何であるかを理解せねばならない。其れは、民國は成立して十年に及ぶけれども一般人民は未だに共和の何たるかを理解しないからであり、彼等は自己を見るに國民たるを以てせず全く遺民と考へてゐるからである。彼等は自ら遺民を以て任じてゐるから、總て眞に天命を受けた天子の出現を待ち、太平の臣となり奴隷的の百姓たるべく準備につとめてゐる。諸君、考へて見給へ。かゝる狀態の下に如何にして縣長民選を行ひ得よう。我等は將來斯る狀態を致さない爲に積極的に三民主義を宣傳し「黨人廣東を治む」の主義を實行せねばならぬ。之には盡く我等黨人の努力遂行を要する。三民主義を遍く實行し、其の次には五權憲法を實行せねばならぬ。三民主義と五權憲法との實行は實に我黨の眞精神である。諸君よ。余は我黨の眞精神を、此地より發揚して光輝あらしめ、全中國に遍く及ぼさん事を希望してやまない。

四十四、三民主義は新世界建設の工具である

—民國十年十二月七日、桂林の軍人、政治家、教育家七十六團體の歡迎會席上にて—

桂林の軍・政・學各方面の諸君。諸君が今日、此の盛大なる會を開いて本總統を歡迎下さるゝ事

は、誠に感謝に堪へない。本大總統が今回、軍を率ひて北伐のため當地を過ぐるに當り、此の機會を藉りて諸君に御目にかゝる事を得たのは、大きな因緣とも云ふべき次第であるが、余は諸君の今日の歡迎は單に本總統個人を歡迎するのみに止らないものと考へる。即ち諸君が本總統の革命主義を歡迎される樣希望するのである。

中華民國の由來に就いて申上げたい。諸君の御承知の如く中國最近十數年間の大變動は古より未だ曾つて見ない所である。此の大變動とは何であるか。即ち、中國有史以來の政治制度を根本から破壞して、別に一の新組織を作りあげた事である。此の新組織とは簡單に述ぶれば、即ち數千年來の專政を一變して作つた共和である。共和成立以後十年を經過したけれども、併し實際には何も實行されて居ない。之は如何なる理由に基くのであらうか。共和は革命に依つて成つたが、現在全國の人民の大多數は未だ革命の道理の何たるかを明かにしない爲め、從つて共和を如何にして實行すべきかを知らない。國家に至つては、表面上は共和の看板を揭げては居るものゝ、行政上には依然として進步がない。考へた所此十年來の全國に於ける建設事業中見るに足るものは全然一件もないのである。例へば廣西の一省に就いて云ふならば、全省の人民は滿淸は既に覆滅した事を知つては居るが、遊俠出身の陸榮廷が飛出して來て、一群の强盜共が政權を掌握してし

まひ、廣西の一省をかき廻したばかりでなく、廣東にまで盤據して、阿片を賣り賭博を開き、爲めに兩廣の人民は生計日に日に窮迫し、みな、追はぎか强盜でも行つて目前の月日を過さうとさへ考へるに至つた。從つて、兩廣は盡く土匪の世界に變じてしまつた。現在でも、なほ數多の廣西人は共和の長所を知らざるのみか、反つて天命を受けた天子の出現を希望し、或は滿清の復辟を希望してゐる。民國を再び帝國に變ぜしめんとする心、此の心は獨り廣西人がさうであるばかりでなく、全國大多數人の普通の心理も、大概之と同樣である。本大總統も亦、常々農村(地方)の人々が、「國は亂れ民は窮してゐる。眞に受命の天子は何時の日に出現するのだらうか」と云ふ聲を耳にしてゐる。現在、全國にかゝる舊思想を抱く人は、なほ頗る多い。若しも、四億の人々が盡く斯樣な舊思想を抱いてゐるならば、共和の基礎は如何にして安固たる事を得ようか。

諸君は、共和と專制とは如何なる差別があり、民國と帝國とは如何なる異同があるかを明瞭にせねばならぬ。余は、此點に就いて現在の民國と、以前の帝國との二つの名詞を比較することによつて申上げてみたい。以前、帝國の天下は皇帝一個人のものであり、天下の人民は皆皇帝の奴隷であつた。現在、民國の天下は、人民公有の天下であり、國家は人民公有の國家である。帝國は皇帝一個人が主人公であり、民國は人民一同が主人である。今日、本大總統を歡迎して下さる

諸君は、絶對に左樣な舊思想を抱かれてはならない。本大總統は國會の付託を受け全國の政權を總攬してゐる、云はば全國の行政長官ではあるけれども、實際は全國人民の公僕である。本大總統は今度諸君の奴隷となつたが、其餘の文武百官も無論皆、諸君の奴隷である。以前帝國の時代には四億の人々は皆奴隷であつたが、現在民國の時代に於いては諸君は皆主人公である。之れ卽ち民國と帝國との同じからざる點であり、又、之れは中國に於いて古より嘗つてない大變動である然し普通の人民は更に此の變動を知らない。十年以來一般舊官僚と軍閥とは、死ぬ程人民を壓制し、橫暴にも人民をして今に至る迄尙ほ主人公たるの地位に就くを得ざらしめてゐる。諸君、諸君は以前の人民は皇帝の奴隷であつたが、我が革命黨が革命主義によつて專制皇帝を推し倒して遂に人を奴隷の地位より主人公の地位に乘越えさせた事を知らねばならぬ。現在諸君は、みな主人公の地位にあるのである。今日は本大總統を歡迎して下さつたが、本大總統の更に希望する所は、諸君が民國の主義、革命的理論、中國革命の理論、卽ち革命黨が平常主張する三民主義を歡迎されることである。革命黨の同志は從來より三民主義を主張し、革命に從事すること十數年にして始めて滿清を覆滅し民國を創建した。而して本大總統は其の三民主義の主唱者である。今日、諸君は本大總統を歡迎せられたが、更に本大總統の主張する三民主義を歡迎せらるゝ樣、諸

君に希望したい。三民主義がよく實行されてこそ、民國もはじめて建設宜しきを得るであらう。もし、人民が三民主義を理解しなかつたならば、民國の前途には、毫も希望を見出せない。三民主義は卽ち民國の精神である。諸君、民國の精神を歡迎してこそ、それでこそ眞實の歡迎と云ひ得るのである。

三民主義とは民族主義　民權主義、民生主義である。此の三つの主義と、前米國大統領「リンカーン」の說いた「人民の」、「人民による」、「人民のため」、の三つの思想とは完全に一致してゐる。「人民の」と云ふ考は卽ち民族主義である。我が革命黨は抑も何が故に民族主義を提唱するのか。滿淸の專制二百餘年に及び、我が漢民族は亡國の痛苦を受けたが、將來とも世界の潮流の壓迫を蒙り、人種の絕滅せんことを恐るゝが爲である。故に、少數人が先づ專制的な異民族を除去せねばならぬ旨を提唱鼓吹し、然る後全國民が之を悟り、竟に中國の征服者たる滿淸を根底から覆して中國の統治權を漢人の手裏に奪還し、中國の領土は完全に漢人の所有となつたのである。此の十年前に於ける革命の成功は、卽ち民族主義の成功である。故に民族主義は「人民の」なる意味と同樣である。革命成功以後、中國の土地と主權とは旣に滿淸皇帝の手より奪回して中國人民の掌裡に收めたが、併し我々人民は徒に政治上の主權の空名を有するのみで、政治上の實際の主權を持

たない。之れでは依然として國を治むる事は出來ぬ。必ず政治上の主權を實際に人民の手中に收めねばならぬ。それでこそ初めて國も治められ、眞の「民治」と呼ぶ事も出來る。此の民治の理想に達する原理を、民權主義と稱するのである。民生主義に至つては、之れは人類の思想の覺醒によつて出で來つたもので、我々が旣に土地と主權とを有するからには、完全なる方法によつて之れを享受するならば自然生活上不足のない幸福に達し得るものであるが、此の如何にして生活上の幸福を享受するかの原理が、卽ち民生主義と呼ばれるのである。故に、民有（人民の）民治（人民による）民享（人民のため）が卽ち本大總統の平常提唱してゐる三民主義なのである。

三民主義の原理は元來一貫せるもので、今若しそれ等の發生せる順序を考究してみるならば、世界各國は盡く、先づ民族主義から民權主義に進み、更に民權主義から進んで民生主義に到つてゐる。若しまたそれ等の發生せる原因を考究するならば、この三主義はいづれも不平等の反動として生じ來つたもので換言すれば三民主義は平和と自由を主旨とする主義である。民族に就いて云ふ時、そこに如何なる不平等が有るであらうか。簡單に述べると、政治上の不平等が之れである。或國が他の一國を壓制し、或る民族が他の民族を壓制し、其の壓制が激しければ激しい程、反動も亦激しい。我中國に就いて述べると、古來華夏の區別は極めて嚴重で、古より今に及ぶま

で全く我々漢人は自ら中國を治めてきて居る。ただ其間亡國の痛苦を嘗めること二回に及んだ、即ち第一回は蒙古によつて亡びて元朝となり、第二回は滿清によつて亡びて清朝となつた。然し今や革命黨は二百餘年間の清朝專制君主を倒した。これぞ民族主義を提唱せる結果である。歐米諸國の主張する民族主義も大體我等の主張と同樣である。

民族主義は人類思想の中で最も早く發達したが、其後自らの民族は他民族の壓制は受けぬが、自國內に在つて特殊階級の壓制を受け、例へば皇帝、貴族の如きは高く位して人民は彼等の壓迫下に、動かんとするも動き得ざるに至り、壓迫を受ける苦痛は、やがてその反動を招來し、民權を主張して君權に反對するに至つた。故に歷史的に觀察すれば、民權主義は常に民族主義の後に來る。最近二百年來、民權思想は頗る發達し君權は退步した。世界の諸國家も多くは既に共和制に變じ、共和國に改まらぬものも亦君主專制を立憲に改めて君主の權力を制限した。されば現在全世界の諸國家は、共和に非ずんば即ち君主立憲であり、專制政府は跡を絕つたと云ふも差支へない。共和國中歐米に於いて最も著名なものは、從來は佛蘭西、瑞西共和國、現在は露西亞、其他戰後建設された諸共和國、北米に於いては亞米利加合衆國で、南米の諸國は一として共和國ならざるはない。之によつても近來民權主義が如何に發達したかがおわかりになるだらうと思ふ。

民權主義から更に一步を進めれば即ち民生主義である。現在歐米の佛米兩國の如きは、既に皇帝による專制なく人民は極めて平等自由であり、民權は極度に發達してゐる。併し只、民有「人民」の民治「人民による」を說くだけで、未だ民享「人民のため」には說き及んで居ない。試みに見給へ、彼等の國內の民衆は資本家の壓制を受け、貧民は富豪の壓制を受けてゐる。石油王、鋼鐵王、鐵道王等の如きは、その一人の富を以て一國を敵とするに足る程であるが、一般民衆と勞働者とは、一片のパンすらなか〳〵に手にし得ない。何と不平等な有樣ではないか。されば歐米に於いては將に貧富不平等の大問題が生ぜんとしてゐる。この問題は即ち社會問題であり、此の問題解決の理想こそ民生主義である。民生主義は民衆が資本家に反對し、貧民が富豪に反對する行動である。歐米諸國に在つては、民族と民權の兩問題は早く解決濟みで、現在受けてゐる痛苦は專ら民生問題である。中國は從來斯樣な問題はないのに、本大總統が三十年前に新中國建設の方法を研究して民族民權兩主義の外に、更に民生主義を主張したのは如何なる故であるかと云ふに、此の民生主義は、二十世紀以後の新國家を建設する完全な方法の一つで、此の三種の主義が並び行はれてこそ始めて眞正な共和の基礎が堅固に築れ得るからである。本大總統の斯樣な主張は、法を上に則つたもので、陋によつて簡についたものではない。中國の一新局面を作らんと

せば新組織を採用せねば不可である。新組織を採用せんとせば、極めて完全なる三民主義を實行せねば成功しない。

歐米各國は二百餘年以來、漸くにして民族、民權の二事の解決を明にし得たが、却つて最も重要な民生問題を忘却してしまひ、現在では各國の權力は盡く少數資本家の手中に在つて操られ、只だ少數のみが幸福を味つて大多數は却つて苦痛を嘗めてゐる。然し大多數の人々はかかる苦痛を甘受するものではないから、現在では經濟革命即ち社會革命の情勢を孕んでゐて、常に危險が存する。我が中華民國は若し民生主義、民權主義、民族主義を同時に解決すべく、一勞を以て永逸を得る方法を用ひるならば、必ずや現在の中國をして莊嚴燦爛たる中華民國と變ぜしむるだらう。然し我等が若し此の三個の問題を同時に解決せざれば、たとへ將來國富み民强くとも數十年を出でずして必ず歐米の今日と同樣の苦痛を受けるに至るであらう。當時歐米人は思へらく、政治は平等、人民は自由で、工業が發達すれば、それこそ黃金世界で如何なる問題も生じないと。料らざりき、商工業發達後、大資本家を生じ、彼等は金錢の勢力を以て政權を操縱し、事毎に優勝者たる地歩を占めんとは。試みに見給へ、法律、政治、制度は、悉く資本家によつて設けられて居る。故に現今に至つては世界には經濟革命の波が日に日に高まりつつある。これは即ち民衆と

勞働者とが富豪及び資本家に對する反動であつて、新聞紙上に掲載される同盟罷業、工場破壞、會社燒打等種々の報導は總て貧民が資本家に反對せる行動で、各國盡く不安に陷つてゐる。彼等がこの不安を受ける苦惱は、實は外でもない、全く民生問題を解決せぬ所に原因してゐる。されば こそ貧富の衝突を生じ經濟革命を釀成するのである。佛國に於いては數十年前、嘗つて一回經濟革命が發生したが久しからずして失敗した。露國は近來政治革命と同時に經濟革命を實行し、一面には皇帝と貴族を打倒し、同時に又資本家を倒した。現在露國民が受けてゐる苦痛は非常なもので、革命の結果如何は今日之を豫想する事が出來ない。本大總統は世界の大勢を觀察し、本國の情勢を默想して、民族革命、民權革命は必ず民生革命を顧慮せねばならぬ、かくてこそ、將來の經濟革命を免れ得、禍を未然に防ぐものであると考へる。

諸君、革命は止むを得ずして行ふものである事を了解せねばならぬ。革命は破壞事業で、家屋を破壞するのと全く同樣である。我々は同一場所に新しい家屋を建築せんとすれば舊家屋を取りのけざるを得ない。新國家を建設せんとすれば、即ち舊國家を破壞せざるを得ない。この破壞を稱して革命と云ふのである。國家を建設するに三十年の年月を要するのは、宛も家屋を建築するに三ヶ月の日子を要すると同樣である。家屋を取り壞すにはよし一日を要するに過ぎなくとも家

屋を作るには三ケ月を要する。而して人々が家屋を新築するのは皆一代安樂に住むのが目的で、今日立派に作り上つたものを明日取壞はさんが爲めではない。又、明日立派に作り上げて更に明後日之を取壞はさんが爲でもない。我等の革命も之と同樣の理屈で、今年革命ならざれば、明年又革命につとめ以て徹底的方法を用ひねばならぬ。それでこそ永久に幸福を享け得るだらう。若し然らざれば破壞事業は永久に終る時がない。故に民族問題を解決せんとするならば、同時に民權問題を解決せぬ譯には行かない。又民權問題を解決せんとするならば、同時に民生問題を解決せぬ譯には行かない。此の三民主義は種々の苦痛を救ふ處方箋である。此の三問題が若し同時に解決したならば、我等は初めて永久に幸福を享受する事が出來る。若しも、民有（人民の）民治（人民による）の目的を達成し得ても、民享（人民のため）問題に觸れなかつたならば、二三十年後に必ず再び或る種の苦痛が發生する。現在の露國は即ち我等にとつて好標本である。我々が充分に注意せねばならぬ事は、我々の國情が歐米各國とは異つて居ると言つてはならぬ事である。我々が若し國家を建設し了へたならば、またかの歐米各國の如く國富み民强くなるであらう。我々が民生問題を今日に於いて同時に解決し得たならば、將來の經濟革命の苦痛は免れ得るが、民生問題を同時に解決し得なかつたならば、將來人民中富むのは、少數人のみで、多數人は富み得な

い。斯樣な少數人の富は眞の富でなく、多數人の富こそ眞の富である。故に我々は國家を永遠に富强ならしめる原理を持たねばならぬ。此の原理が即ち三民主義である。さに再び桂林の現狀について申上げよう。若し桂林を改良しようと考へるならば、必ず行はねばならぬ方法は、學校の設置、河川の改修、道路の修築、農工商業の發展策等で、之が爲の計劃は誠に多く、一時には說き盡せない。假りに此等の大計劃を實行したとするならば、桂林は別種の新天地となるだらう。固より桂林本來の好處が說き切れぬ程あることは云ふ迄もない、單に周圍の風景のみに就いて云ふも、眞に山淸水秀、天下に甲たるもので、實に素晴らしい。然し、街道が甚だ狹隘で自動車も馬車も通行出來ぬ爲め、十分に美麗な景色を眺められない。之に馬車道を廣州と同樣に開設し東西南北四通八達し得れば、更に一層の好風景ではあるまいか。即ち若し今年から工事を起し、街道を改良し交通を便利にしたならば、明後年に至れば必ず其の影響は土地問題に表れて來るだらう。（土地問題は經濟問題中の大要素である）何となれば、馬車道路が開通すると沿道兩側の地價は忽ち騰貴し、道路未設以前一畝の地價一千元のものは、道路開通後には交通便利の爲め兩側の商賣が繁昌を來し、人々はその近邊の地面（地皮）を買ひ、西洋式の大建築を建てて商業を行はうと考へる。從つてその一畝の地面の價格は必ず一萬元、或は數萬元內外に騰貴し、斯樣な地面を十

畝乃至百畝所有する人は、道路開通後立ろに大富豪に變じてしまう。斯く多少地面を有する人は、道路開設以前に於いては、或は舊家屋を取り壊して新道路を開設する事に反對する者もあらうが、併し道路が開通した曉には、當時反對した人々も手を動かさず心を勞せずして、只交通の便によつて其の所有地面の價格を釣上げ得る。從つて若し貧民が低い價格で僅の地面を買つて住居を作らうと考へても、容易なことでは手に入れ得なくなる。廣州の長堤一帶の地面の如きは、以前馬車道路のない頃は、一畝の地價は數百元から一二千元に過ぎなかつたが、現今では全廣州の馬車道が盡く築造された爲め、地價は非常に高額に騰貴し、一畝五萬元から十萬元内外の價格を有するに至つた。滿場の諸君は、どなたも上海に御出でになつた事と思ふが、上海の馬車道の兩側の地價は現在では、之れも十幾萬元の値を呼んでゐる。

以上示した例は、土地問題に影響を及ぼすものとしての馬車道路の開設、交通の便利等であるが、之れは一個の原因を略述したに過ぎない。若し他の原因に說き及ぼすならば、農業の改良、工業の發達、礦山の採掘の如きものがあり、商業が隆盛となれば更に多數の極めて大なる資本家が生ずるだらう。左樣な時代に至れば大資本家は更に小資本家を併呑し、宛かも大魚が小魚を食ふが如きものである。其の結果として、社會は資本家と勞働者の二種類の人間のみとなる。換言

すれば、工業商業の極端に發達した後は、ただ大富豪と貧民との兩種あるのみとなる。斯樣な時代になると、貧民は生活上の關係から富豪の牛馬となり奴隷とならざるを得ない。若し彼等の牛馬となり奴隷とならねば、食ふに食がない、即ち生活を續ける事が出來ない。故に富豪の勢力は非常に强大となり、貧民の勞働は非常な苦痛となる。これが富豪の貧民を壓制する暴虐な有樣である。從來、皇帝や貴族は人民を壓制するが、彼等は時には多少の責任を負ふ。然るにかかる大資本家はか弱い人民を壓制し乍ら毫も責任を負はうとはしないのである。我々はかかる缺陷を察知するが故にそれが豫防の方法を講じなければならない。これ政治問題解決の時に、同時に亦人民の生計問題を解決せんとする所以である。歐米が從來採つた解決方法は尙ほ不徹底で、ために今日の苦痛を嘗めて居る。故に我々は一の完全無缺な新世界を建設しようと考へる時、何としても三民主義を以て此の新世界建設の利器としなければならない。以上、其の大體を要約するに、民有、民治、民享の三主義を一齊に實行し人民の生活、權利に眞正なる自由平等あらしめてこそ、初めて資本家の壓制を免れ、永久の幸福を享樂し得るのである。民生問題が解決しなければ、社會の貧富は全く平均しない。其の昔、孟子は、「貧を患へずして均しからざるを患ふ」と言つてゐるが、若し「均しからざる」ものが有るならば、三十年後に革命なくも五十年後百年後には必ず

革命しなければならない。我々は永遠に二度と革命せぬ様防止せんとするならば、何としても三民主義を實行しなければならない。かくてこそ、子々孫々に替つて永久の幸福を謀るものと云ひ得るであらう。本大總統の今回の來意は、中國をして一の新世界たらしめんとするにあり、三民主義は卽ち本總統が新世界建設の利器として携へ來つたものである。諸君は今日本大總統を歡迎して下さつたが、本大總統の諸君に要求する所は、諸君が大いに元氣を振ひ起し一齊に同心協力して此の新世界たる新中國を建設せられんことである。

孫文全集（第六巻）終

『孫文全集』（第六巻）
㊒定價金壹圓六拾錢
譯者　外務省調査部
發行者　東京市京橋區銀座二丁目二番地　上村哲彌
印刷者　東京市下谷區上野山下町二　栗原光三
昭和十五年十二月十五日　印刷
昭和十五年十二月二十日　發行

不許複製

發行所　東京市京橋區銀座二丁目二番地三
第一公論社
電話京橋(56)六四七三番
振替東京六一八八六番

파2J91

外務省調査部譯編

孫文全集（全七卷）

第一公論社版

四六判上製各五百頁
定價 各一圓六十錢
送料 各 十四錢

第一卷	三民主義	第一回配本
第二卷	建國方略	第二回配本
第三卷	革命方略 大亞細亞主義	第五回配本
第四卷	ロンドン遭難記 中國革命史 中國存亡問題	第四回配本
第五卷	講演及び談話篇	第三回配本
第六卷	五權憲法 國民黨政綱 建國大綱	第七回配本
第七卷	書翰・遺言・電文 主要著作年表並索引	第六回配本